

平成 25 年度 ヒヤリ・ハット調査

「乳幼児のやけどの危険」

(インターネットアンケート)

平成26年2月

東京都生活文化局消費生活部生活安全課

目 次

1.	調査目的	1
2.	調査概要	1
	(1) 調査対象	1
	(2) 調査時期	1
	(3) 調査方法	1
	(4) 調査内容	1
	(5) 回答者の属性	2
	(6) 回答者の子どもの属性	2
3.	調査結果（全体）	3
	(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の有無	3
	(2) 危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所	4
	(3) 危害、ヒヤリ・ハット経験における危害程度	5
	(4) 危害、ヒヤリ・ハット経験の原因となった製品	6
	(5) 危害、ヒヤリ・ハット経験した子どもの年齢、性別	7
4.	調理用品等によるやけど	16
	(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（調理用品等）	16
	(2) 製品・場面別：据え置き型調理器具	17
	(3) 製品・場面別：卓上調理器具	18
	(4) 製品・場面別：電気ポット	19
	(5) 製品・場面別：電気ケトル	20
	(6) 製品・場面別：電子レンジ・オープン	21
	(7) 製品・場面別：炊飯器	22
	(8) 製品・場面別：瞬間湯沸かし器	23
	(9) 製品・場面別：食物・飲物	24
	(10) 製品・場面別：その他（調理用品等）	25
5.	浴室、洗面、トイレ用品等によるやけど	26
	(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（浴室、洗面、トイレ用品等）	26
	(2) 製品・場面別：浴槽内	27
	(3) 製品・場面別：シャワー、蛇口・カラン等	28
	(4) 製品・場面別：ヘアドライヤー	29
	(5) 製品・場面別：洗濯機・乾燥機	30
	(6) 製品・場面別：洗剤・薬品等	31
	(7) 製品・場面別：ヘアアイロン	32
6.	生活用品や暖房器具等によるやけど	33
	(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（生活用品や暖房器具等）	33

(2) 製品・場面別：アイロン	34
(3) 製品・場面別：電気ストーブ	35
(4) 製品・場面別：石油ストーブ	36
(5) 製品・場面別：ファンヒーター	37
(6) 製品・場面別：こたつ	38
(7) 製品・場面別：電気カーペット・床暖房	39
(8) 製品・場面別：電気コード・アダプター	40
(9) 製品・場面別：パソコン・スマートフォン	41
(10) 製品・場面別：加湿器	42
(11) 製品・場面別：照明器具	43
(12) 製品・場面別：湯たんぽ・電気あんか	44
(13) 製品・場面別：ウォーターサーバー	45
(14) 製品・場面別：ライター・たばこ	46
7. 住宅以外におけるやけど	47
(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（住宅以外）	47
(2) 製品・場面別：花火	48
(3) 製品・場面別：バーベキューの鉄板	49
(4) 製品・場面別：屋外にある金属製品	50
(5) 製品・場面別：アスファルト	51
(6) 製品・場面別：車・バイク等の金属部分	52
(7) 製品・場面別：日焼け	53
(8) 製品・場面別：自動販売機の飲料	54
(9) 製品・場面別：自動給茶機等	55
(10) 製品・場面別：飲食店の食べ物	56
(11) 製品・場面別：その他（住宅以外）	57
8. やけどへの意識について	58
(1) 子供がやけどにならないようにこころがけていること	58
(2) 子供が危害、ヒヤリ・ハット経験した原因	59
(3) やけど防止のため改良して欲しい製品	60
9. まとめ	61

1. 調査目的

ケガに至らないような、「ヒヤリとした、ハットした。」というような経験をして、消費生活センターなどへ相談する人はごくわずかで、商品やサービスに起因する事故情報は埋没してしまっている。しかし、これらの情報の中には重大な事故につながるものもある。

東京都では、このようなヒヤリ・ハット情報をインターネットアンケートにより積極的に収集し、事故防止対策に活用している。

今回は、乳幼児（0歳から6歳（未就学児））の日常生活におけるやけどの実態を把握するための調査を行った。

2. 調査概要

（1）調査対象

東京都、神奈川県、千葉県及び埼玉県に在住する0歳から6歳（未就学児）の子供を持つ20歳以上の男女、3,000人。

（2）調査時期

平成25年8月23日（金）から9月6日（金）まで

（3）調査方法

インターネットによるアンケート形式で実施

（4）調査内容

本調査では、回答者の子供がやけどをした又はやけどしそうになった（ヒヤリ・ハット）状況を様々な製品等ごとに、選択方式の設問で「やけどしそうになった、発火・発煙しそうになった（ヒヤリ・ハット経験）」、「やけどをしたが病院は受診しなかった」、「やけどをして病院を受診（入院なし）」、「やけどをして病院を受診して入院した」及び「やけどはしなかったが、発火・発煙した」と回答した項目の中から、経験時の年齢及び経験をした場所、その状況等を回答してもらった。

当調査における

ヒヤリ・ハット経験とは：

「熱せられたアイロンに触りそうになった。」「ガスコンロをいたずらして周りの物を燃やしそうになった。」等、実際にはやけどや発火・発煙等には至らなかったが、危ないと感じた経験を指します。

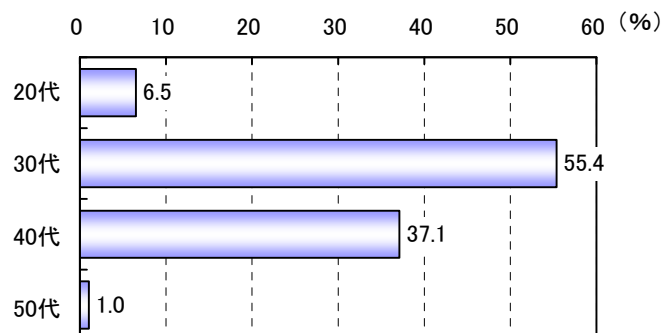
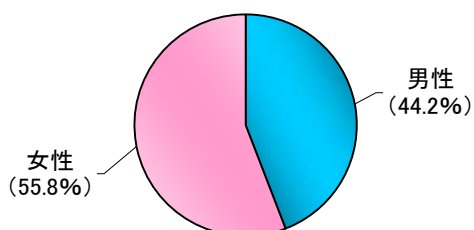
危害経験とは：

「やけどした」または、「発火・発煙等をさせた」経験を指します。

(5) 回答者の属性

男女別	男性 44.2% (1,326 人) 女性 55.8% (1,674 人)
年齢	20代 : 6.5% (195 人) 30代 : 55.4% (1,661 人) 40代 : 37.1% (1,113 人) 50代 : 1.0% (31 人)

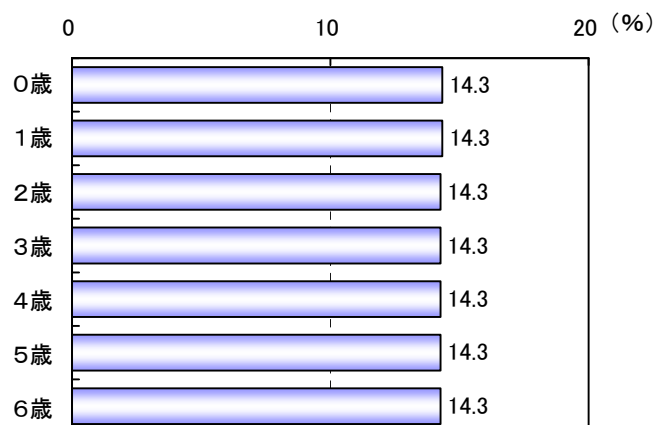
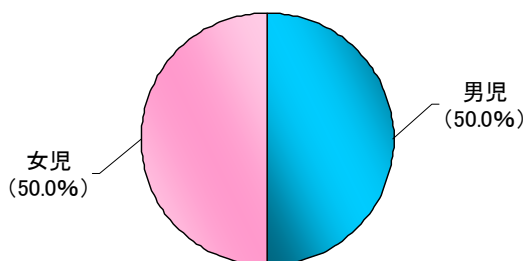
(n=3,000)



(6) 回答者の子供の属性

男女別	男児 50.0% (1,500 人) 女児 50.0% (1,500 人)
年齢	0歳 : 14.3% (430 人) 1歳 : 14.3% (430 人) 2歳 : 14.3% (428 人) 3歳 : 14.3% (428 人) 4歳 : 14.3% (428 人) 5歳 : 14.3% (428 人) 6歳 : 14.3% (428 人)

(n=3,000)



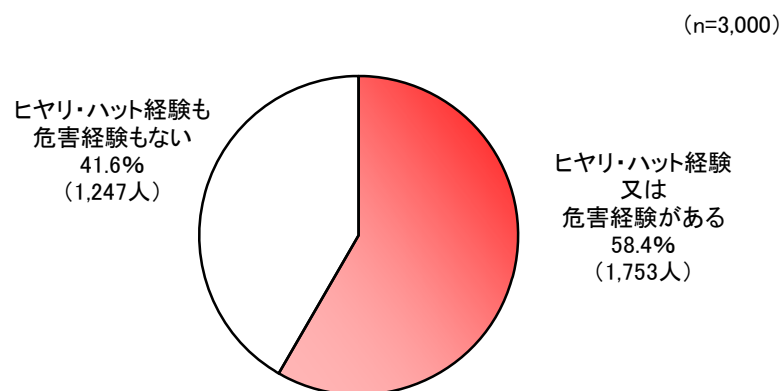
3. 調査結果（全体）

（1）危害、ヒヤリ・ハット経験の有無

〔図表3-1-1〕は、当調査における、製品・場面ごとのやけど経験に関する設問の中で、1つでも「やけどしそうになった、発火・発煙しそうになった（ヒヤリ・ハット経験）」、「やけどをしたが病院を受診しなかった」、「やけどをして病院を受診（入院なし）」、「やけどをして病院を受診して入院した」及び「やけどはしなかったが、発火・発煙した」と回答した方を『ヒヤリ・ハット経験又は危害経験がある』とし、すべてのやけど経験に関する設問において、「ヒヤリ・ハット経験も危害経験も無い」と回答した方を『ヒヤリ・ハット経験も危害経験も無い』とし、集計を行った結果である。

『ヒヤリ・ハット経験又は危害経験がある』が58.4%（1,753人）となっており、全回答者の6割近くを占めている。

図表3-1-1 危害、ヒヤリ・ハット経験の有無

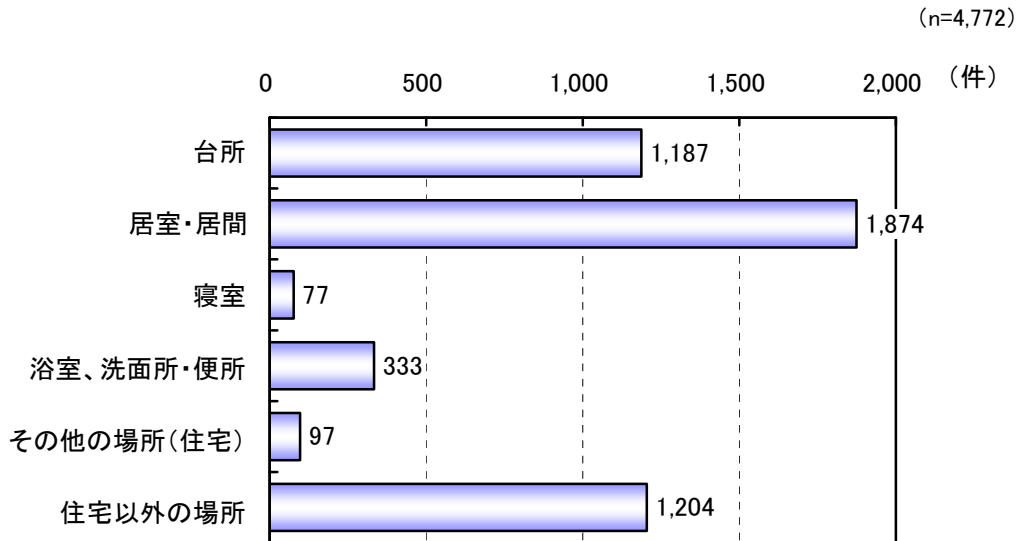


(2) 危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所

〔図表3-2-1〕は、当調査で回答された4,772件の危害、ヒヤリ・ハット経験について、その経験した場所を尋ねた。

「居室・居間」が1,874件で最も多く、次いで花火や夏の日差しに熱せられた遊具やアスファルト等、「住宅以外の場所」におけるやけどが1,204件、「台所」が1,187件と続いている。リビングダイニングのダイニング部分での経験については居室・居間の経験として計上

図表3-2-1 危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所

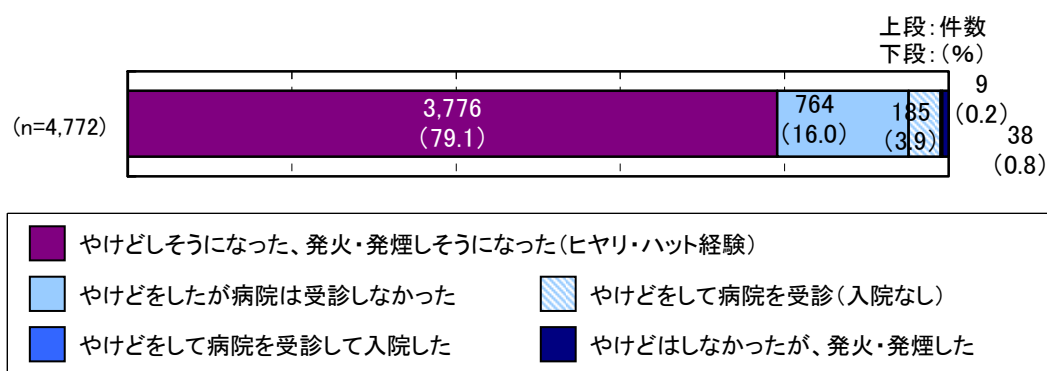


(3) 危害、ヒヤリ・ハット経験における危害程度

〔図表3-3-1〕は、当調査で回答された4,772件の危害、ヒヤリ・ハット経験について、その危害程度を尋ねた結果である。

「やけどしそうになった、発火・発煙しそうになった(ヒヤリ・ハット経験)」が3,776件(79.1%)で最も多く、次いで「やけどをしたが病院は受診しなかった」が764件(16.0%)、「やけどをして病院を受診(入院なし)」が185件(3.9%)、「やけどはしなかったが、発火・発煙した」が38件(0.8%)、「やけどをして病院を受診して入院した」が9件(0.2%)と続いている。

図表3-3-1 危害、ヒヤリ・ハット経験における危害程度

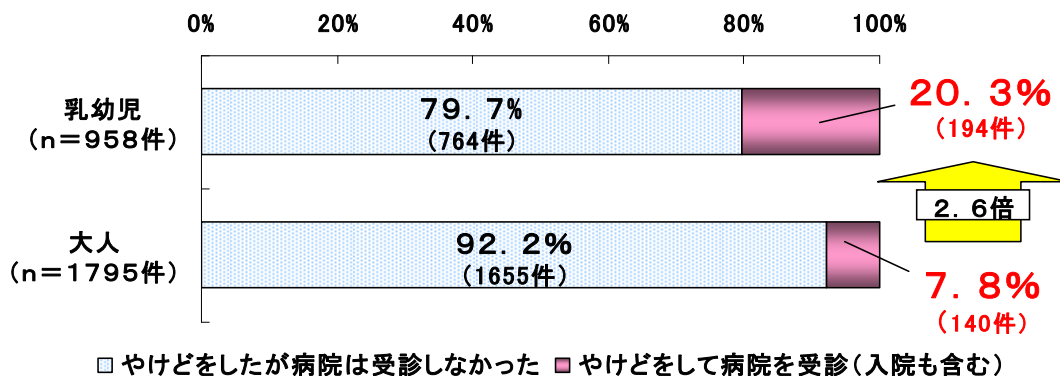


《参考》大人と乳幼児の受診率の比較

やけどまで至った事例のうち、病院を受診(入院も含む)した事例が占める割合を乳幼児と大人で比較すると、大人の場合、やけどの件数自体は乳幼児と比較して多い(調理に伴うやけどが多いことが要因と思われる。)が受診まで至るのは7.8%(140件)であるのに対し、乳幼児の場合、受診までに至る事案は2割を超える20.3%(194件)と大人の3倍近い数字になっている。

乳幼児は皮膚が薄いことや体が小さく体表面積が少ないことから、やけどしてしまった場合に重症化しやすいので特に注意が必要である。

(大人のやけどについての数値は、平成24年に実施したヒヤリ・ハット調査「日常生活に潜むやけどの危険」の住宅におけるやけどの危害程度 より)

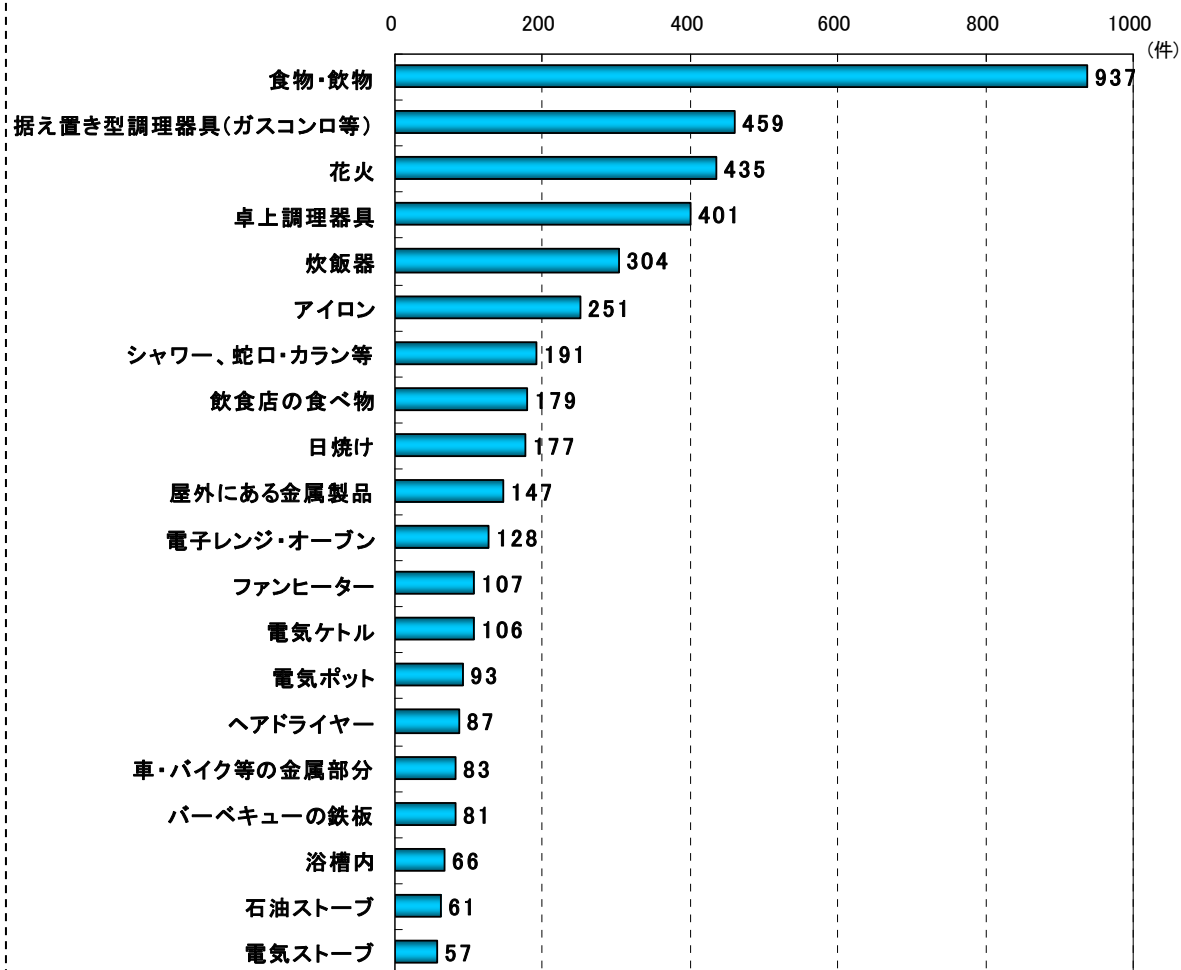


(4) 危害、ヒヤリ・ハット経験の原因となった製品

〔図表3-4-1〕は、当調査で回答された4,772件の危害、ヒヤリ・ハット経験を原因となった製品ごとに件数を集計し、上位20位までを抜粋したものである。

「食物・飲物」による経験が937件と最も多く、ガスコンロ、IHクッキングヒーター等の「据え置き型調理器具」が459件、「花火」が435件、カセットコンロやホットプレート等の「卓上調理器具」が401件と続く。

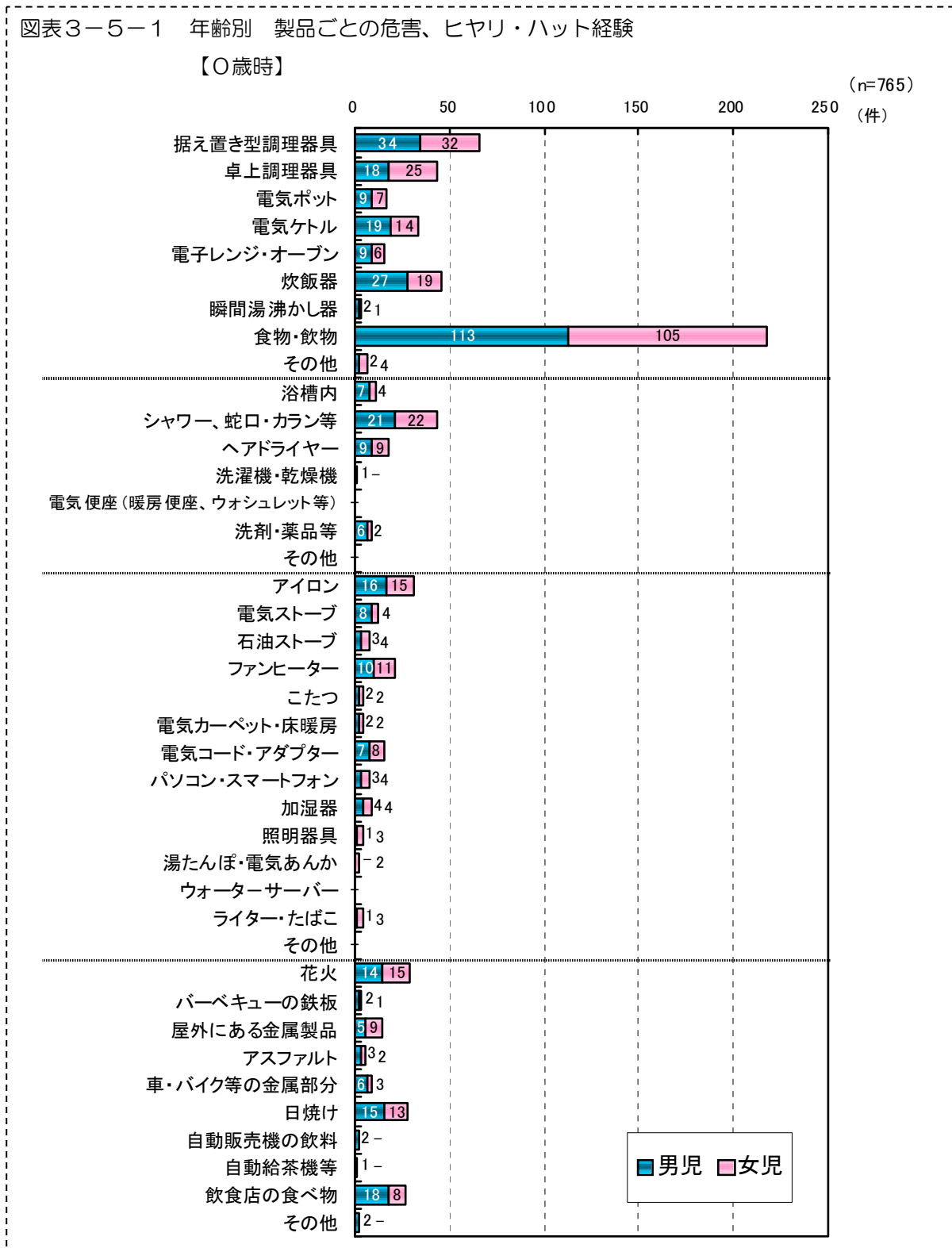
図表3-4-1 危害、ヒヤリ・ハット経験の原因となった製品等（件数上位20位まで）



(5) 危害、ヒヤリ・ハット経験した子供の年齢、性別

〔図表3-5-1〕は、【0歳時】における危害、ヒヤリ・ハット経験を男女別、製品ごとに集計したものである。

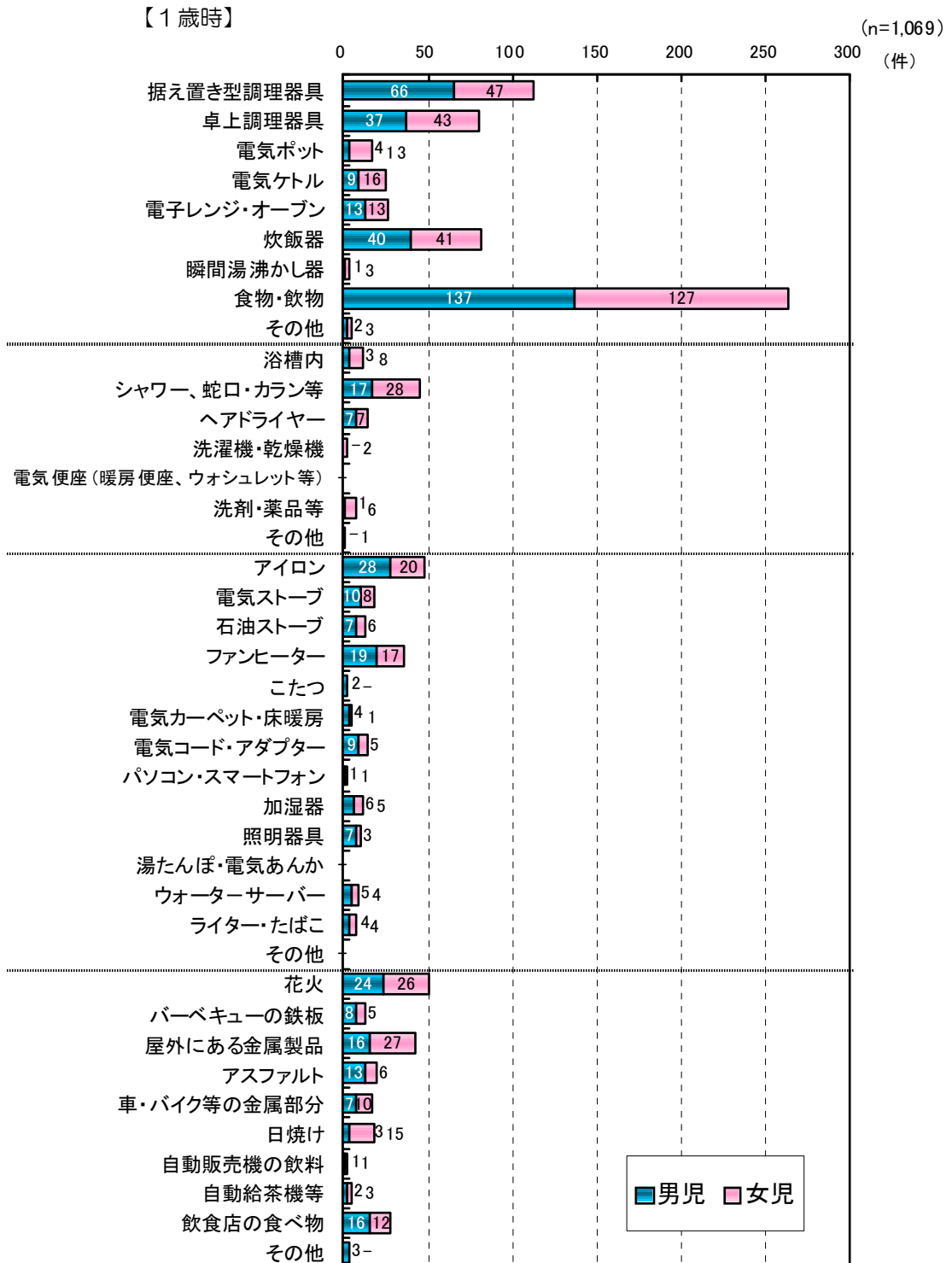
0歳時の危害、ヒヤリ・ハット経験は765件で、食物・飲物における経験が最も多く218件（男児113件、女児105件）、次いで据え置き型調理器具において、66件（男児34件、女児32件）となっている。



〔図表3-5-2〕は、【1歳時】における危害、ヒヤリ・ハット経験を男女別、製品ごとに集計したものである。

1歳時の危害、ヒヤリ・ハット経験は1,069件で、食物・飲物における経験が最も多く264件（男児137件、女児127件）次いで、据え置き型調理器具において、113件（男児66件、女児47件）となっている。

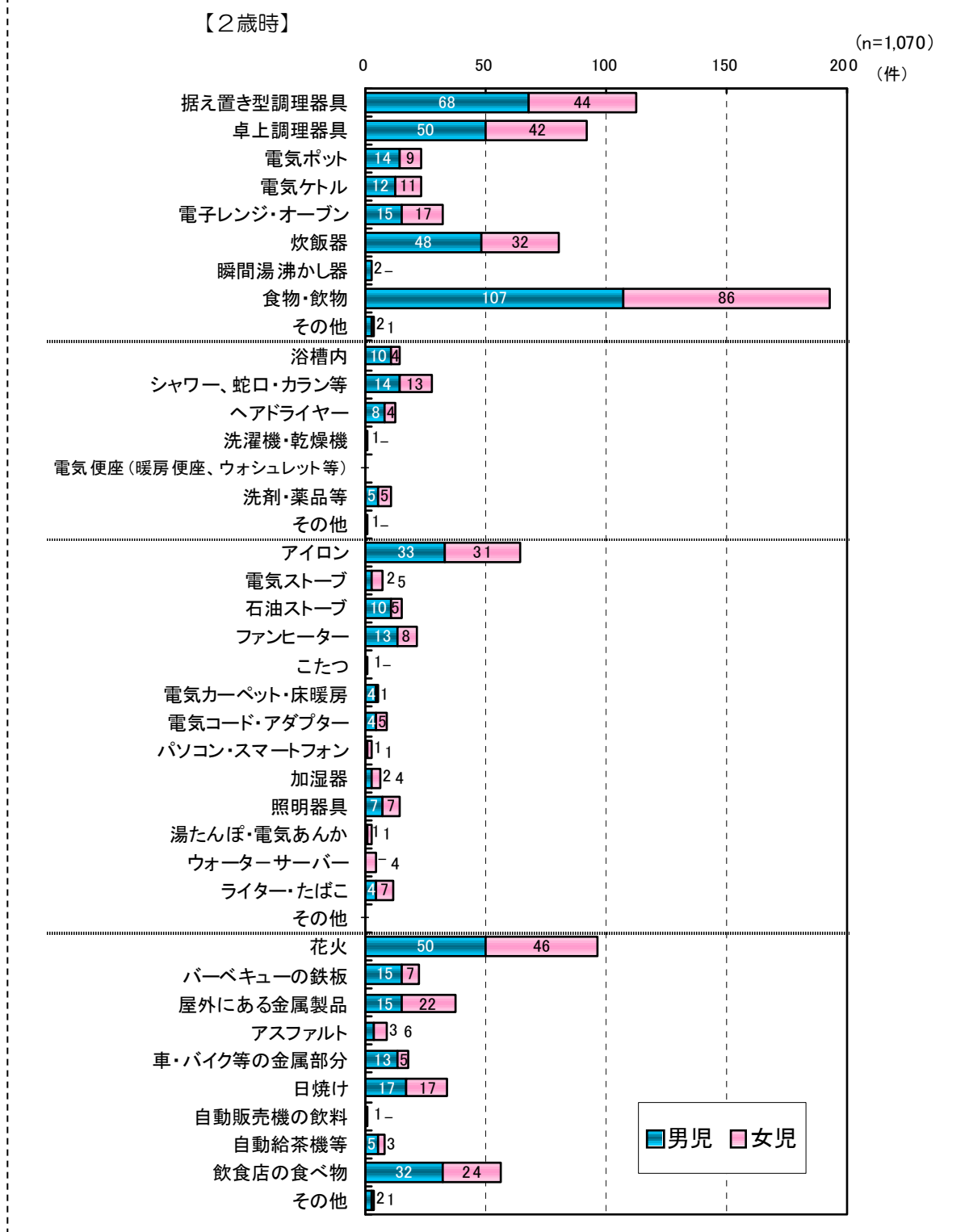
図表3-5-2 年齢別 製品ごとの危害、ヒヤリ・ハット経験



〔図表3-5-3〕は、【2歳時】における危害、ヒヤリ・ハット経験を男女別、製品ごとに集計したものである。

2歳時の危害、ヒヤリ・ハット経験は1,070件で、食物・飲物における経験が最も多く193件（男児107件、女児86件）次いで、据え置き型調理器具において、112件（男児68件、女児44件）となっている。以下、花火、卓上調理器具、炊飯器、アイロンと続く。

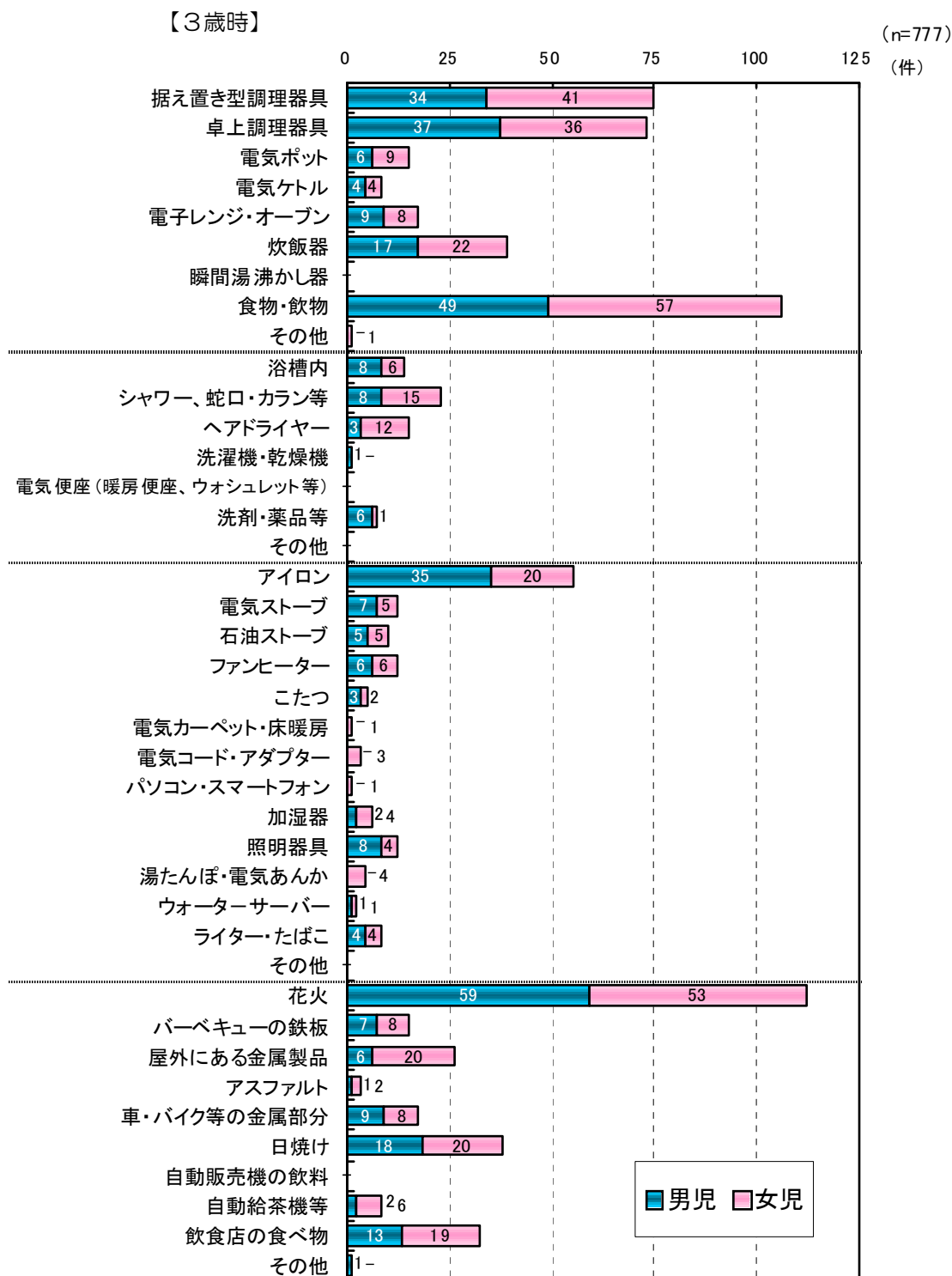
図表3-5-3 年齢別 製品ごとの危害、ヒヤリ・ハット経験



〔図表3-5-4〕は、【3歳時】における危害、ヒヤリ・ハット経験を男女別、製品ごとに集計したものである。

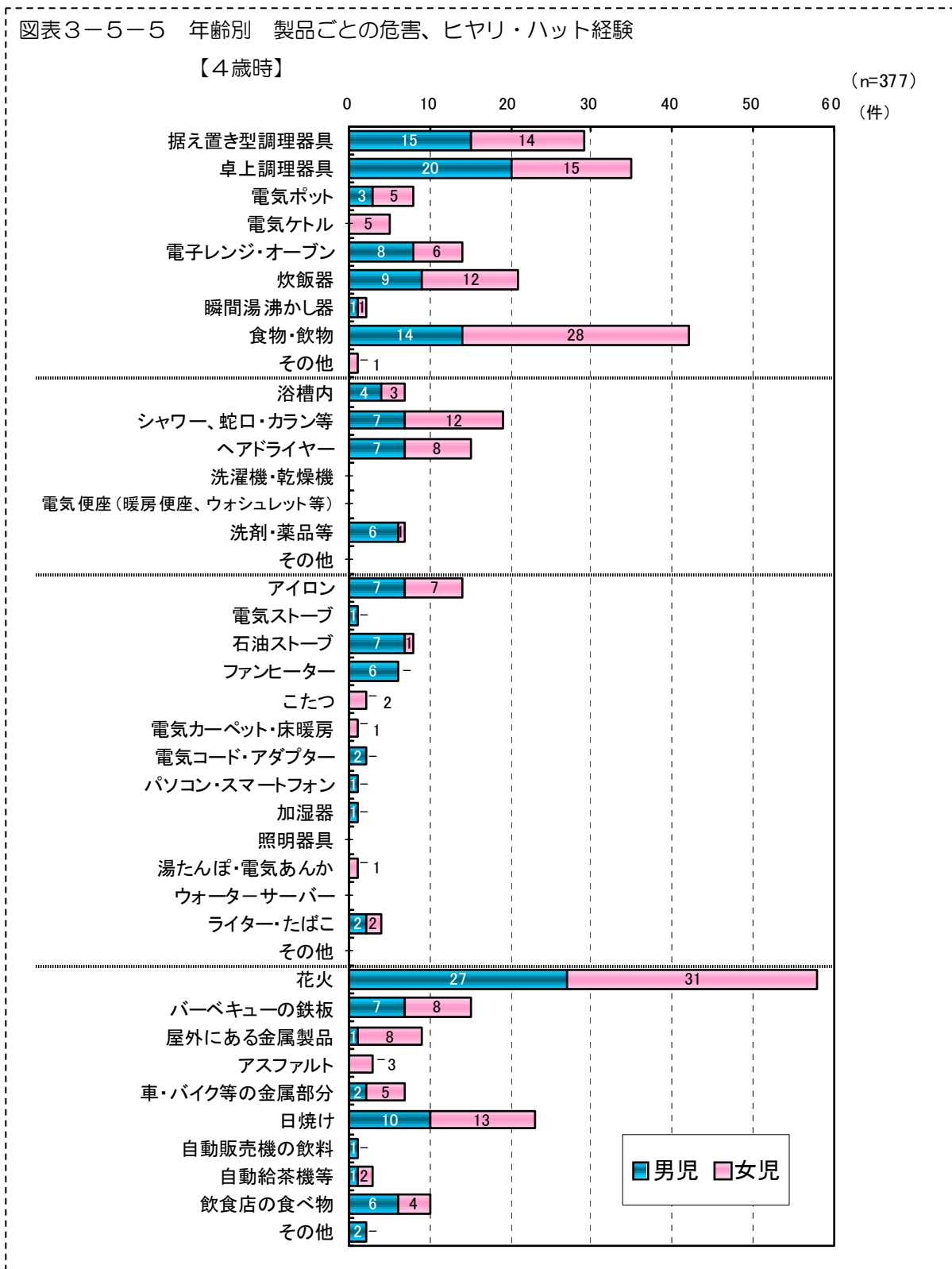
3歳時の危害、ヒヤリ・ハット経験は777件で、花火における経験が最も多く112件（男児59件、女児53件）次いで、食物・飲物において、106件（男児49件、女児57件）となっている。以下、据え置き型調理器具、卓上調理器具、アイロンと続く。

図表3-5-4 年齢別 製品ごとの危害、ヒヤリ・ハット経験



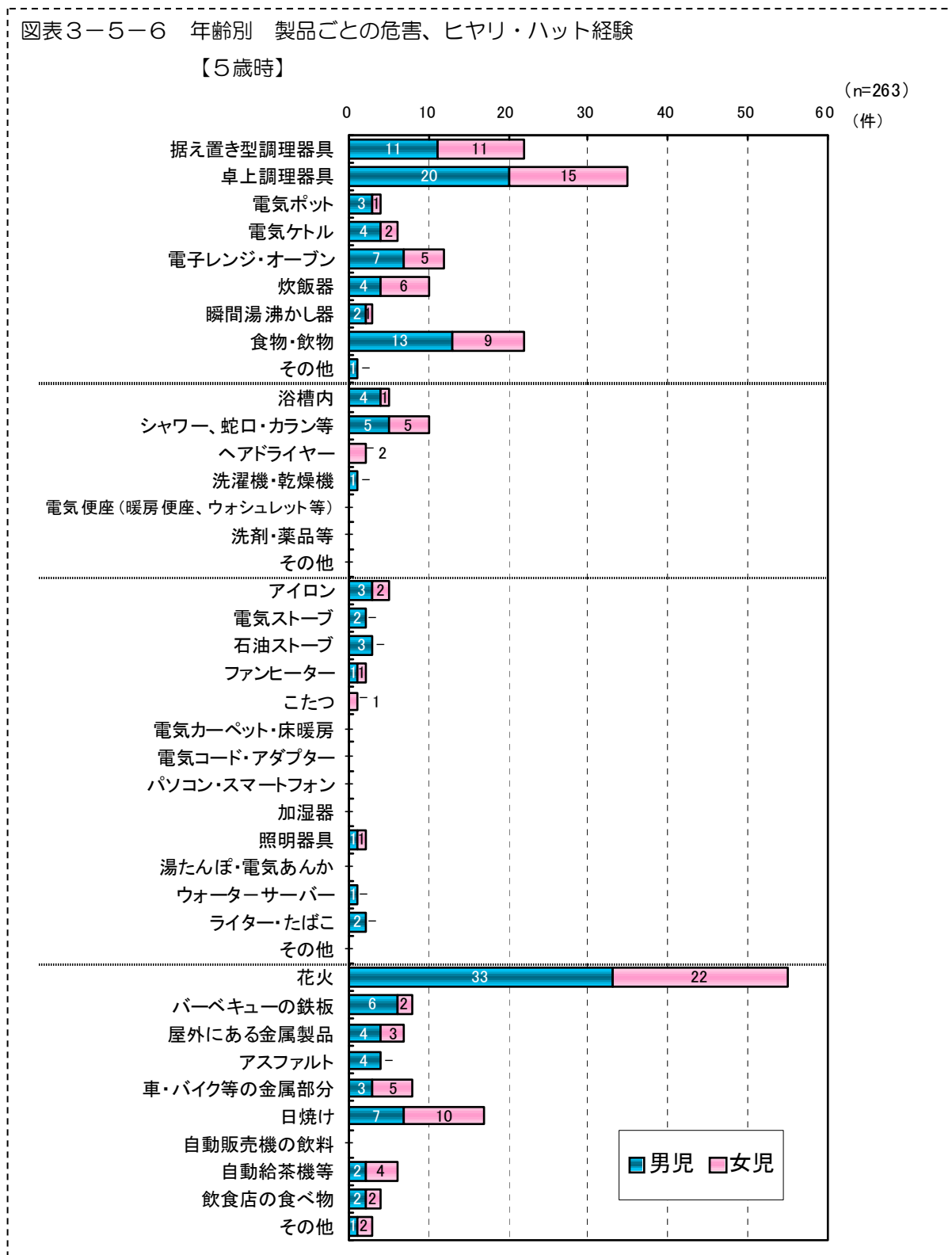
〔図表3-5-5〕は、【4歳時】における危害、ヒヤリ・ハット経験を男女別、製品ごとに集計したものである。

4歳時の危害、ヒヤリ・ハット経験は377件で、花火における経験が最も多く、58件（男児27件、女児31件）次いで、食物・飲物において、42件（男児14件、女児28件）となっている。

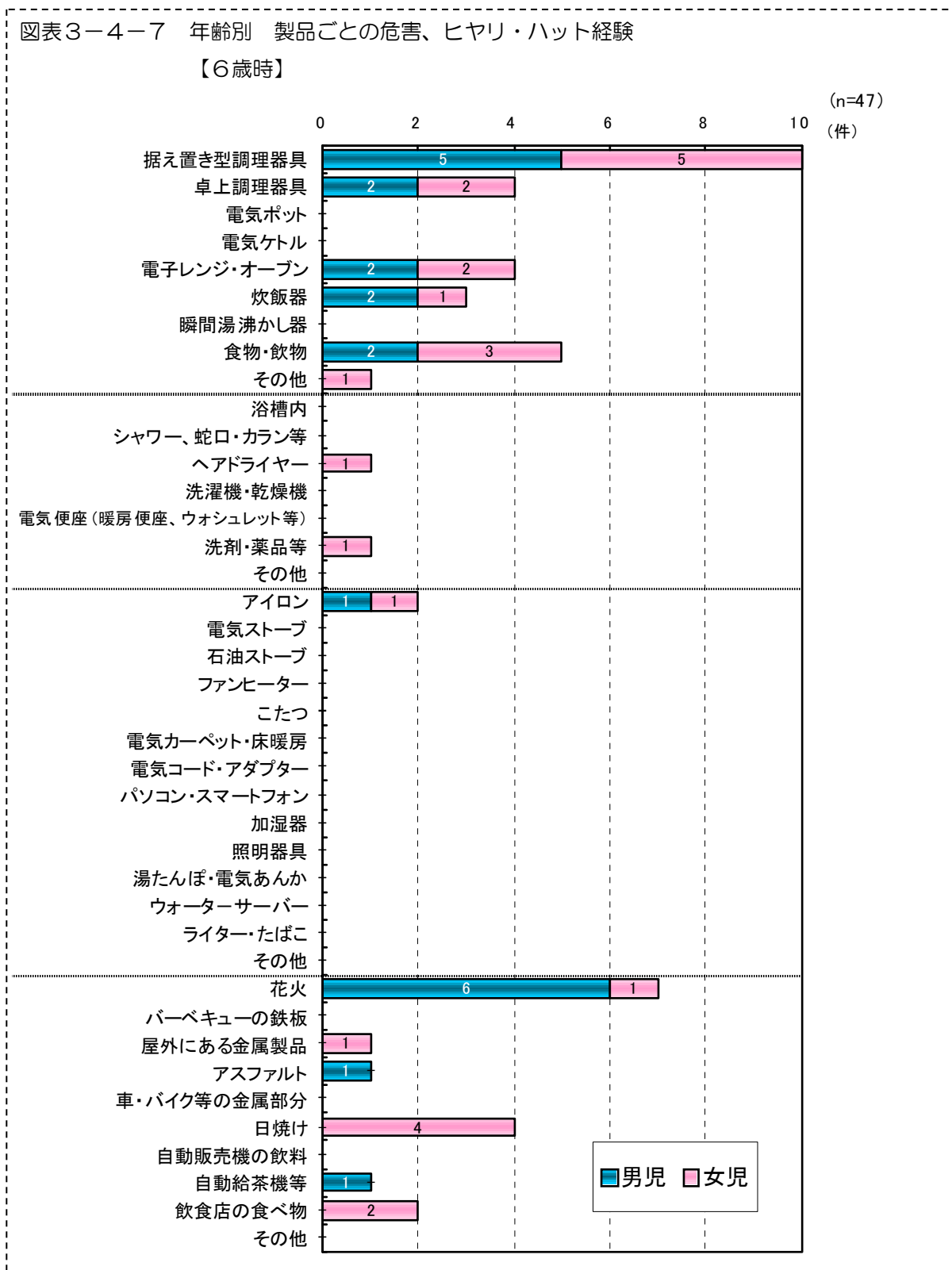


〔図表3-5-6〕は、【5歳時】における危害、ヒヤリ・ハット経験を男女別、製品ごとに集計したものである。

5歳時の危害、ヒヤリ・ハット経験は263件で花火における経験が最も多く、55件（男児33件、女児22件）次いで、卓上調理器具において、35件（男児20件、女児15件）となっている。



〔図表3-5-7〕は、【6歳時】における危害、ヒヤリ・ハット経験を男女別、製品ごとに集計したものである。

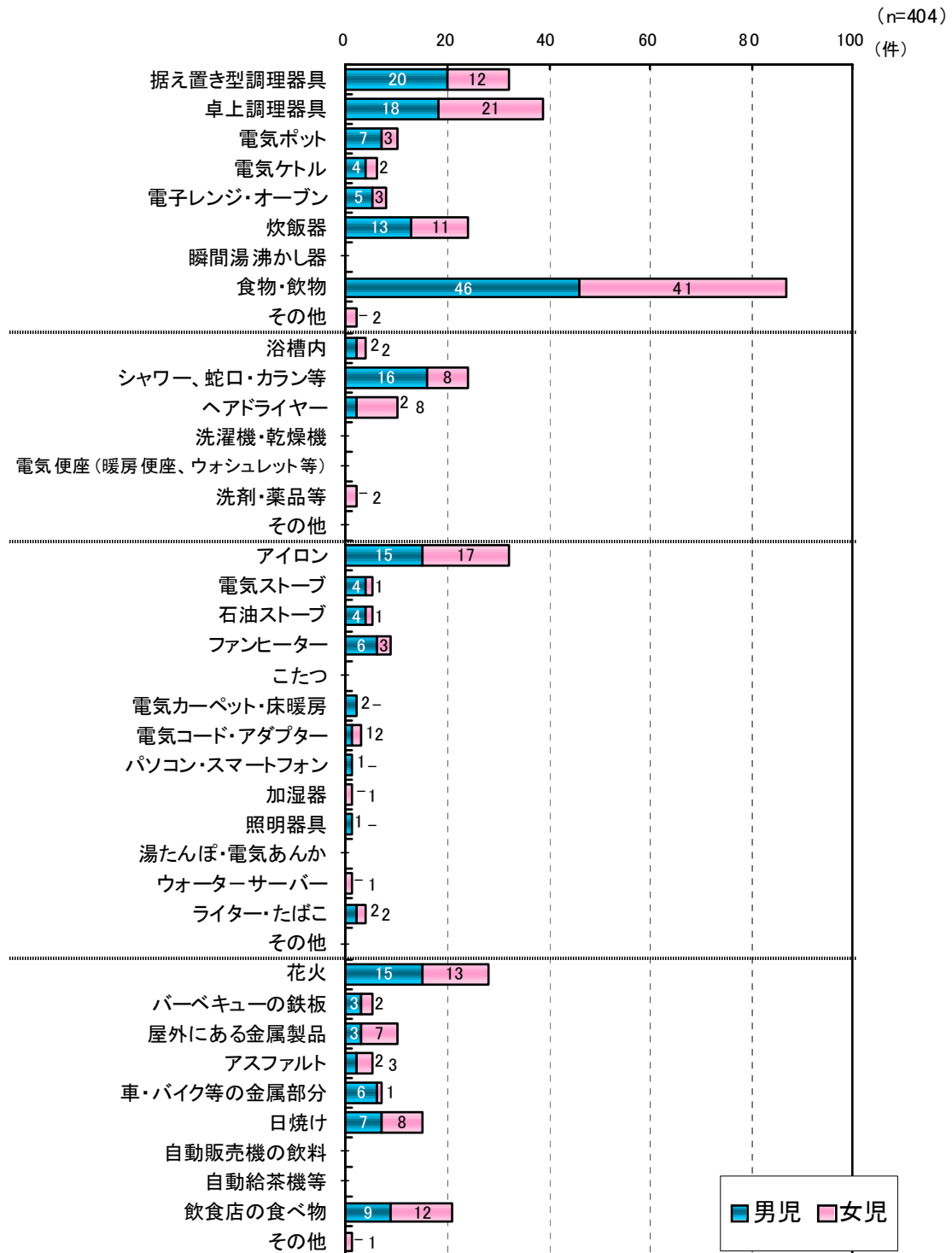


〔図表3-5-8〕は、経験時の年齢が不詳な危害、ヒヤリ・ハット経験を男女別、製品ごとに集計したものである。

食物・飲物における経験が最も多く、87件（男児46件、女児41件）となっている。

図表3-5-8 年齢別 製品ごとの危害、ヒヤリ・ハット経験

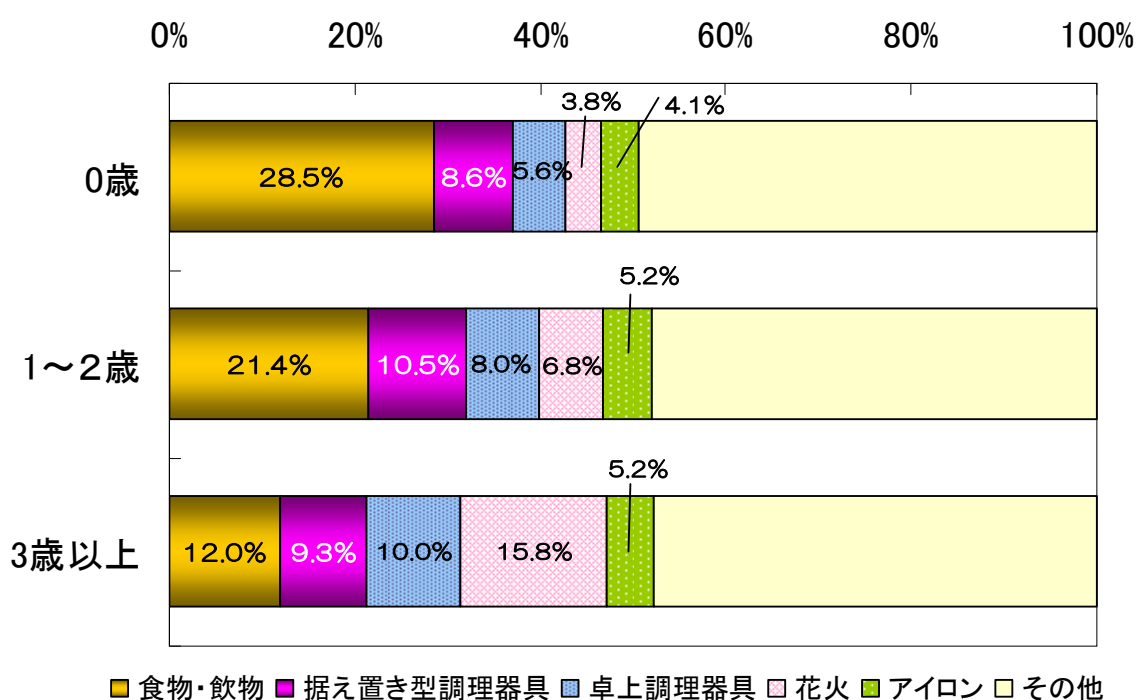
【年齢がわからない（おぼえていない）】



〔図表3-5-9〕は、0歳、1～2歳、3歳以上と年齢別に危害、ヒヤリ・ハット経験の原因となった製品のうち、「食物・飲物」、「据え置き型調理器具」、「卓上調理器具」、「アイロン」、「花火」の占める割合を表したものである。

「食物・飲物」は、0歳時の危害、ヒヤリ・ハット経験中の3割近くを占めているが、年齢が高くなるに伴い占める割合が低下している一方、卓上調理器具（カセットコンロ等）や花火については、0歳時においては、割合は低いが、年齢が高くなるとともに、危害、ヒヤリ・ハット経験中に占める割合が高くなっていく等、年齢により危害、ヒヤリ・ハット経験の原因となる製品の傾向が異なっていることがわかる。

図表3-5-9 年齢別 危害、ヒヤリ・ハット経験の原因となった主な製品の割合



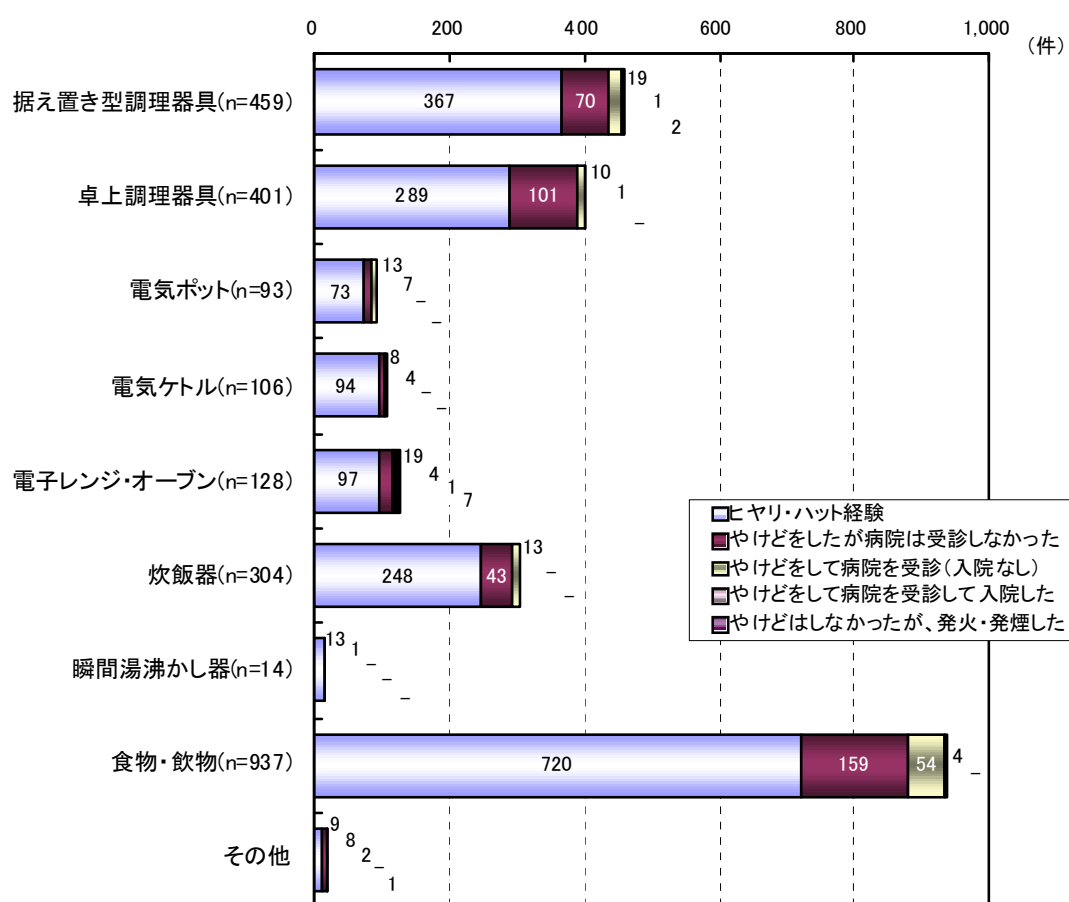
4. 調理用品等におけるやけど

(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（調理用品等）

〔図表4-1-1〕は、調理用品等でのやけど経験について、製品ごとに危害程度を集計したものである。

どの製品もヒヤリ・ハット経験（やけどしそうになった、発火・発煙しそうになった。）がほとんどを占めているが、「据え置き型調理器具」、「卓上調理器具」、「電気ポット」、「電子レンジ・オープン」、「食物・飲物」については、実際に危害経験（やけどをした、発火・発煙した。）が2割を超えている。

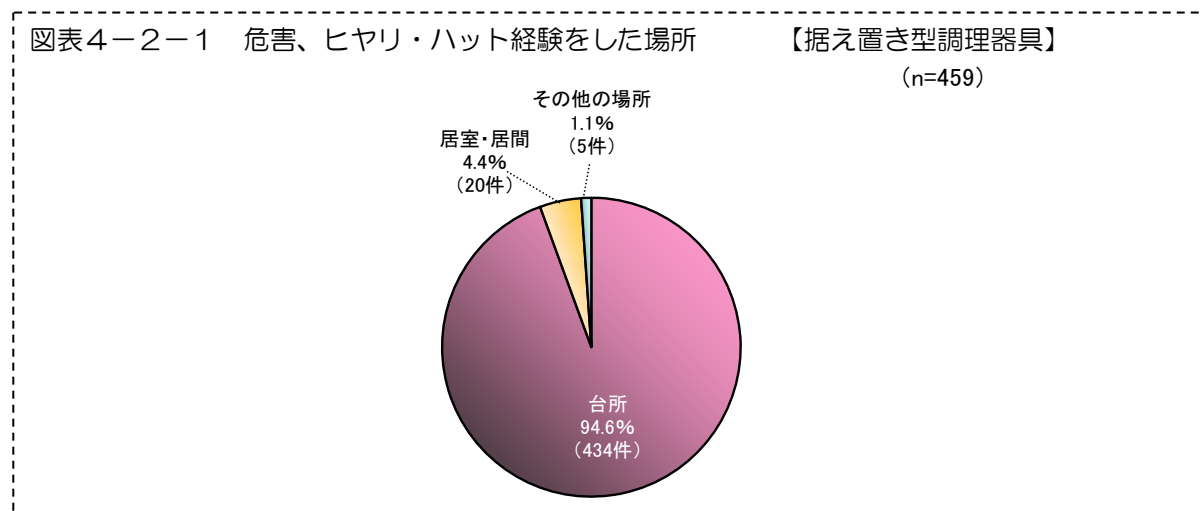
図表4-1-1 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（調理用品等）



(2) 製品・場面別：据え置き型調理器具（ガスコンロ、IHクッキングヒーター等）

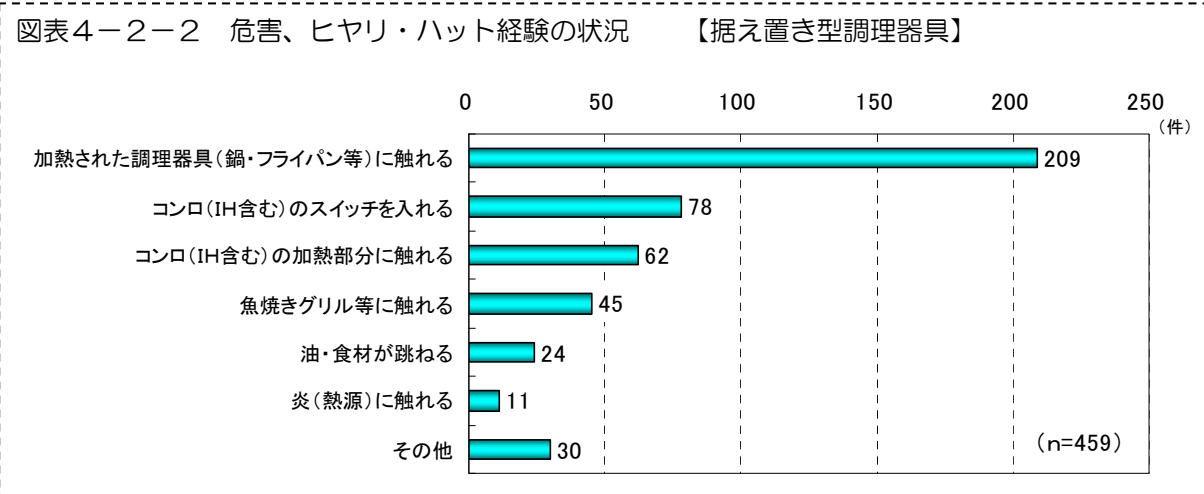
〔図表4-2-1〕は、【据え置き型調理器具】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

459件中、「台所」が94.6%（434件）とほとんどを占めている。



〔図表4-2-2〕は、【据え置き型調理器具】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況を集計したものである。

459件中、鍋やフライパンなどの「加熱された調理器具に触れる」が209件と最も多く、次いで「コンロ（IH含む）のスイッチを入れる」が78件、五徳など「コンロ（IH含む）の加熱部分に触れる」が62件となっている。



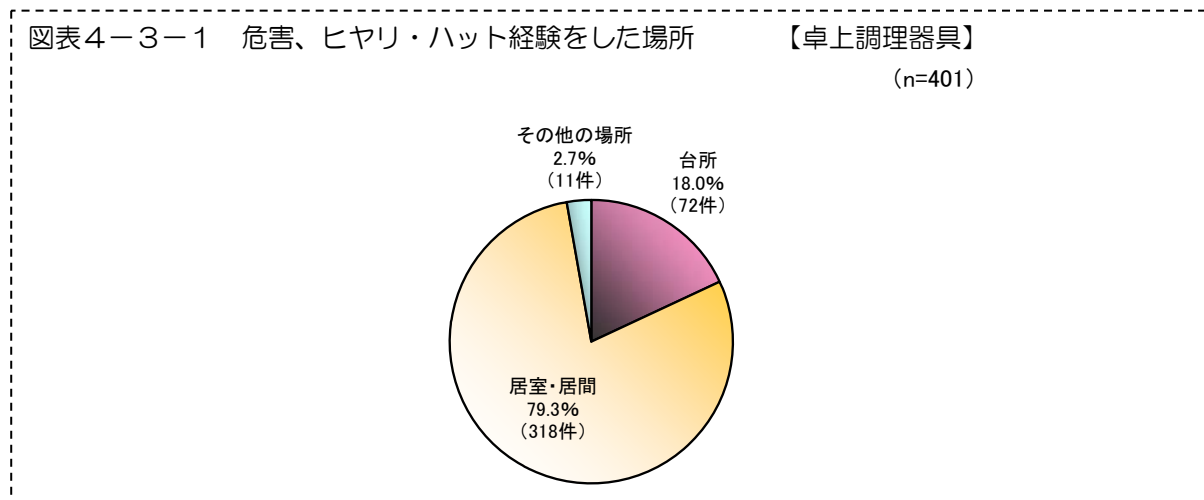
主な事例

加熱された調理器具（鍋・フライパン等）に触れる	息子がつかまり立ちを覚えたころ、ガスコンロの上にあった鍋をつかんで立ってしまい、鍋がひっくり返って両腕と胸に熱湯を浴び入院した。（1歳 男児）
	母親が夕食の支度中、加熱中のフライパンや鍋に手を伸ばしたりすることがあった。（3歳 男児）
コンロのスイッチを入れる	母親が洗い物をしている間に、娘が勝手にガスコンロを押して遊んでいた。点火したが、びっくりして慌てて手を引っ込めたので、火傷はしなかった。（2歳 女児）
油・食材が跳ねる	母親がガスコンロで揚げ物をしている際に、母親の足に抱き付いていた息子に油がはねて腕をやけどした。（3歳 男児）

(3) 製品・場面別：卓上調理器具（カセットコンロ、ホットプレート等）

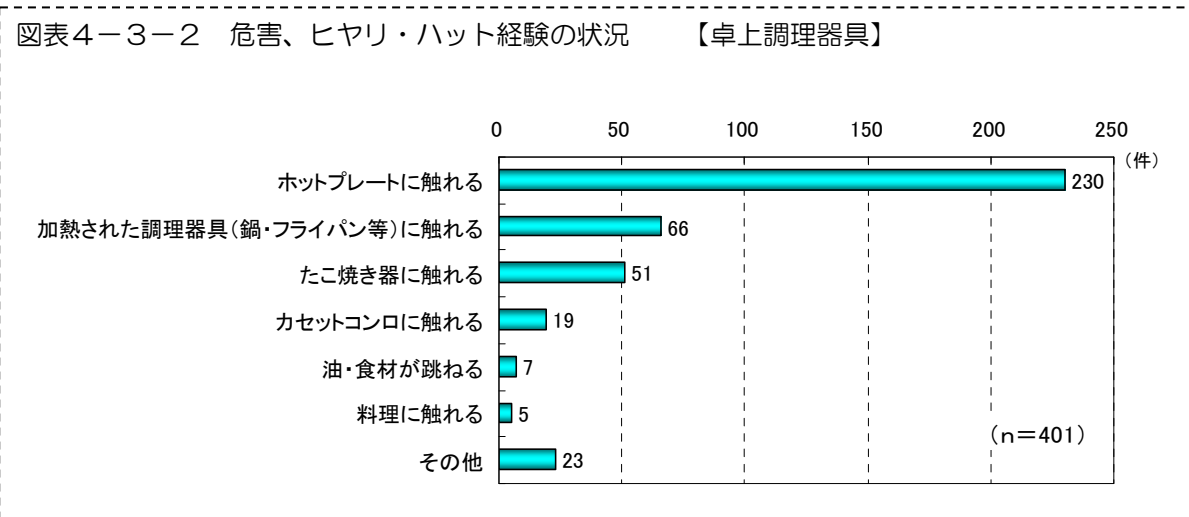
〔図表4-3-1〕は、【卓上調理器具】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

401件中、「居室・居間」が79.3%（318件）、「台所」が18.0%（72件）となっており、台所より居室・居間の方が多くなっている。



〔図表4-3-2〕は、【卓上調理器具】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況を集計したものである。

401件中、「ホットプレートに触れる」が230件で最も多く、次いで「加熱された調理器具（鍋・フライパン等）に触れる」が66件、「たこ焼き器に触れる」が51件となっている。



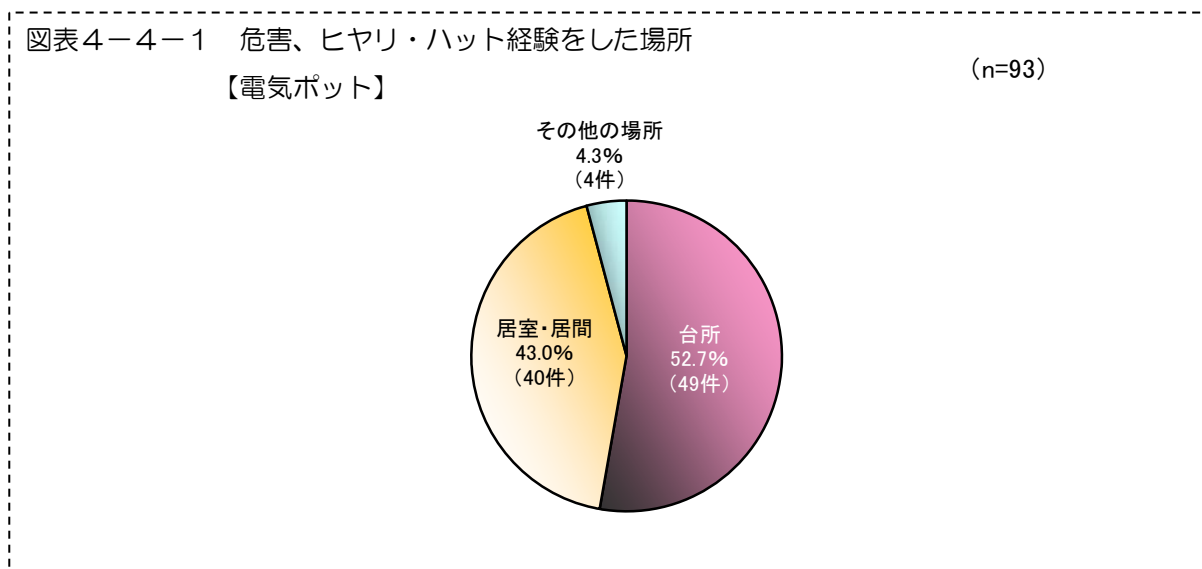
主な事例

ホットプレートに触れる	ホットプレートで焼き肉を食べ終えたあと。鉄板を洗おうとはずして目を離したときに、ホットプレートの熱くなったところを触ってしまった。（1歳 男児）
たこ焼き器に触れる	たこ焼き機でたこ焼きを作っていたら、自分もやりたいと娘が言い、やらせている最中にたこ焼きプレートに手がふれて軽いやけどをした。（4歳 女児）
カセットコンロに触れる	カセットコンロで調理中、子どもがテーブルクロスをひいてしまい、危うくカセットコンロごと鍋が落ちそうになった。（0歳 女児）

(4) 製品・場面別：電気ポット

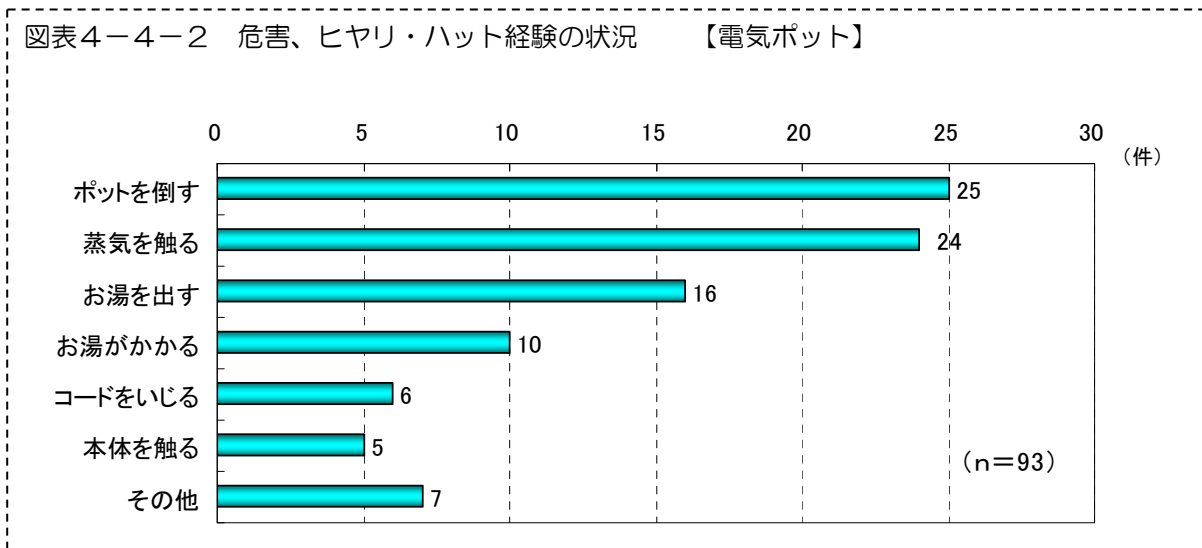
〔図表4-4-1〕は、【電気ポット】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

93件中、「台所」が52.7%（49件）、「居室・居間」が43.0%（40件）となっている。



〔図表4-4-3〕は、【電気ポット】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況を集計したものである。

93件中、「ポットを倒す」が25件、「蒸気に触る」が24件となっている。



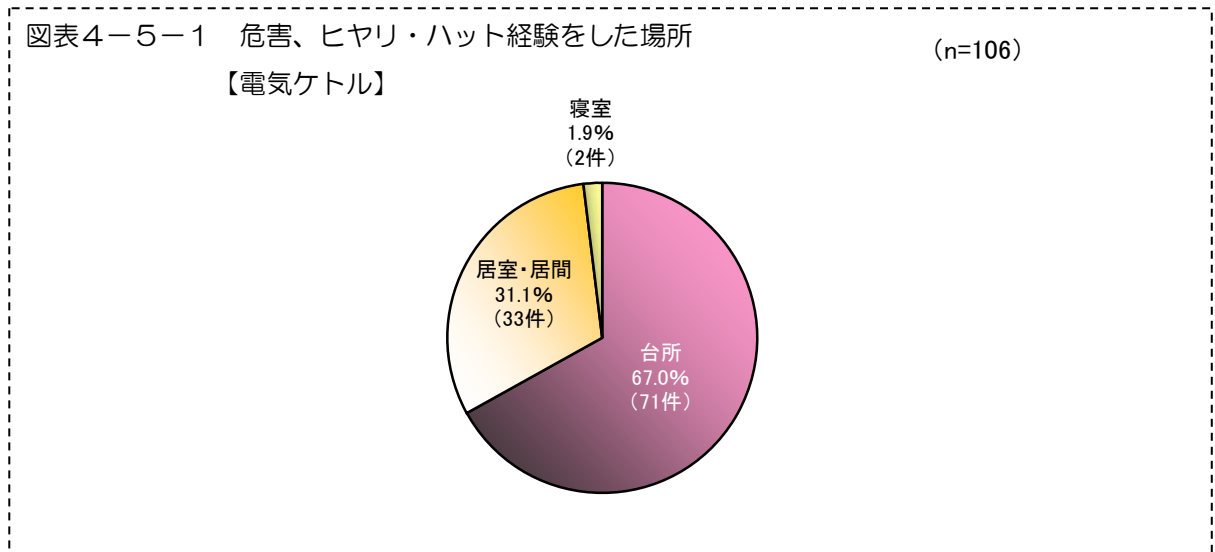
主な事例

ポットを倒す	息子がハイハイしているときに、電気ポットのコードに引っかかり、ポットが倒れそうになった。磁石式コードなのでコードが抜け、ことなきを得た。(0歳 男児)
蒸気に触る	息子がポットから出ている蒸気に興味を持ち、手を出そうとした。(2歳 男児)
お湯を出す	大人がお茶を入れている姿をみて、真似したくなり、ポットに手を出した。幸い「出ない」設定になっていたため、やけどしなかった。(0歳 女児)

(5) 製品・場面別：電気ケトル

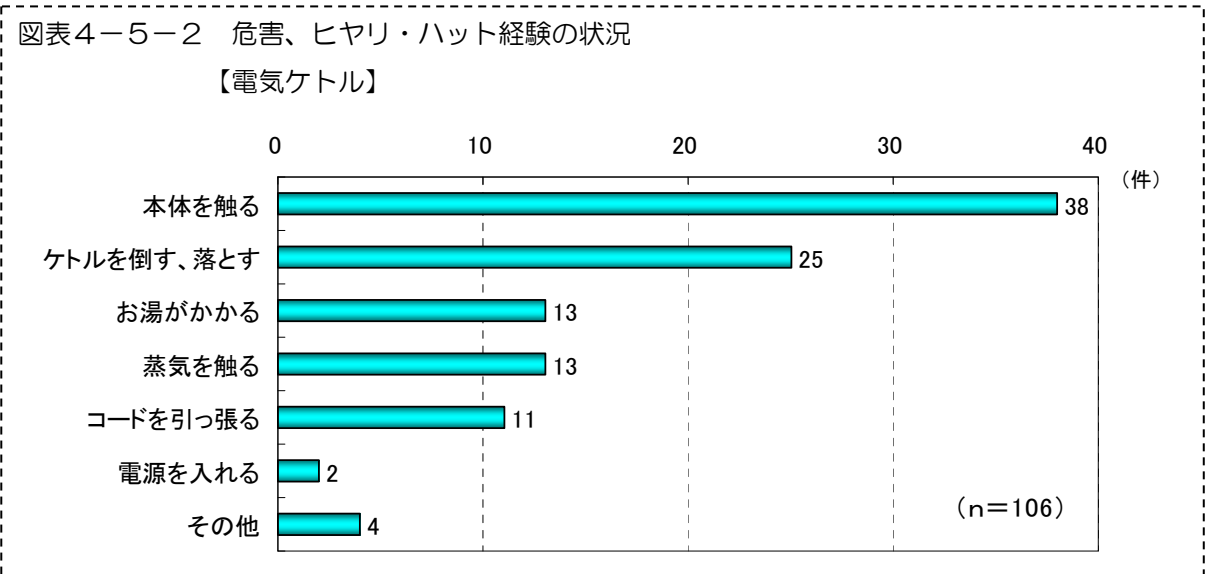
〔図表4-5-1〕は、【電気ケトル】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

106件中、「台所」が67.0%（71件）、「居室・居間」が31.1%（33件）となっている。



〔図表4-5-2〕は、【電気ケトル】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況を集計したものである。

106件中、「本体を触る」が38件で最も多く、次いで「ケトルを倒す、落とす」が25件となっている。



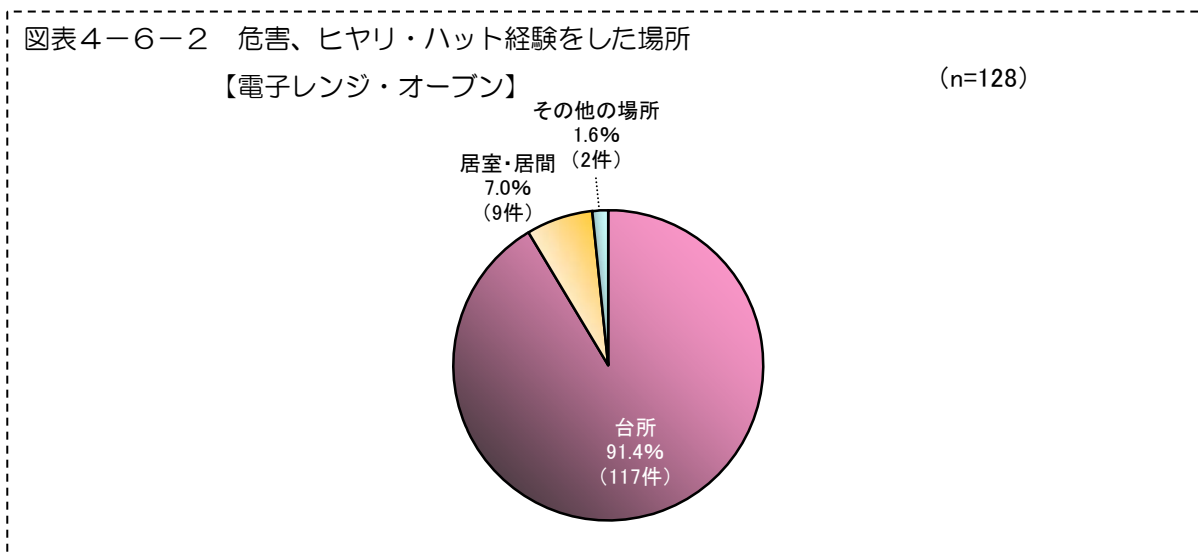
主な事例

ケトルに触る	ステンレス製の電気ケトル使用時、お湯で熱くなった本体を息子が触ってやけどした。 (2歳 男児)
ケトルを倒す、落とす	ケトルを沸かしているときに音に気がなった子どもが触って倒してしまい、やけどしそうになった。(1歳 女児)
コードを引っ張る	息子がコードを引っ張ってしまい電気ケトルが倒れ、顔にお湯がかかり急いで病院に行った。(0歳 男児)

(6) 製品・場面別：電子レンジ・オープン

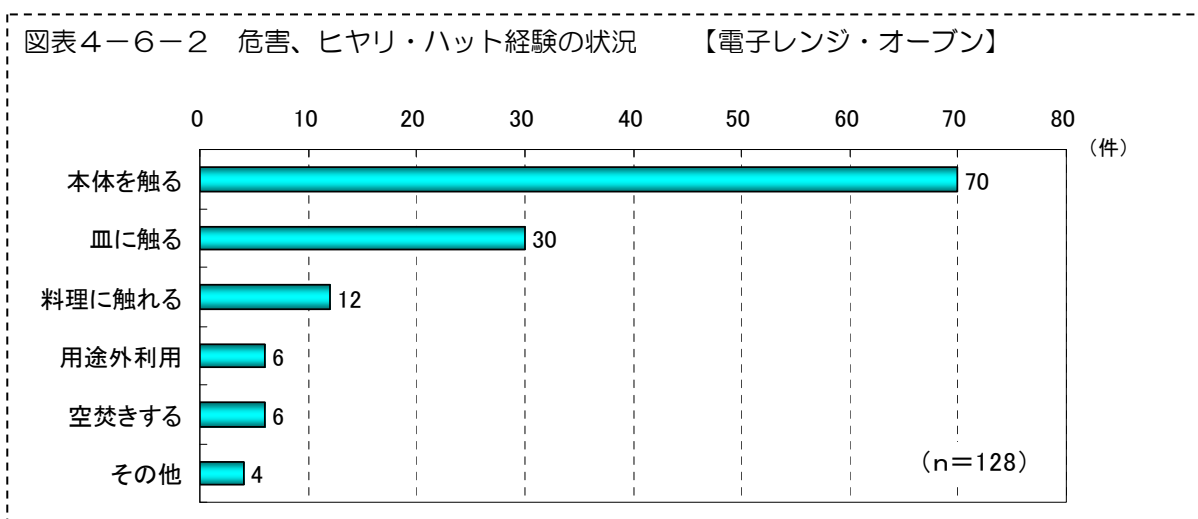
〔図表4-6-1〕は、【電子レンジ・オープン】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

128件中、「台所」が91.4%（117件）となっている。



〔図表4-6-2〕は、【電子レンジ・オープン】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

128件中、「本体を触る」が70件で最も多く、次いで加熱後の「皿に触る」が30件、「料理に触れる」が12件となっている。また、庫内におもちゃなどを入れて加熱する「用途外利用」や空の状態を利用する「空焚き」をした結果、発煙が起こっている。



主な事例

本体に触る	オープンレンジでケーキを焼いているときに、オープン本体が熱くなっているのに触ろうとした。(6歳 女兒)
料理に触れる	電子レンジで暖めたシチューが熱すぎて、ラップをしていたが、ラップを外した時の湯気でやけどしそうになった。(5歳 女兒)
用途外使用 (間違った使用法)	子どもがおもちゃを勝手に入れてしまってボタンを押して加熱してしまい煙が出た。(2歳 女兒)

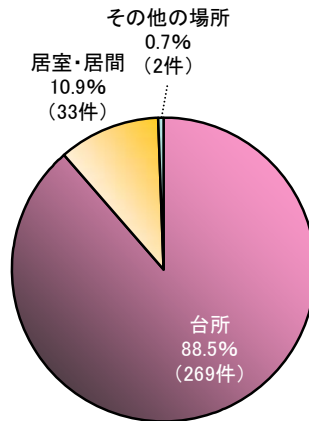
(7) 製品・場面別：炊飯器

〔図表4-7-1〕は、【炊飯器】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

304件中、「台所」が88.5%（269件）となっている。

図表4-7-1 危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所 【炊飯器】

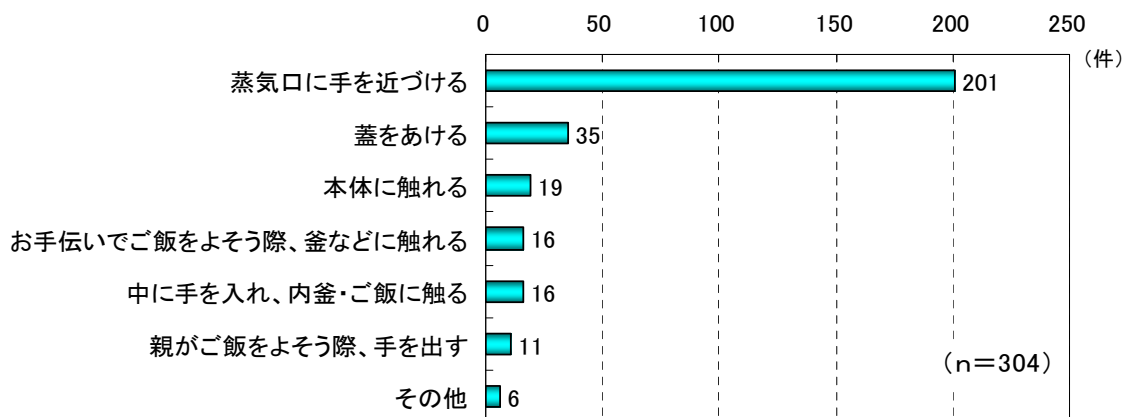
(n=304)



〔図表4-7-2〕は、【炊飯器】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況を集計したものである。

304件中、「蒸気口に手を近づける」が201件で最も多くなっている。また、「お手伝いでご飯をよそう際、釜などに触れる」等の経験も見られる。

図表4-7-2 危害、ヒヤリ・ハット経験の状況 【炊飯器】



主な事例

蒸気口に手を近づける	炊飯中に出てきた蒸気が面白かったらしく、触ろうと手を伸ばしてやけどしそうになった。（2歳 男児）
	炊飯器の近くでよろけて倒れ、炊飯中の炊飯器の湯気で左手指をやけどした。（2歳 女児）
蓋を開ける	炊飯器のふたを開けてしまい、蒸気が熱くてやけどしそうになった。（3歳 男児）
ご飯をよそう際、釜等に触れる	ご飯よそう手伝いをしたいというのでやらせたところ、お釜の縁で少し手をこすってしまった。（3歳 女児）

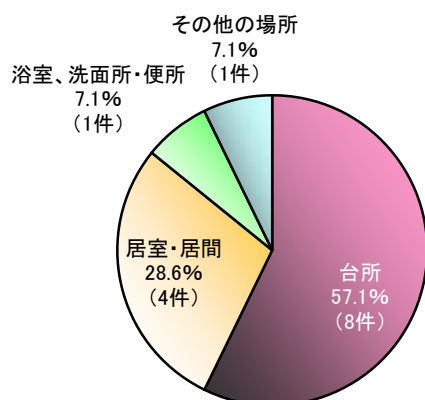
(8) 製品・場面別：瞬間湯沸かし器

〔図表 4 - 8 - 1 〕は、【瞬間湯沸かし器】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

図表 4 - 8 - 1 危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所

【瞬間湯沸かし器】

(n=14)



【瞬間湯沸かし器】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況として、「手を洗っていて、お湯が急に熱くなってやけどしそうになった」などの湯温の急激な変化と、「給湯温度が、水道のレバーを左へ回すと熱湯になることを知らずに、子供の手洗いで熱湯をかけてしまった。」などの操作ミスが挙げられている。

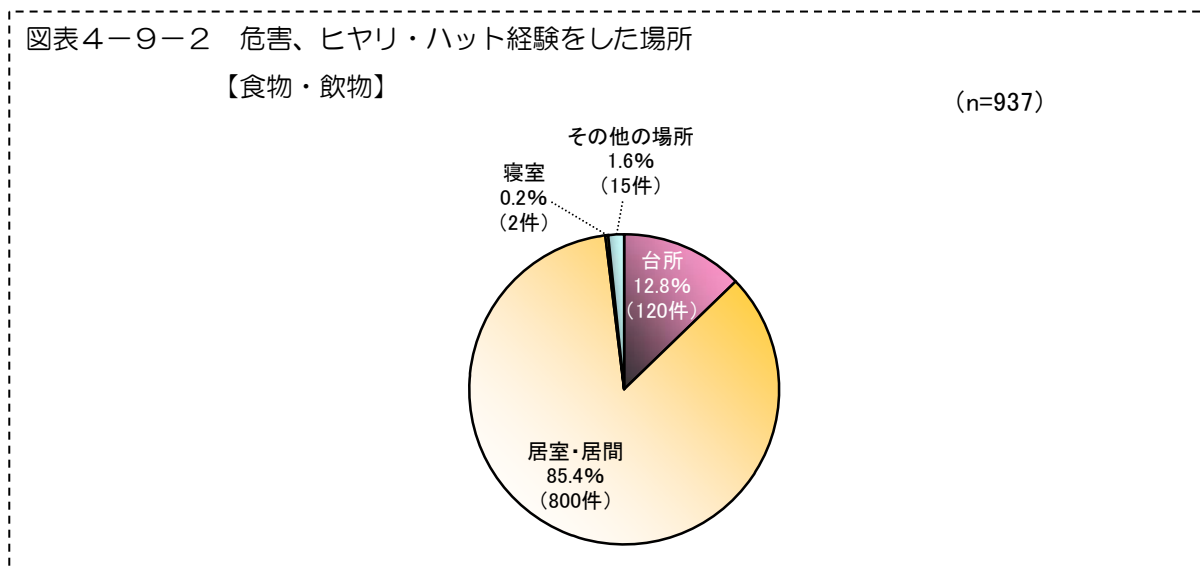
主な事例

湯温の急激な変化	息子が手を洗っていたところ、適温だったお湯が急に熱くなり、やけどしそうになった。(2 歳 男児)
蛇口等の操作ミス	知人宅で、給湯温度が、水道のレバーを左へ回すと熱湯になることを知らずに、子どもの手洗いで熱湯をかけてしまった。(0 歳 女児)

(9) 製品・場面別：食物・飲物

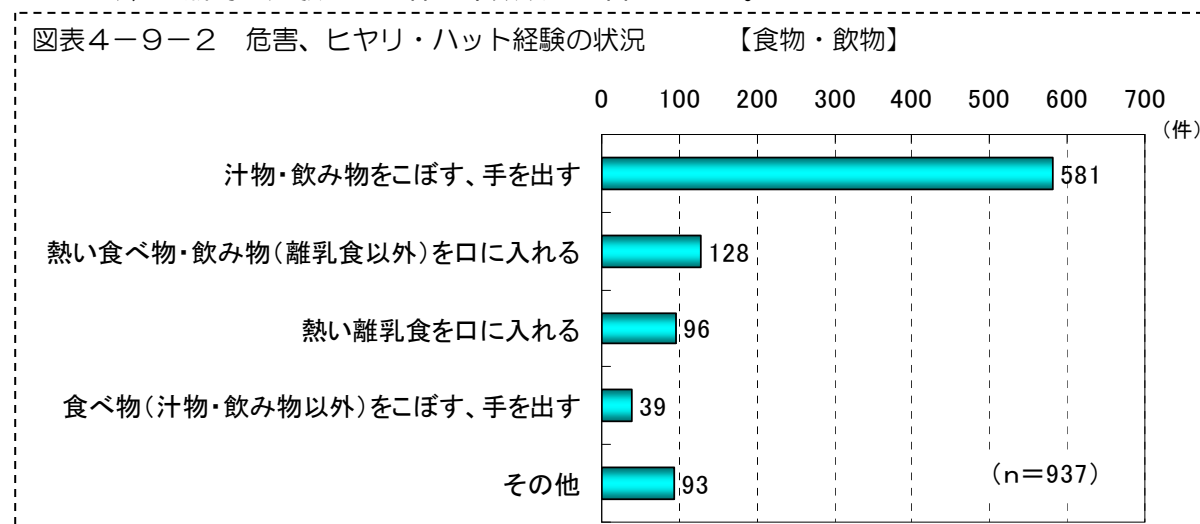
〔図表4-9-2〕は、【食品・飲み物】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

937件中、「居室・居間」が85.4%（800件）となっている。



〔図表4-9-2〕は、【食物・飲物】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況を集計したものである。

937件中、お味噌汁などの「汁物・飲み物をこぼす、手を出す」が581件で最も多く、次いで、冷まさずに「熱い食物・飲み物を口に入れる」が続く。特に離乳食は96件と多く、0歳時の経験が64件と半数以上を占めている。

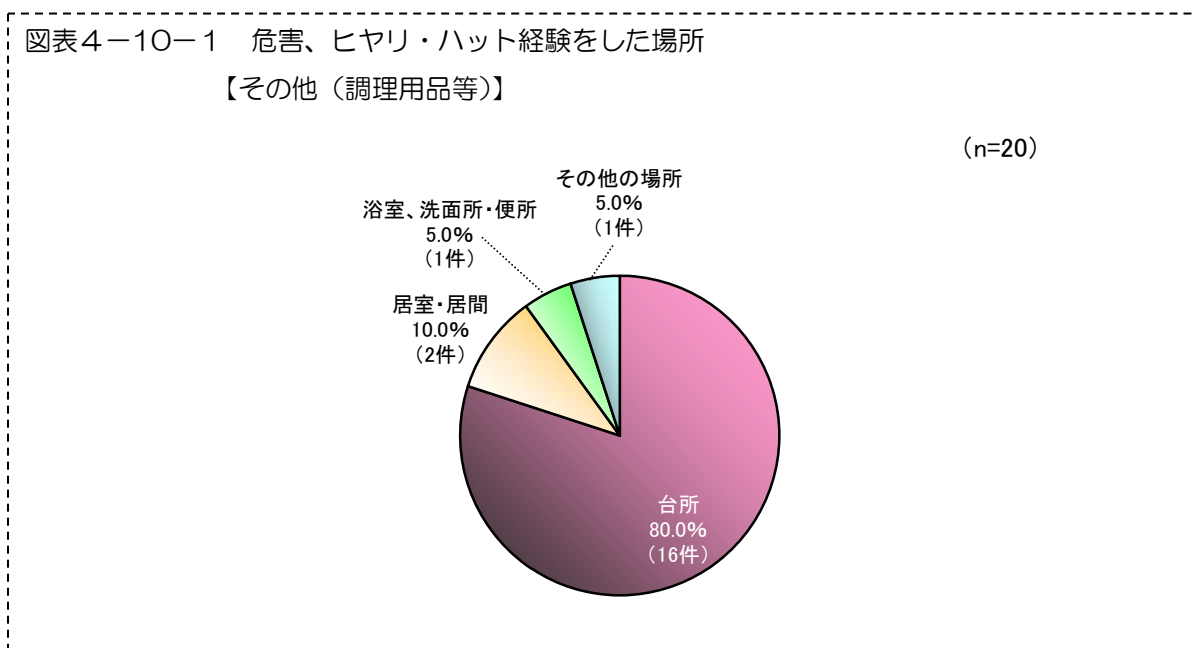


主な事例

汁物・飲み物をこぼす	家族の夕飯をランチョンマットに乗せて準備していたら、机の下からランチョンマットを引っ張り、上にある熱いお味噌汁がこぼれそうになった。(0歳 男児)
	抱っこしながら食事をしていたら子どもが熱いお茶の入った湯呑に手を出してこぼしてしまいやけどしそうになった。(1歳 女児)
離乳食を口に入れる	冷えたと思っていた離乳食が、まだあまり冷えておらず、口に入れたところ泣いて吐き出した。(0歳 女児)

(10) 製品・場面別：その他（調理用品等）

〔図表4-10-1〕は、【その他（調理用品等）】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。



【その他（調理用品等）】における、における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況としては、「食器洗浄機の蒸気を触ろうとした。」などが挙げられている。

主な事例

食器洗浄機の蒸気を触ろうとした	食器洗浄機から熱い蒸気がでており、その湯気を触ろうとした。(0歳 男児)
コーヒーメーカーに触る	独り歩きできるようになった息子がコーヒーメーカーのポットを持ち上げようとし、入っていたコーヒーが少しこぼれた(1歳 男児)
ホームベーカリーに触る	ホームベーカリーで食パンを焼いていたところ、出来あがりの合図が鳴った時にお手伝いのつもりで蓋をあけて取りだそうとした。(年齢不明 女児)

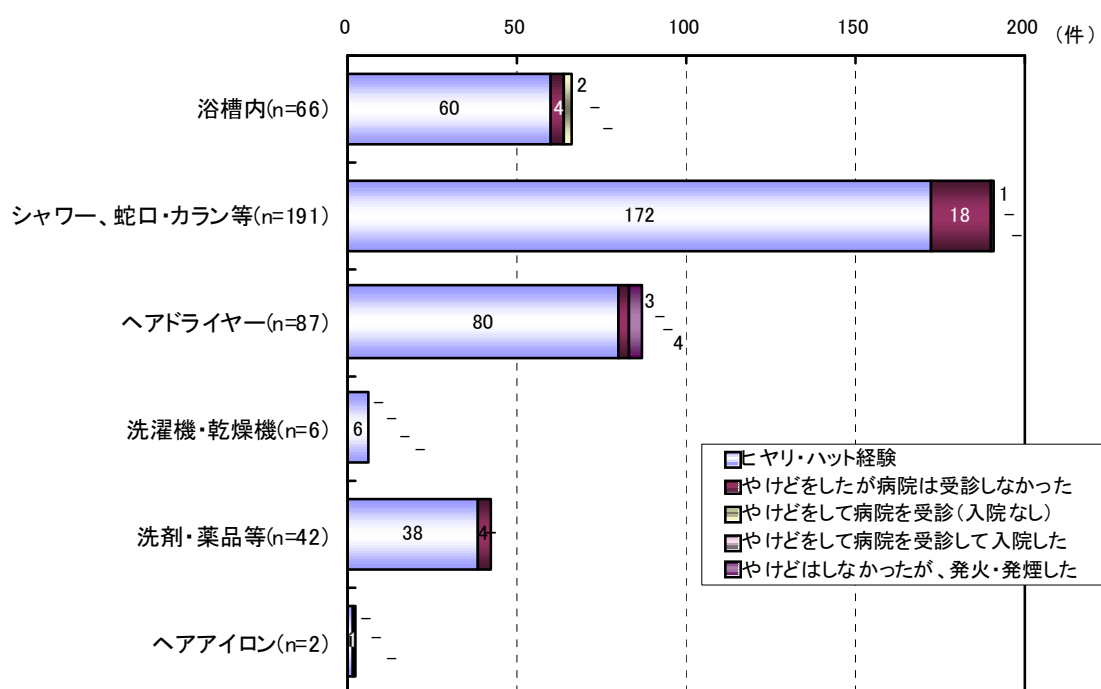
5. 浴室、洗面、トイレ用品等によるやけど

(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（浴室、洗面、トイレ用品等）

〔図表5-1-1〕は、住宅における、浴室、洗面、トイレ用品等でのやけど経験について、製品ごとに危害程度を集計したものである。

シャワー、蛇口・カラン等が191件と最も多く、次いでヘアドライヤーが87件、浴槽内が66件と続いている。これらの製品はヒヤリ・ハット事例が約9割を占めており、実際にやけどに至った事例の割合は低い。

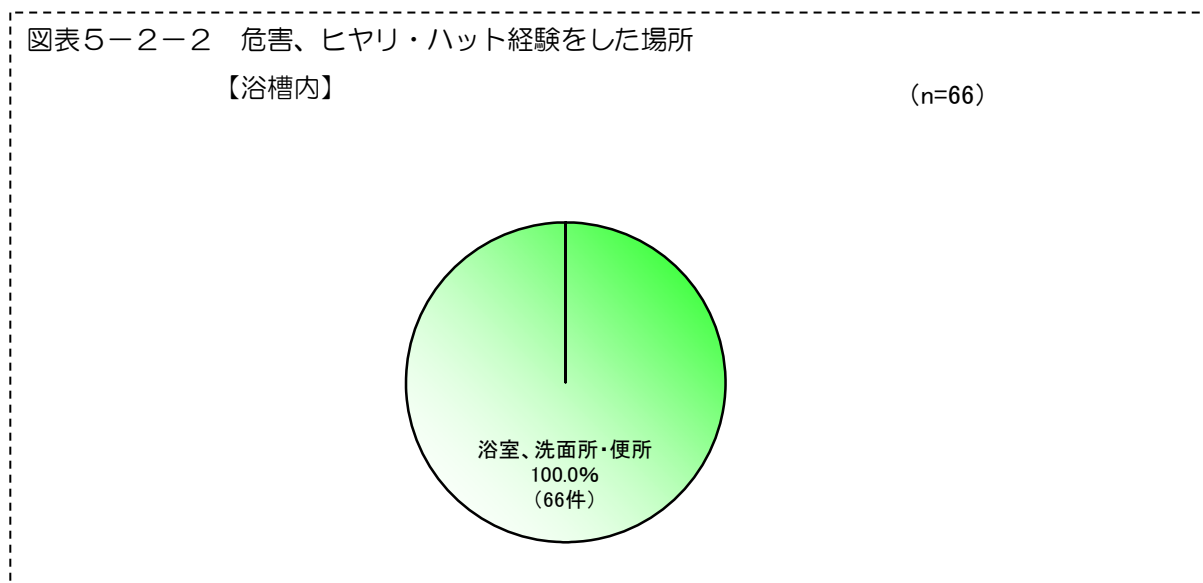
図表5-1-1 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（浴室、洗面、トイレ用品等）



(2) 製品・場面別：浴槽内

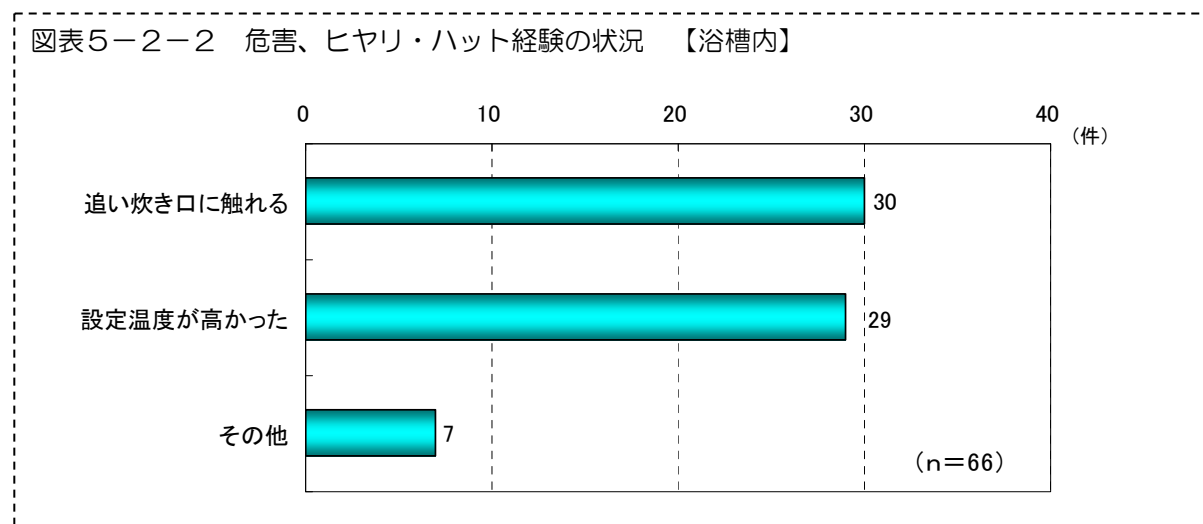
〔図表5-2-1〕は、【浴槽内】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

66件中、「浴室、洗面所・便所」が全てを占めている。



〔図5-2-2〕は、【浴槽内】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

66件中、「追い炊き口に触れる」が30件で最も多く、保護者向けの設定温度にしたまま、子どもを入浴させた「設定温度が高かった」が29件となっている。



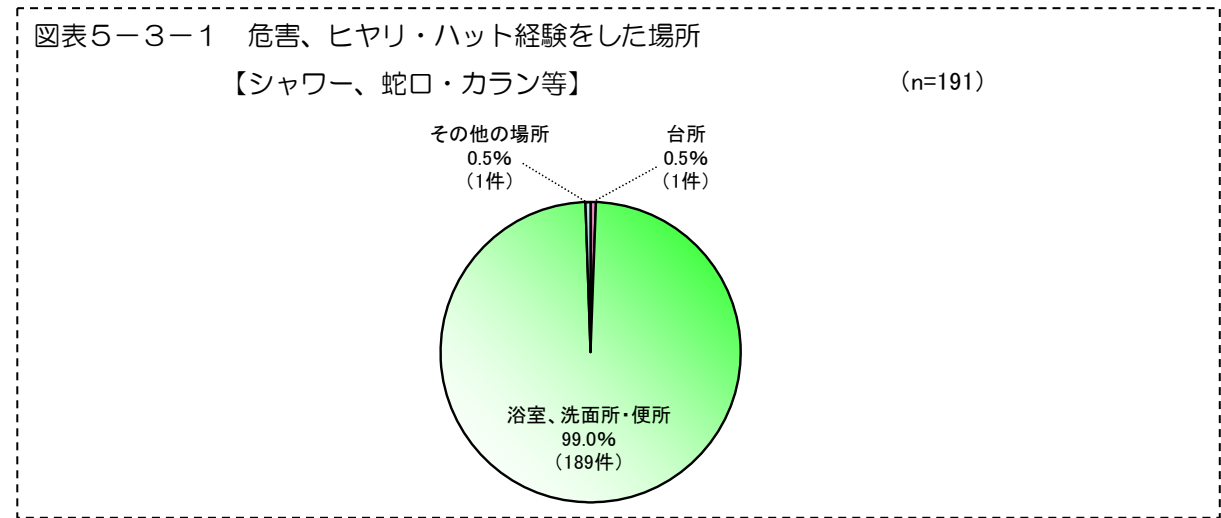
主な事例

追い炊き口に触れる	追い炊きで熱いお湯が出ているところに背中があたった。(2歳 男児)
	娘と一緒に母親がお風呂に入っていたとき、追い炊き機能が自動になっていて、ぬるくなったときに自動的に追い炊きし始めた。風呂釜からのお湯に体が触れやけどしそうになった。(3歳 女児)
設定温度が高かった	丁度良い湯温を出しているつもりが、熱いお湯が出ているのに気付かず湯船に入れてしまい、子どもに熱いと言われて気付いた。(3歳 女児)

(3) 製品・場面別：シャワー、蛇口・カラン等

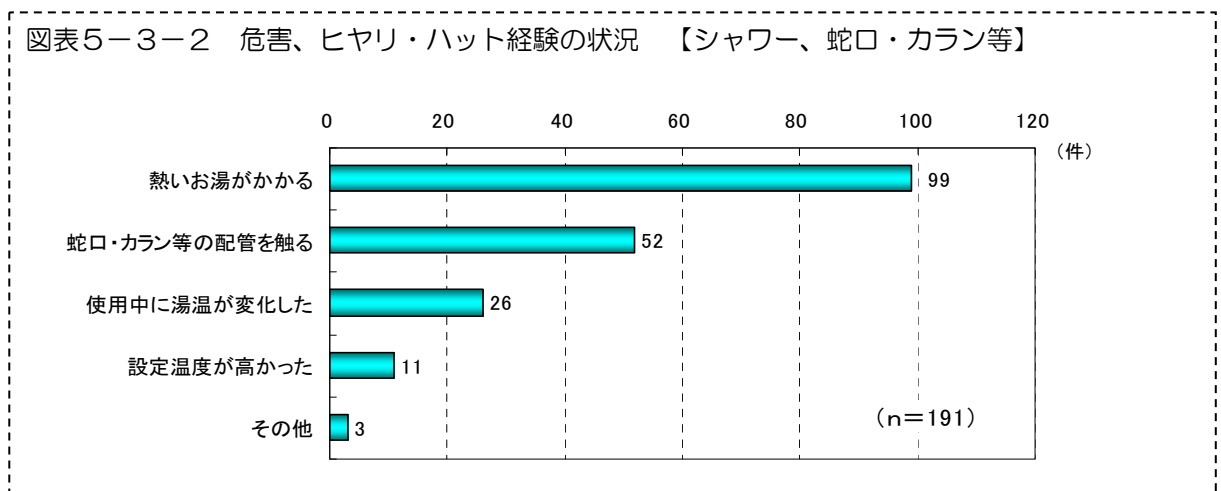
〔図表5-3-1〕は、【シャワー、蛇口・カラン等】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

191件中、「浴室、洗面所・便所」が99.0%（189件）となっている。



〔図表5-3-2〕は、【シャワー、蛇口・カラン等】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

191件中、「熱いお湯がかかる」が99件で最も多く、「蛇口・カラン等の配管を触る」が52件、シャワー等を「使用中に湯温が変化した」が26件となっている。



主な事例

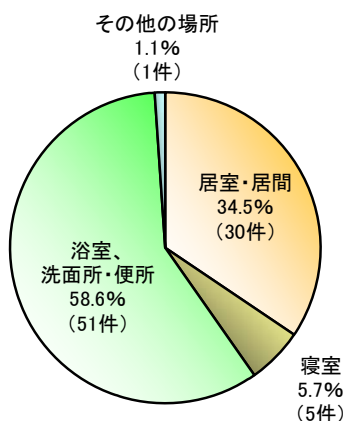
熱いお湯がかかる	母親と風呂に入っている時に、息子が勝手にシャワーを出していきなり熱いお湯がでてきた為、やけどしそうになった。(2歳 男児)
蛇口、カラン等を触る	浴室のシャワーでお湯を出しているとき、カランが熱くなっていてちょっと触ってしまった。やけどほどではないが、熱くて泣いていた。(1歳 女児)
使用中、温度が変化した	マンションの給湯器が故障していたのか突如熱いお湯が出るが多々あった。子どもを洗っているときにすごい熱いお湯が突如出てきて火傷しそうになった。(0歳 男児)
	母親が娘にシャワーをかけている時、突然お湯が熱くなり、やけどしそうになった。(5歳 女児)

(4) 製品・場面別：ヘアドライヤー

〔図表5-4-1〕は、【ヘアドライヤー】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

87件中、「浴室、洗面所・便所」が58.6%（51件）で最も多く、次いで「居室・居間」が34.5%（30件）となっている。

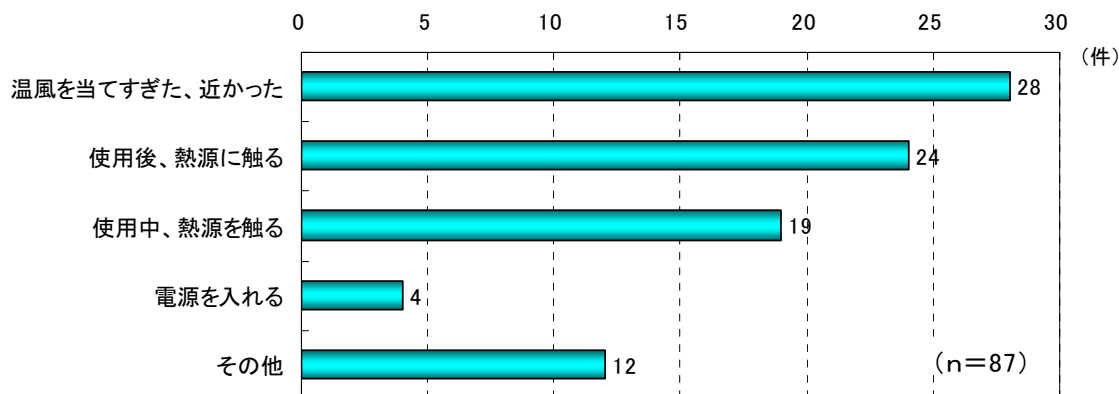
図表5-4-1 危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所 【ヘアドライヤー】 (n=87)



〔図表5-4-2〕は、【ヘアドライヤー】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

87件中、子供の髪を乾かすために「温風を当てすぎた、近かった」が28件で最も多く、次いで「使用后、熱源に触る」が24件、「使用中、熱源に触る」が19件となっている。

図表5-4-2 危害、ヒヤリ・ハット経験の状況 【ヘアドライヤー】

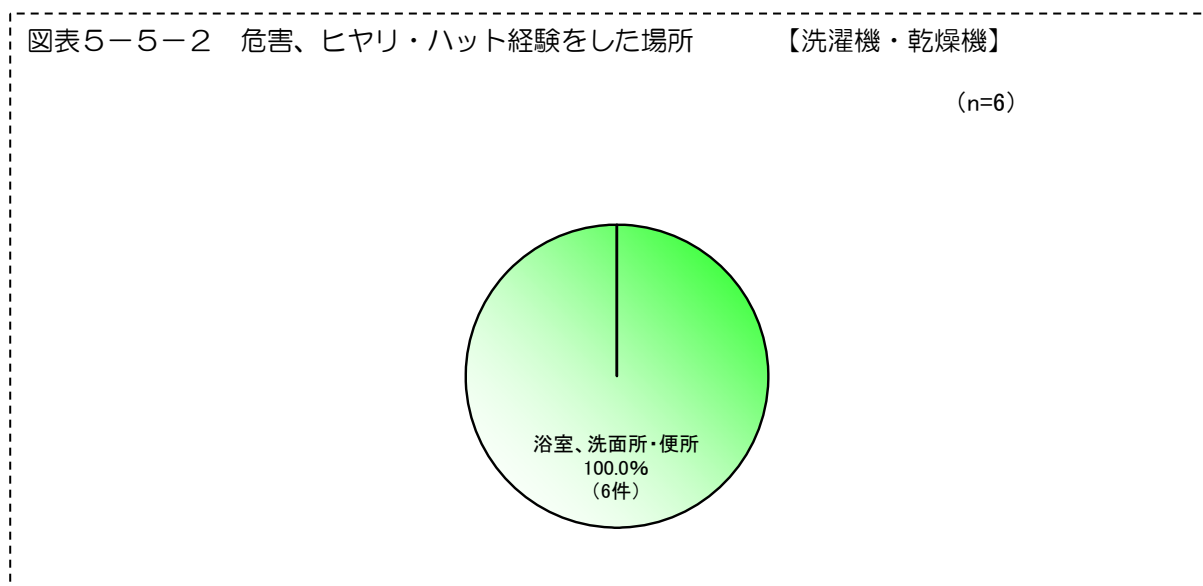


主な事例

温風を当てすぎた、近かった	子どもの髪にドライヤーを当てていた際、うっかり耳のごく近くに当ててしまい、やけどしそうになった。子どもが大きな声で泣いたので、すぐにドライヤーを停止した。(3歳 男児)
	ドライヤーで娘の髪を乾かしている時、同じ箇所に熱風を当てすぎて娘が熱がった。(5歳 女児)
使用后、熱源に触る	髪を乾かした後にヘアドライヤーを洗面台に置いていたら、娘が吹き出し口に触ろうとしてヒヤリとしました。(3歳 女児)

(5) 製品・場面別：洗濯機・乾燥機

〔図表5-5-2〕は、【洗濯機・乾燥機】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。



【洗濯機・乾燥機】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況としては、「乾燥中・後の洗濯・乾燥機に触った。」などが挙げられている。

主な事例

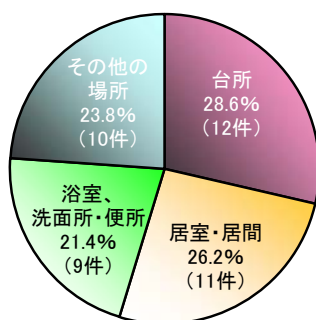
乾燥中・後の洗濯・乾燥機に触った	使用后、かなり熱くなっているドラム型の乾燥機の扉に、息子が触ってやけどしそうになった。(2歳 男児)
乾燥後の衣服に触れそうになった	乾燥機をかけたばかりのまだ熱い衣服に触りそうになった。(1歳 女児)

(6) 製品・場面別：洗剤・薬品等

〔図表5-7-1〕は、【洗剤・薬品等】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

図表5-7-1 危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所 【洗剤・薬品等】

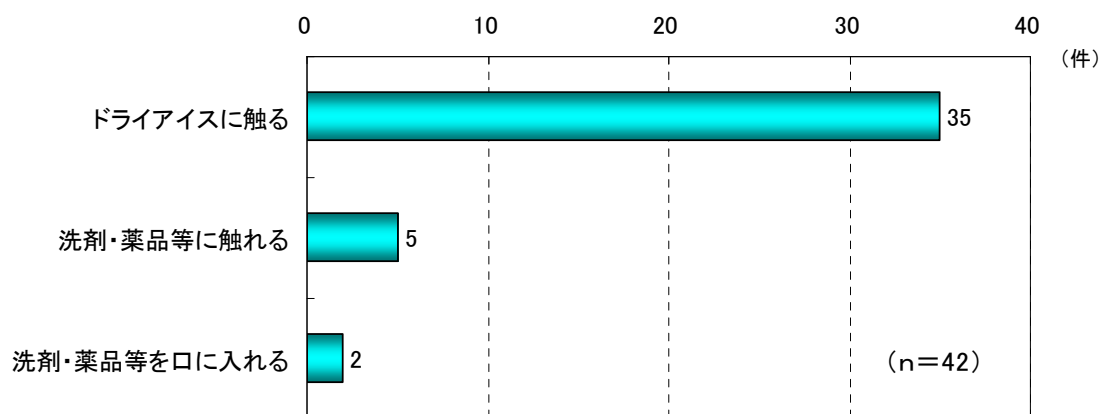
(n=42)



〔図表5-7-2〕は、【洗剤・薬品等】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

42件中、食品の冷却用の「ドライアイスに触る」が35件となっている。

図表5-7-2 危害、ヒヤリ・ハット経験の状況 【洗剤・薬品等】

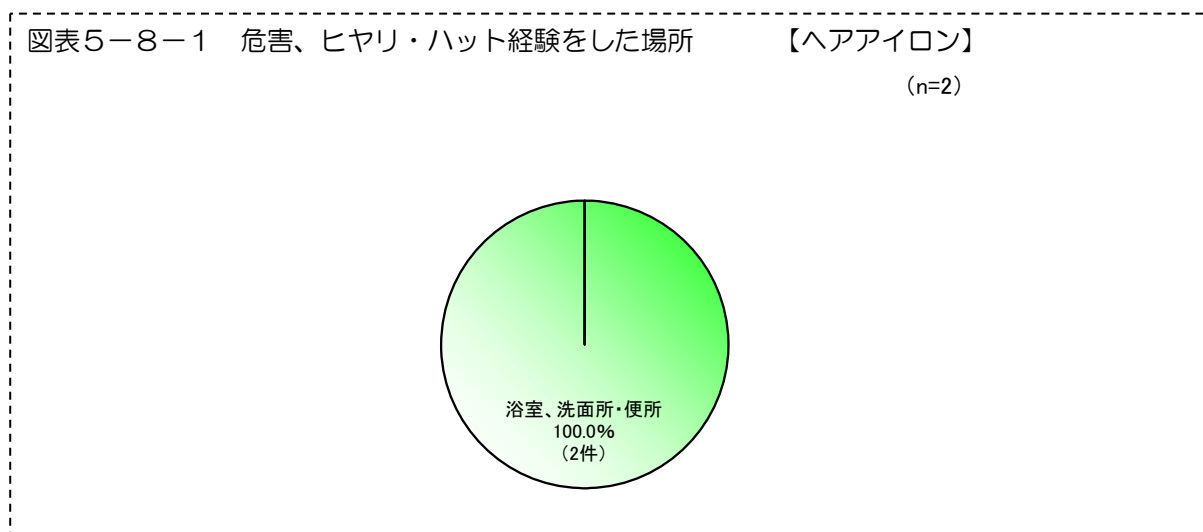


主な事例

ドライアイスに触る	宅配が届き、中を開けて冷蔵庫にしまおうとしたときに、入っていたドライアイスを持ってしまい、アチッといって放した。(3歳 男児)
洗剤・薬品等に触れる	息子がハイハイをして洗面所に行き、漂白剤が入ったバケツを覗き込み、手を掛けこぼれそうになった。(0歳 男児)

(7) 製品・場面別：ヘアアイロン

〔図表5-8-1〕は、【ヘアアイロン】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について、集計した。



【ヘアアイロン】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況の具体例として、「使用中、放置していたヘアアイロンに触ってしまった。」などが挙げられている。

主な事例

使用前のヘアアイロンに触れる	ヘアアイロンを温めて準備しているその場を離れ、知らないうちに子どもが触ってしまった。(2歳 男児)
使用後のヘアアイロンに触れそうになった	使い終わって、まだ熱いヘアアイロンを洗面所に置きっぱなしにしてしまい、それに手を伸ばしているところに気づき、やけどはしないで済んだ。(1歳 女児)

6. 生活用品や暖房器具等によるやけど

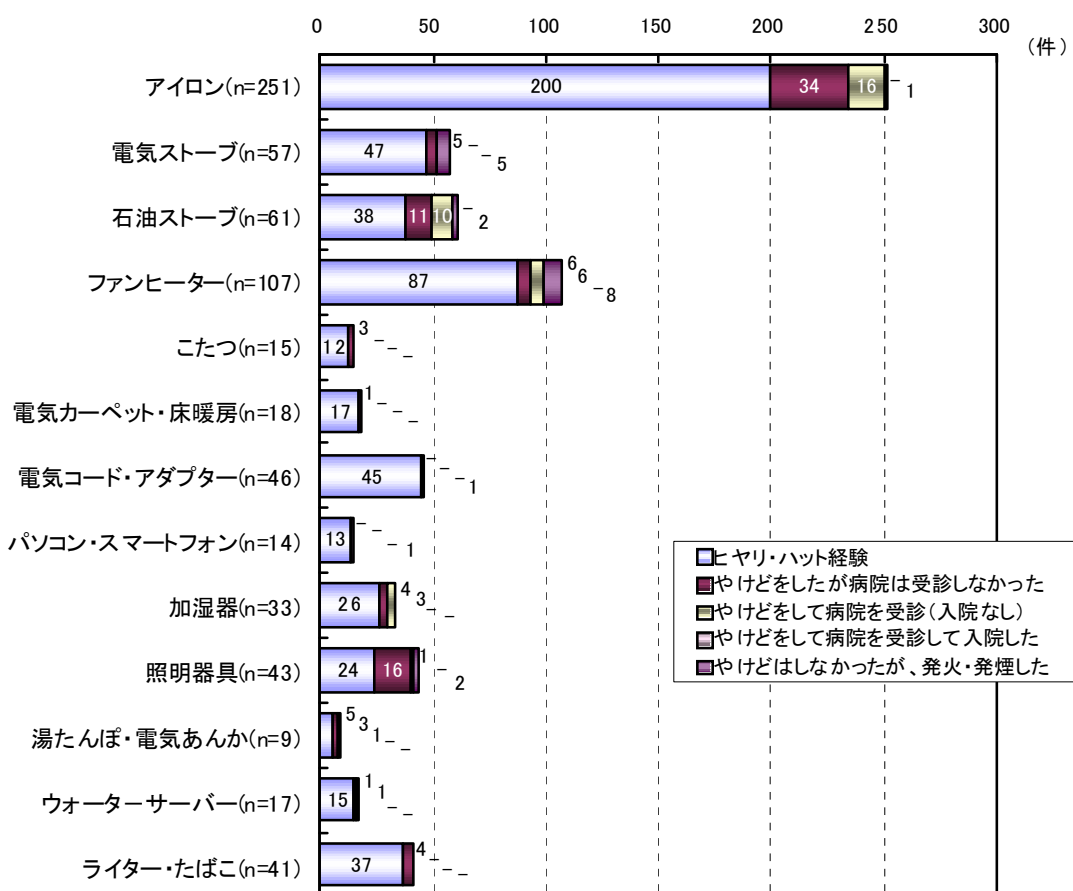
(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（生活用品や暖房器具等）

〔図表6-1-1〕は、住宅における、生活用品や暖房器具等でのやけど経験について、製品ごとに危害程度を集計したものである。

アイロンが251件と最も多く、実際にやけどに至った事案も2割近くを（19.9% 50件）占めている。

その他、やけどに至った事案の割合が高い製品としては石油ストーブ（34% 21件）や照明器具（44% 19件）が挙げられる。

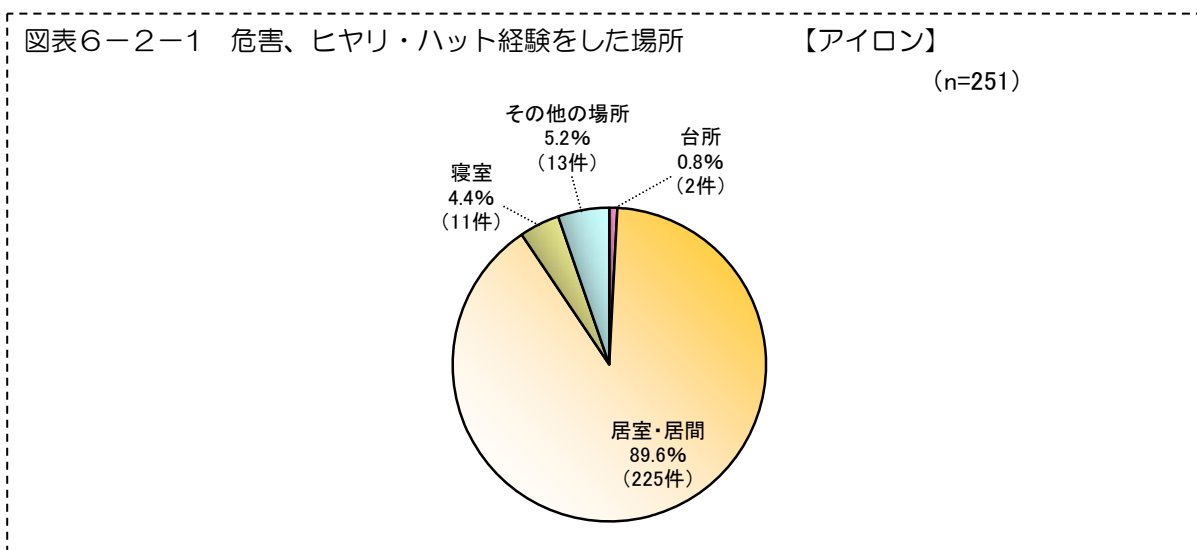
図表6-1-1 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（生活用品や暖房器具等）



(2) 製品・場面別：アイロン

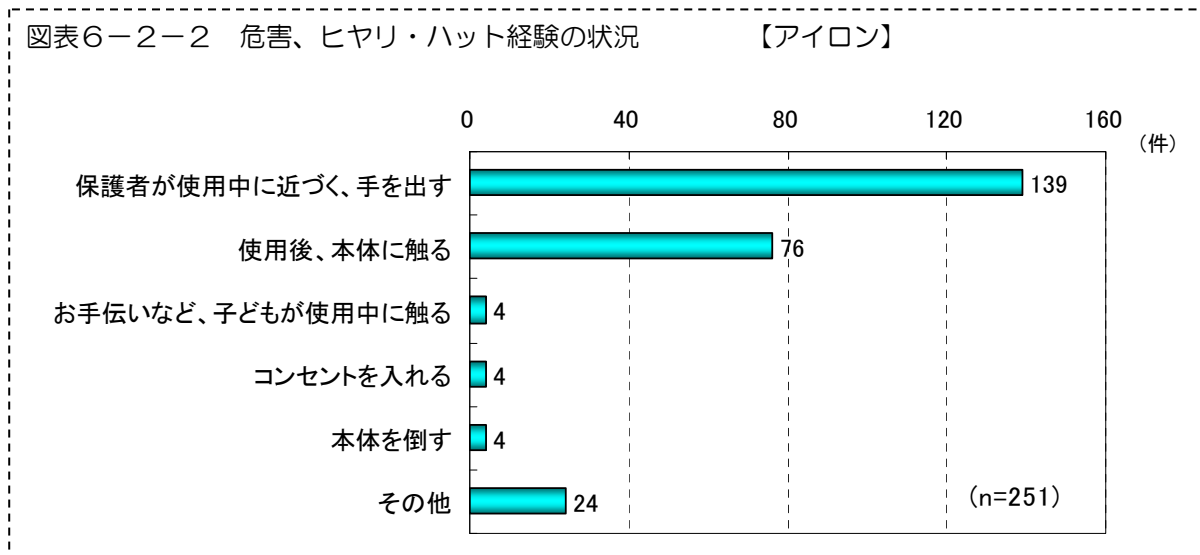
〔図表6-2-1〕は、【アイロン】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

251件中、「居室・居間」が89.6%（225件）となっている。



〔図表6-2-2〕は、【アイロン】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について、集計したものである。

251件中、「保護者が使用中に近づく、手を出す」が139件で最も多く、次いで「使用后、本体に触る」が76件となっている。



主な事例

保護者が使用中に近づく、手を出す	兄弟ともみ合いになり、アイロンをしていた私の方に下の子が飛んできて、顔をやけどした。(1歳 男児)
使用后、本体に触る	アイロンを使用した後、10分少し経っていたが、まだ熱く、少し目を離れたすきに娘が触ってしまった。(1歳 女児)

(3) 製品・場面別：電気ストーブ

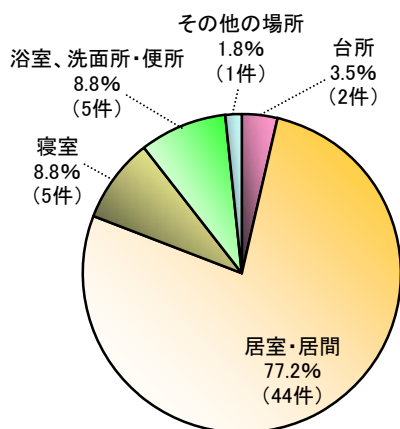
〔図表6-3-1〕は、【電気ストーブ】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の経験した場所について集計したものである。

57件中、「居室・居間」が77.2%（44件）となっている。

図表6-3-2 危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所

【電気ストーブ】

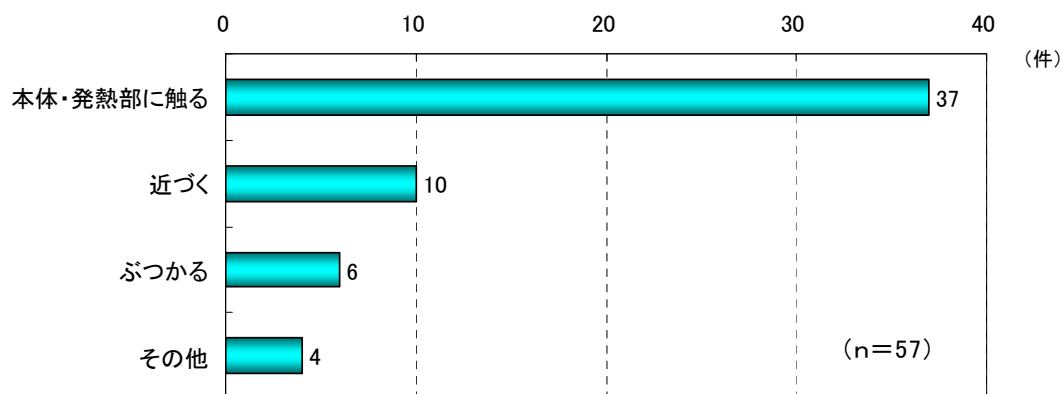
(n=57)



〔図表6-3-2〕は、【電気ストーブ】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

57件中、「本体・発熱部に触る」が37件となっている。

図表6-3-3 危害、ヒヤリ・ハット経験の状況 【電気ストーブ】



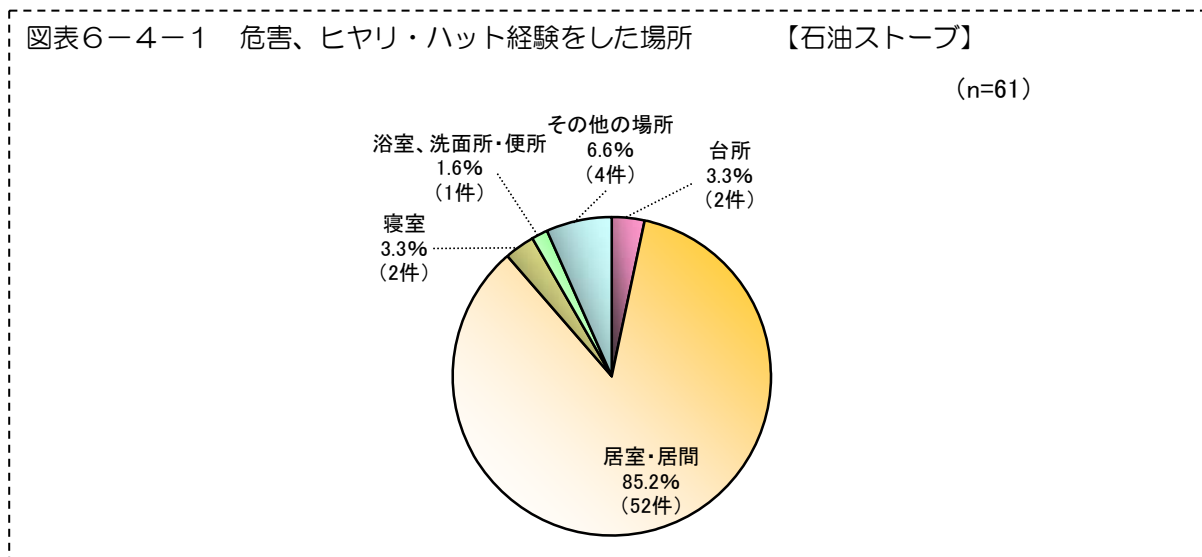
主な事例

本体・発熱部に触る	娘が電気ストーブのオレンジの明かりに興味を持ち、手で触ろうとした。(1歳 女兒)
近づく	夜中の授乳中ストーブの近くにいたところ、数分ウトウトしてしまい、息子のおでこが真っ赤になってしまった。(0歳 男児)

(4) 製品・場面別：石油ストーブ

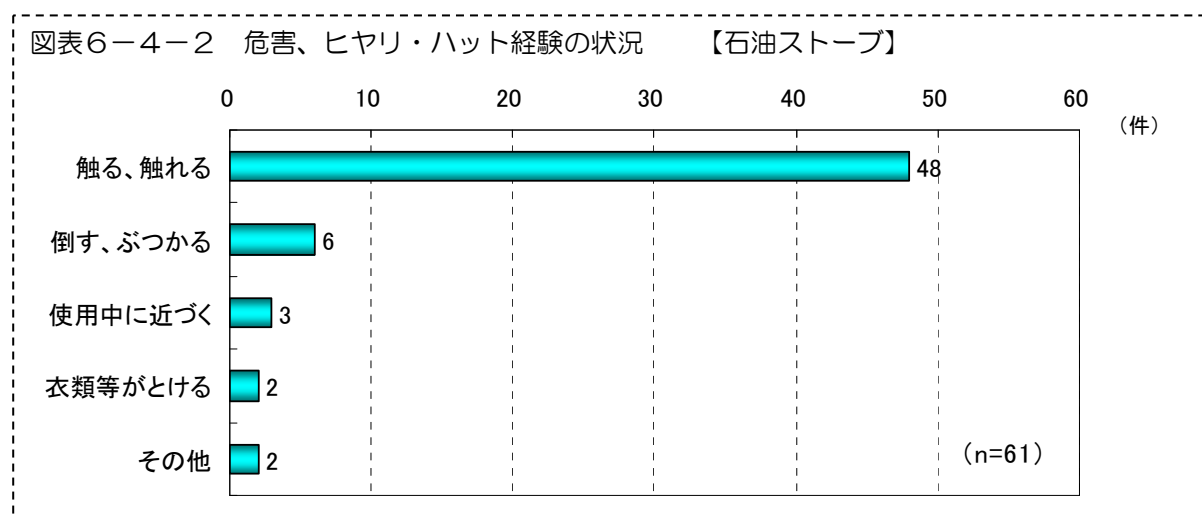
〔図表6-4-1〕は、【石油ストーブ】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。

61件中、「居室・居間」が85.2%（52件）となっている。



〔図表6-4-2〕は、【石油ストーブ】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

61件中、「触る、触れる」が48件となっている。また、本体に近づきすぎたため「衣類等がとける」という経験も挙げられた。



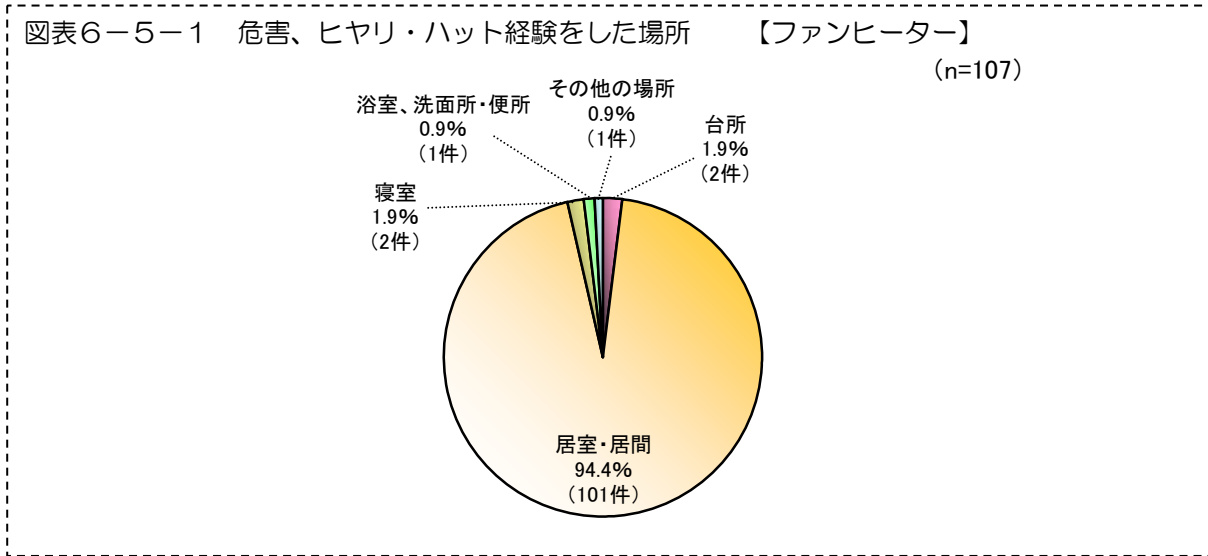
主な事例

触る、触れる	目を離した一瞬の際にストーブの上を触ってしまって、手のひらを火傷した。 (3歳 男児)
	ストーブの周りに柵を設置していたがその隙間から指を入れてしまって火傷をしまい水ぶくれになった。(2歳 女児)

5) 製品・場面別：ファンヒーター

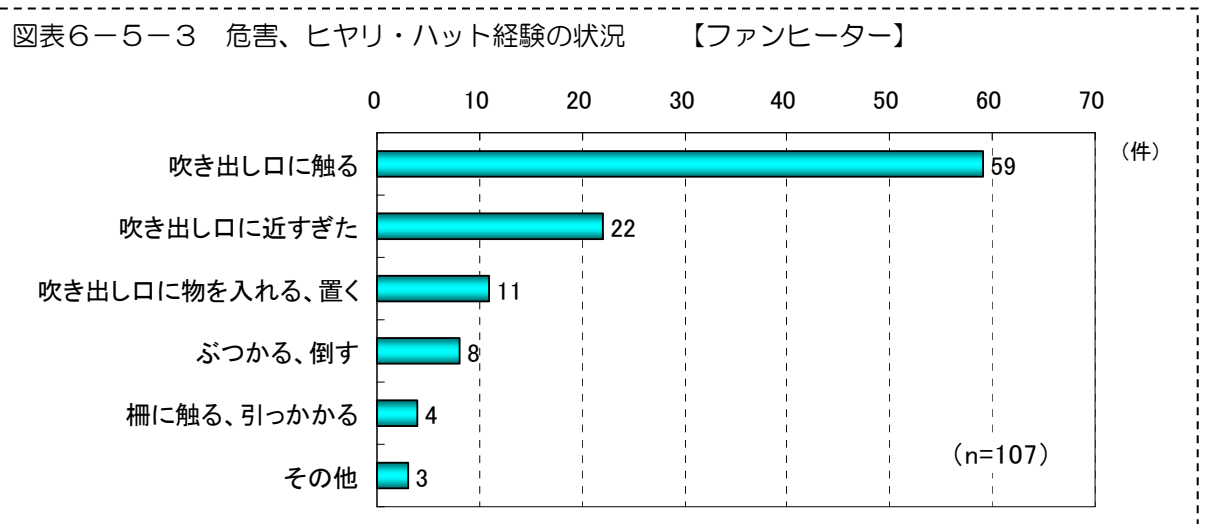
〔図表6-5-1〕は、【ファンヒーター】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の経験した場所について、集計した。

107件中、「居室・居間」が94.4%（101件）となっている。



〔図表6-5-2〕は、【ファンヒーター】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

107件中、「吹き出し口に触る」が59件で最も多く、「吹き出し口に近すぎた」が22件となっている。また、「吹き出し口に物（鉛筆やプラスチック製品など）を入れる、置く」が11件となっている。

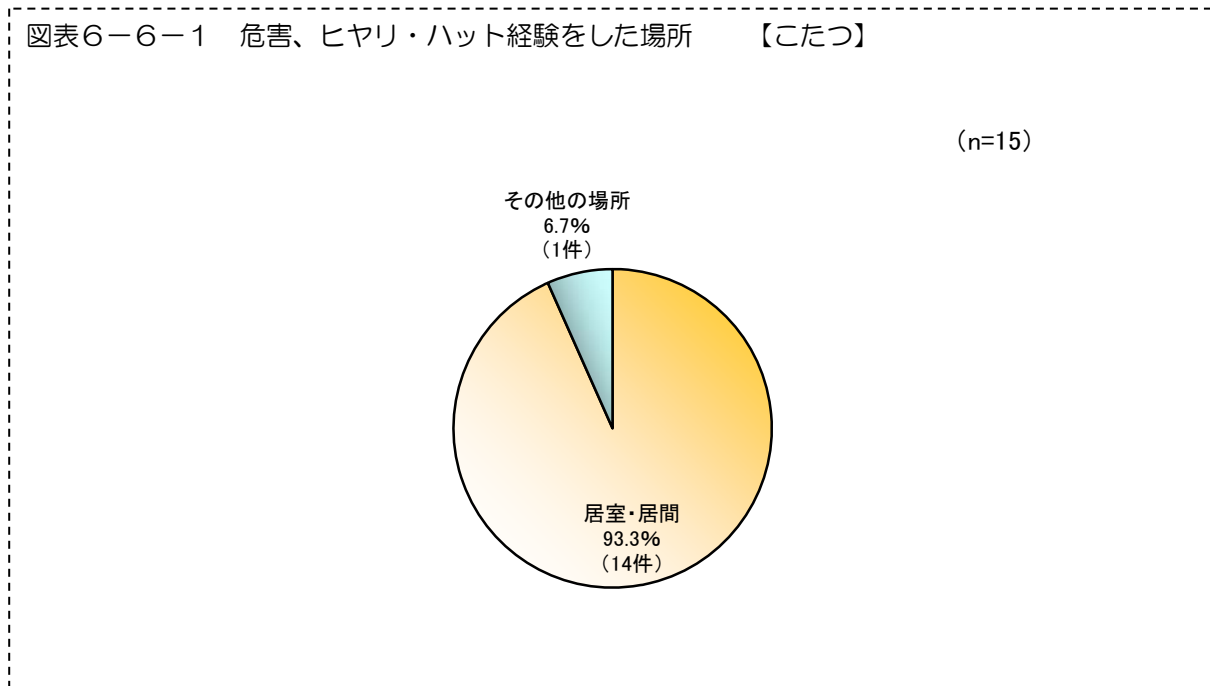


主な事例

吹き出し口に触る	目を離れたすきにファンヒーターの吹き出し口に手を入れようとしていた。 (2歳 男児)
吹き出し口に物を入れる	ファンヒーターの吹き出し口のところに紙をつっこんで遊んでしまっていた。 (0歳 女児)
	子どもがいつの間にかちり紙をちぎってヒーターの目地から中に押し込んでいた。 それに気がつかずに点火、燃えたちり紙が部屋を舞いました。(4歳 男児)

(6) 製品・場面別：こたつ

〔図表6-6-1〕は、【こたつ】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである



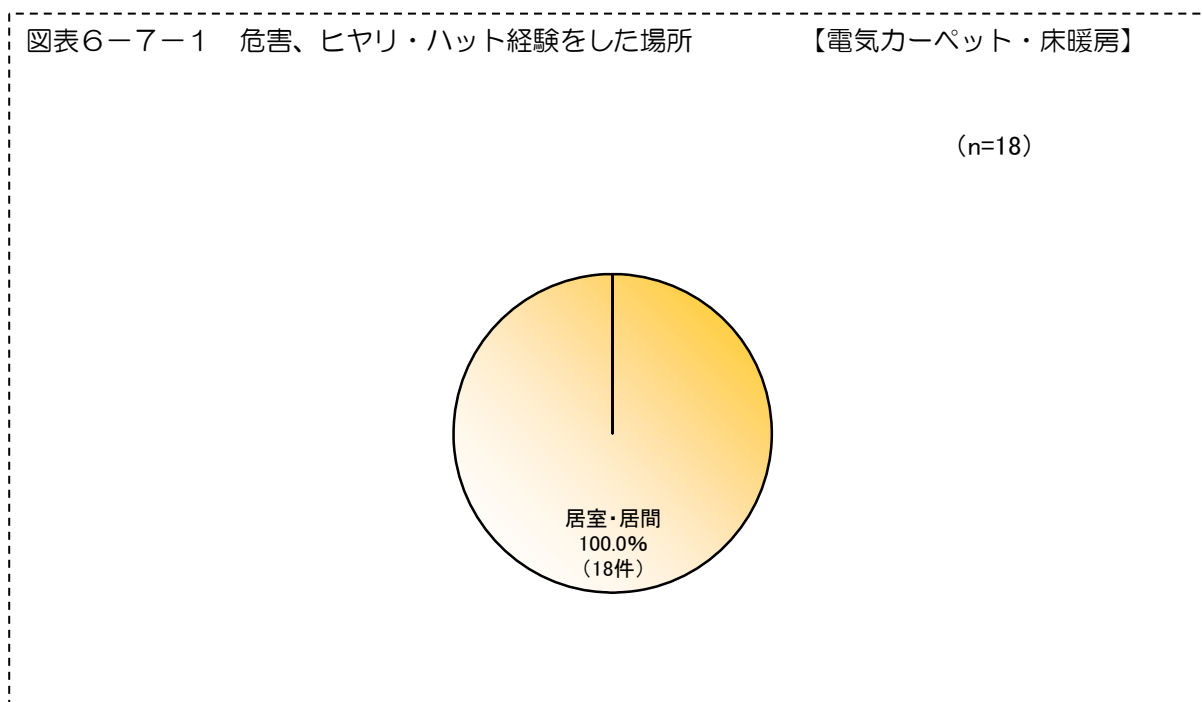
【こたつ】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況として、「長時間の使用」、「発熱部に触る」などが挙げられている。

主な事例

長時間の使用	こたつで昼寝させていたら、やけどのようになってしまった。(1歳 男児)
発熱部に触る	熱くなっている網状のカバーに子供が足をつけてしまい、やけどをしそうになった。(0歳 男児)

(7) 製品・場面別：電気カーペット・床暖房

〔図表6-7-1〕は、【電気カーペット・床暖房】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について、集計したものである。



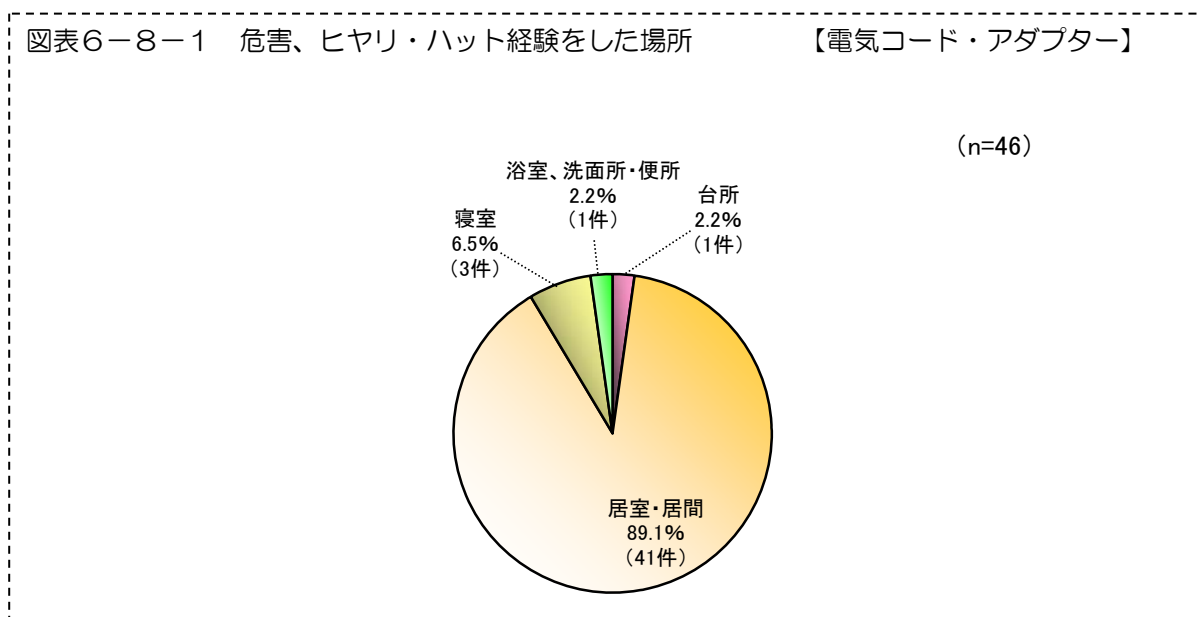
【電気カーペット・床暖房】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況として、こたつでの状況と同じく、カーペット、床暖房の上で寝る等の「長時間の使用」などが挙げられている。

主な事例

長時間の使用	床暖房をつけたまま床の上でうたた寝させていたら、顔をやけどしかけた。 (2歳 男児)
子供がスイッチを入れる	切っていた電気カーペットを子供が点けたのに気がつかず放置。おしりを低温やけどしてしまった。(2歳 男児)

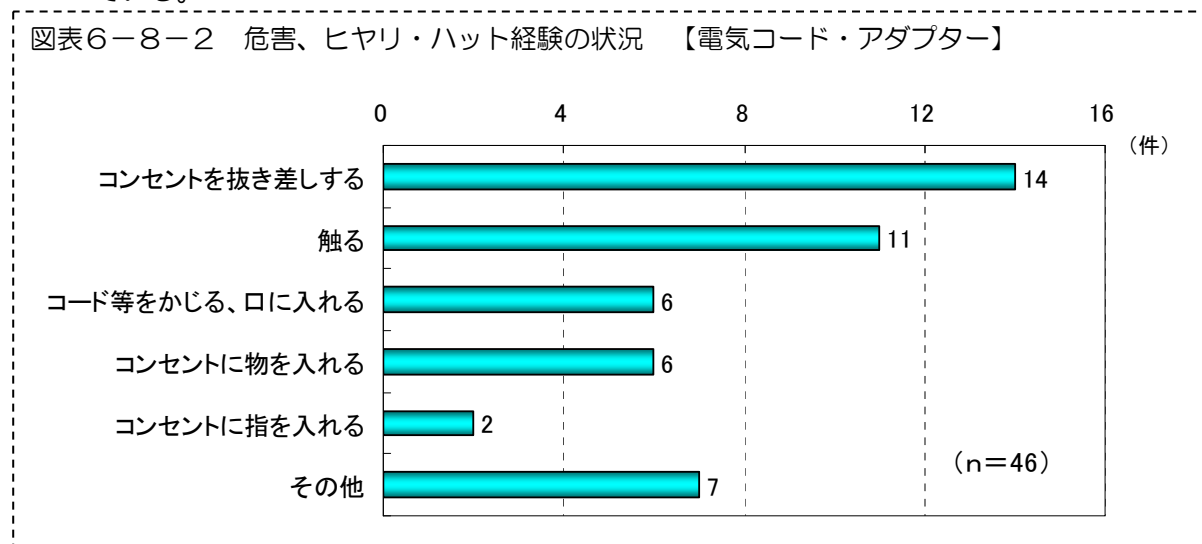
(8) 製品・場面別：電気コード・アダプター

〔図表6-8-1〕は、【電気コード・アダプター】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。



〔図表6-8-2〕は、【電気コード・アダプター】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

46件中、「コンセントを抜き差しする」が14件、コンセントを「触る」が11件となっている。

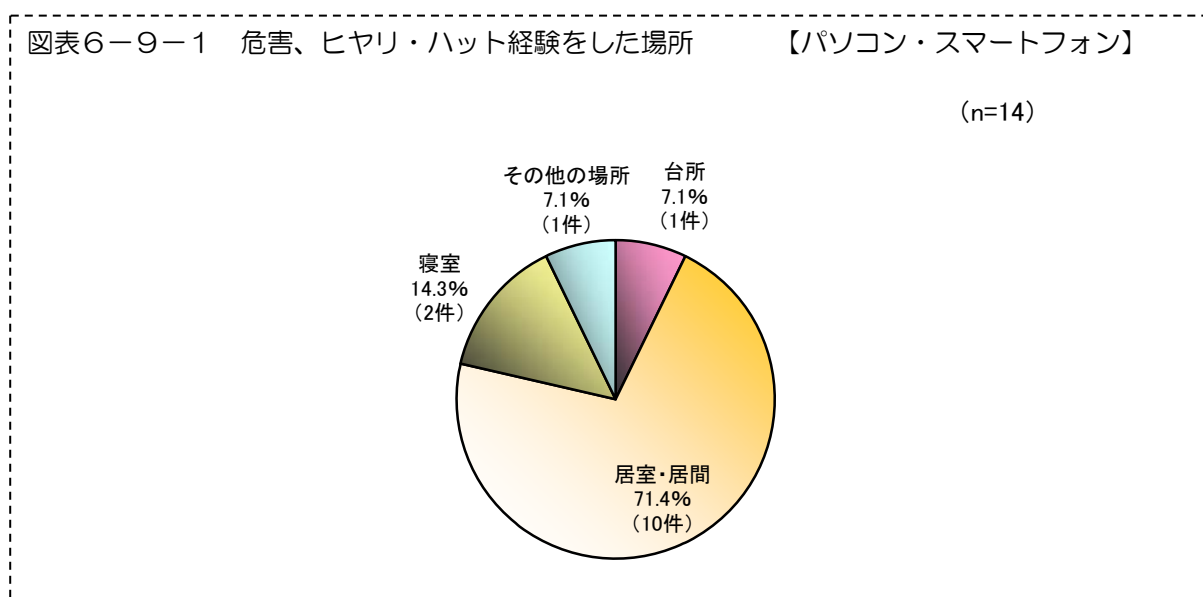


主な事例

コンセントを抜き差しする	アダプターを抜き挿しして火花が散った。(1歳 女兒)
コード等をかじる	息子がハイハイをして電気コードをかんでいた。(0歳 男児)

(9) 製品・場面別：パソコン・スマートフォン

〔図表6-9-1〕は、【パソコン・スマートフォン】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。



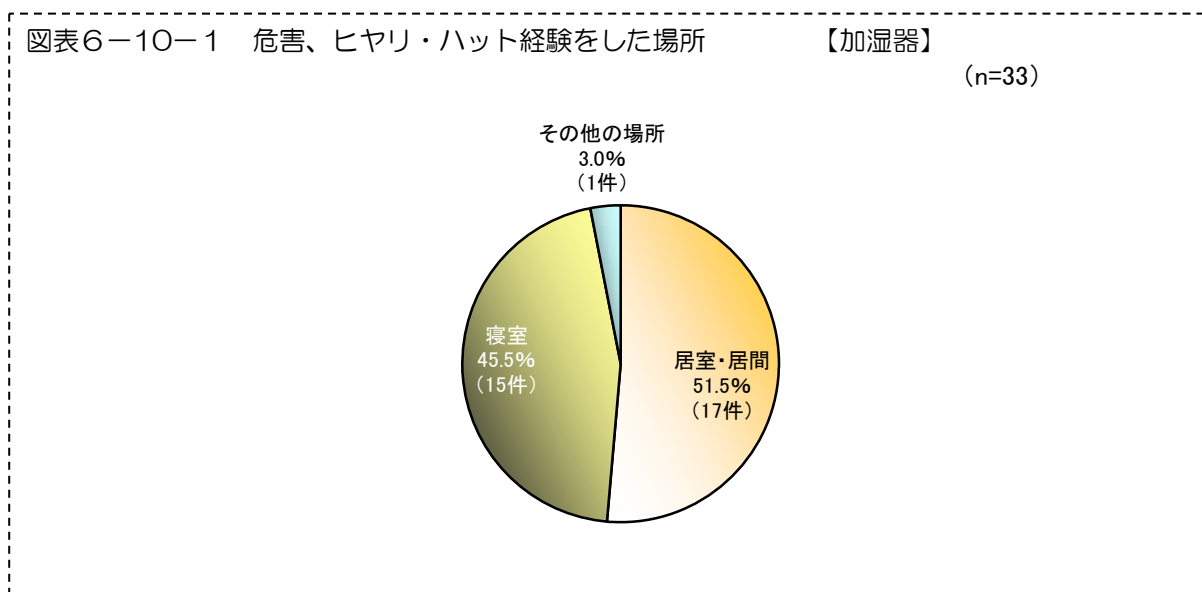
【パソコン・スマートフォン】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況として、充電中のスマートフォンや、使用中のパソコンの「熱くなっている部分に触れる」などが挙げられている。

主な事例

熱くなっている部分に触れる	スマホ充電中にコンセント付近や、充電中で熱くなった携帯を触っていた。 (0歳 男児)
	パソコンの放熱板のところを直接触ろうとしていた。(1歳 女児)

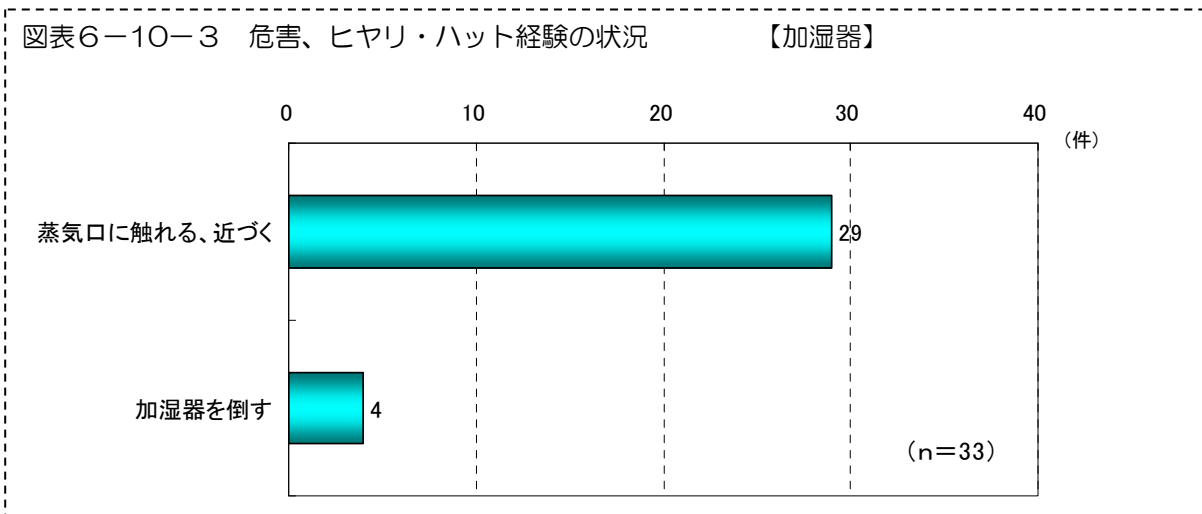
(10) 製品・場面別：加湿器

〔図表6-10-1〕は、【加湿器】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。



〔図表6-10-2〕は、【加湿器】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

33件中、「蒸気口に触れる、近づく」が29件となっている。

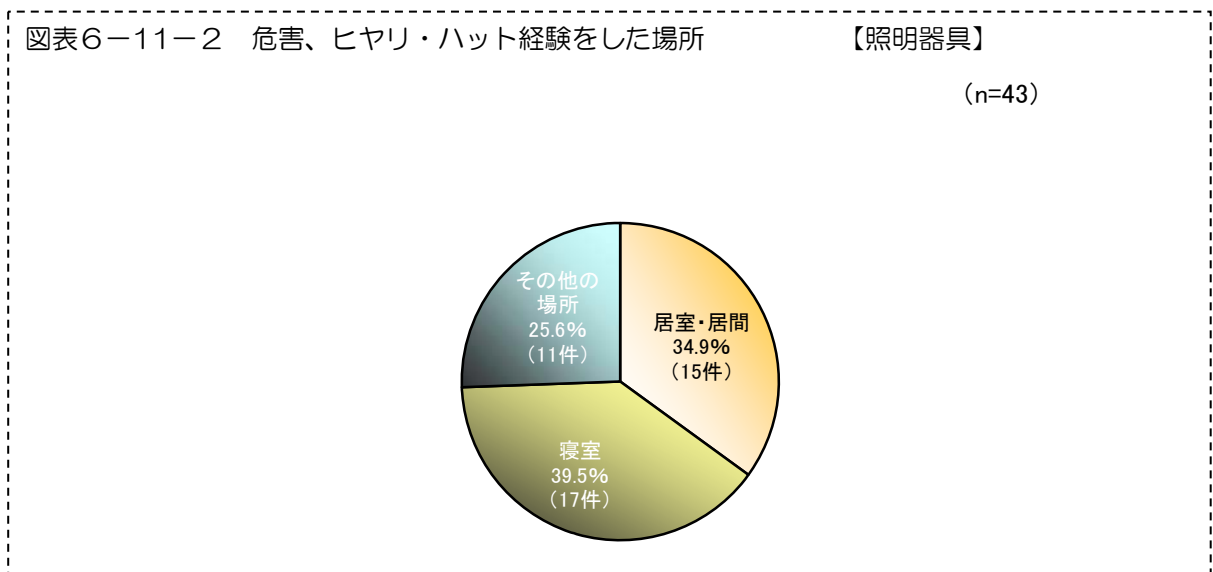


主な事例

蒸気口に触れる	スチーム式加湿器の吹き出し口に触れてしまい、手を火傷した。(1歳 男児)
	加湿器を覗きこみ、高温の蒸気を受け、やけどしそうになった。(2歳 女児)

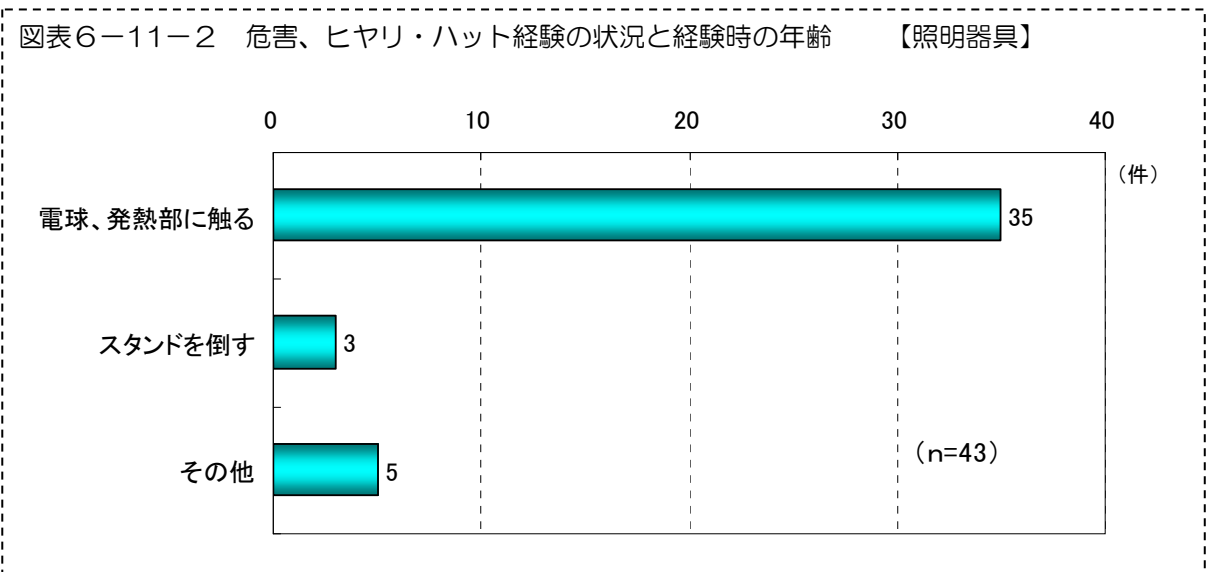
(11) 製品・場面別：照明器具

〔図表6-11-1〕は、【照明器具】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。



〔図表6-11-2〕は、【照明器具】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

43件中、「電球、発熱部に触る」が35件となっている。

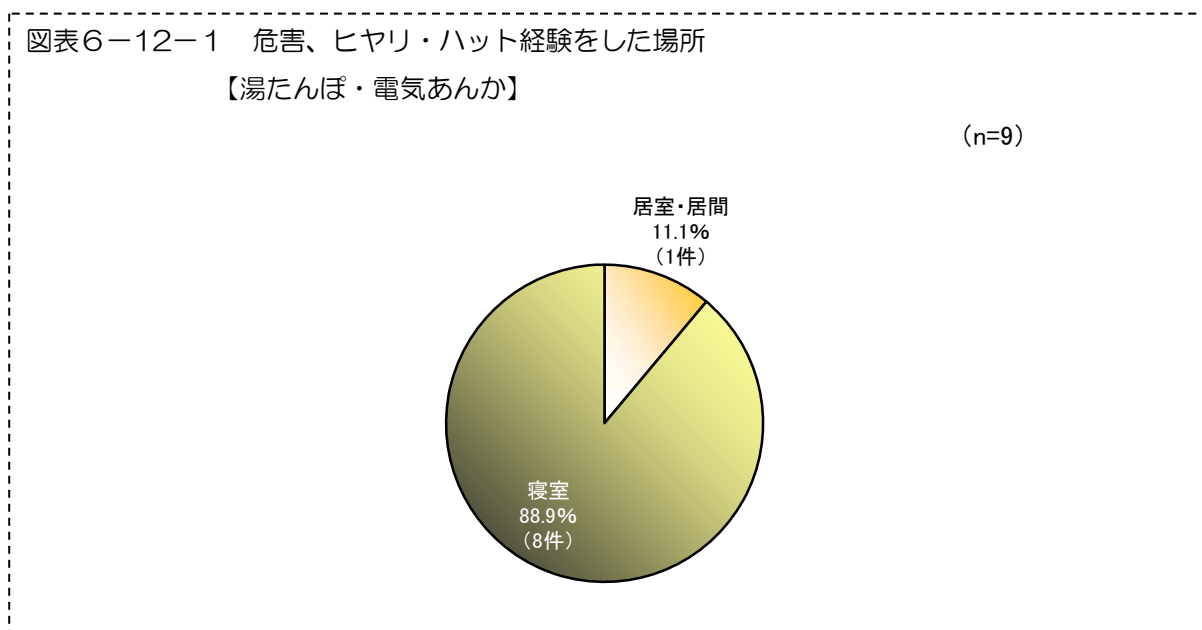


主な事例

電球、発熱部に触れる	枕元の電気スタンドが光っているのに興味をもち、白熱電球をさわってしまい手のひらに水膨れができた。(1歳 男児)
	外の連絡通路の下にあるダウンライトの電球を直接触り、熱くて泣いた。(1歳 女児)

(12) 製品・場面別：湯たんぼ・電気あんか

〔図表6-12-1〕は、【湯たんぼ・電気あんか】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。



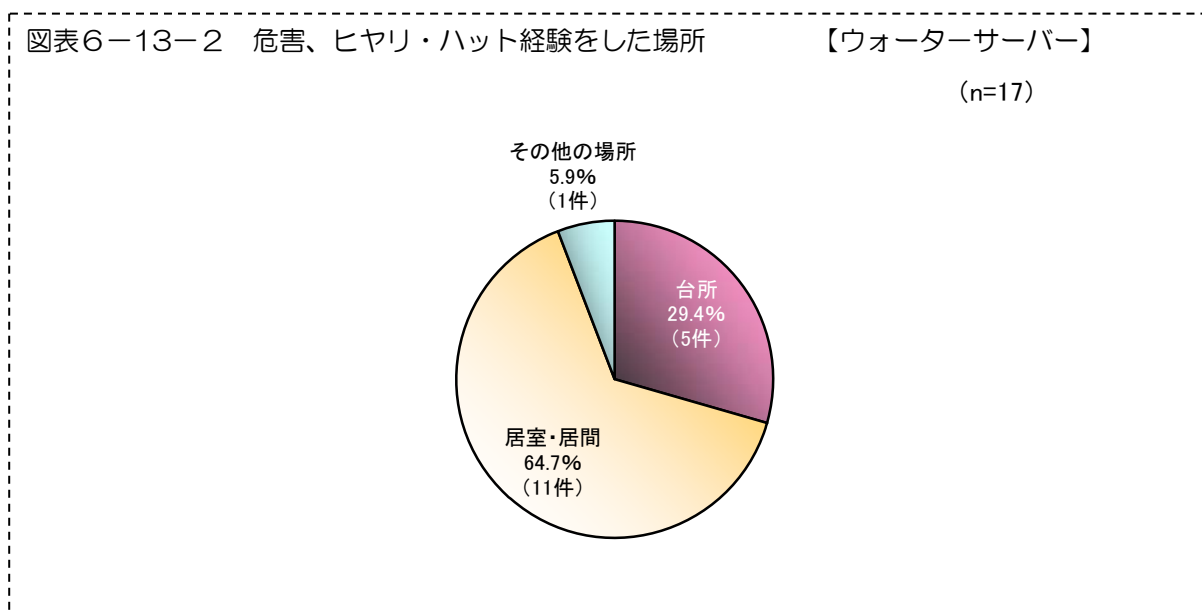
【湯たんぼ・電気あんか】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況として、「布団に入れた湯たんぼでやけどした。」「お湯をこぼした」などが挙げられている。

主な事例

布団に入れた湯たんぼでやけどした	普段寝る前に湯たんぼを取り出しているのだが、その日は湯たんぼを寝る直前に入れた為、お布団が温まっていなかったため、しばらく入れておいたら、子供の太ももがやけどしてしまった。 (3歳 女児)
お湯をこぼした	自分でお布団に入れる際に、口を下にして上に乗ってしまいお湯が漏れた。(4歳 女児)

(13) 製品・場面別：ウォータ - サーバー

〔図表 6 - 13 - 1〕は、【ウォータ - サーバー】における、危害、ヒヤリ・ハット経験を
 した場所について、集計したものである。



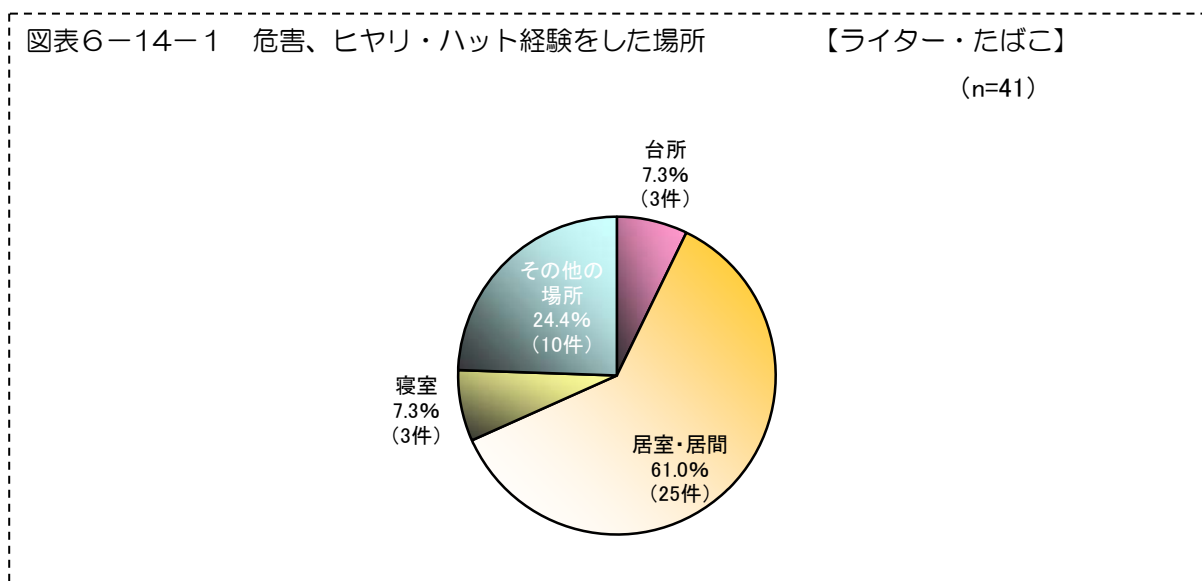
【ウォータ - サーバー】における、危害、ヒヤリ・ハット経験の状況として、熱くなっ
 ている「お湯側のコックに触る。」「出てきたお湯に触る。」などが挙げられている。

主な事例

お湯側のコックに触る	ウォータサーバーのお湯コックを冷水と間違えてさわり、もう少しでやけどを負うところだった。(1歳 女兒)
出てきたお湯に触る	チャイルドロックを付けていたが、お湯を出してしまい指1本軽いやけど。(2歳 女兒)

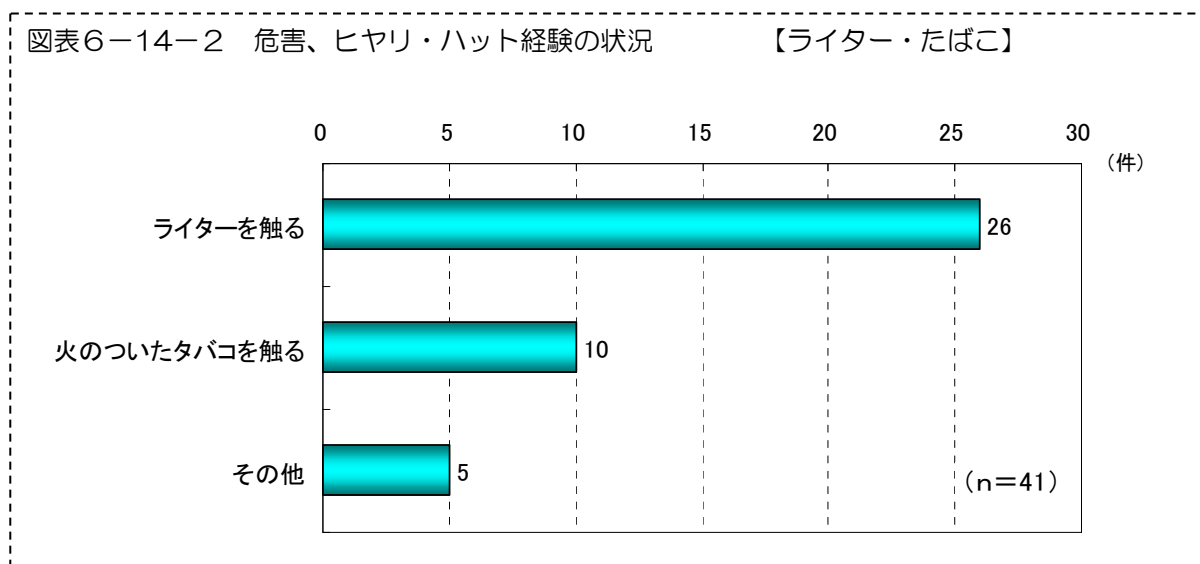
(14) 製品・場面別：ライター・たばこ

〔図表6-14-1〕は、【ライター・たばこ】における、危害、ヒヤリ・ハット経験をした場所について集計したものである。



〔図表6-14-2〕は、【ライター・たばこ】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

41件中、「ライターを触る」が26件、保護者などの「火のついたタバコを触る」が10件となっている。



主な事例

ライターを触る	ライターを寝室に持って行き、カチカチとつけようとしていた。(3歳 男児)
火のついたタバコを触る	灰皿においてあった、まだ消えていないタバコに触れてやけどしそうになった。(3歳 男児)

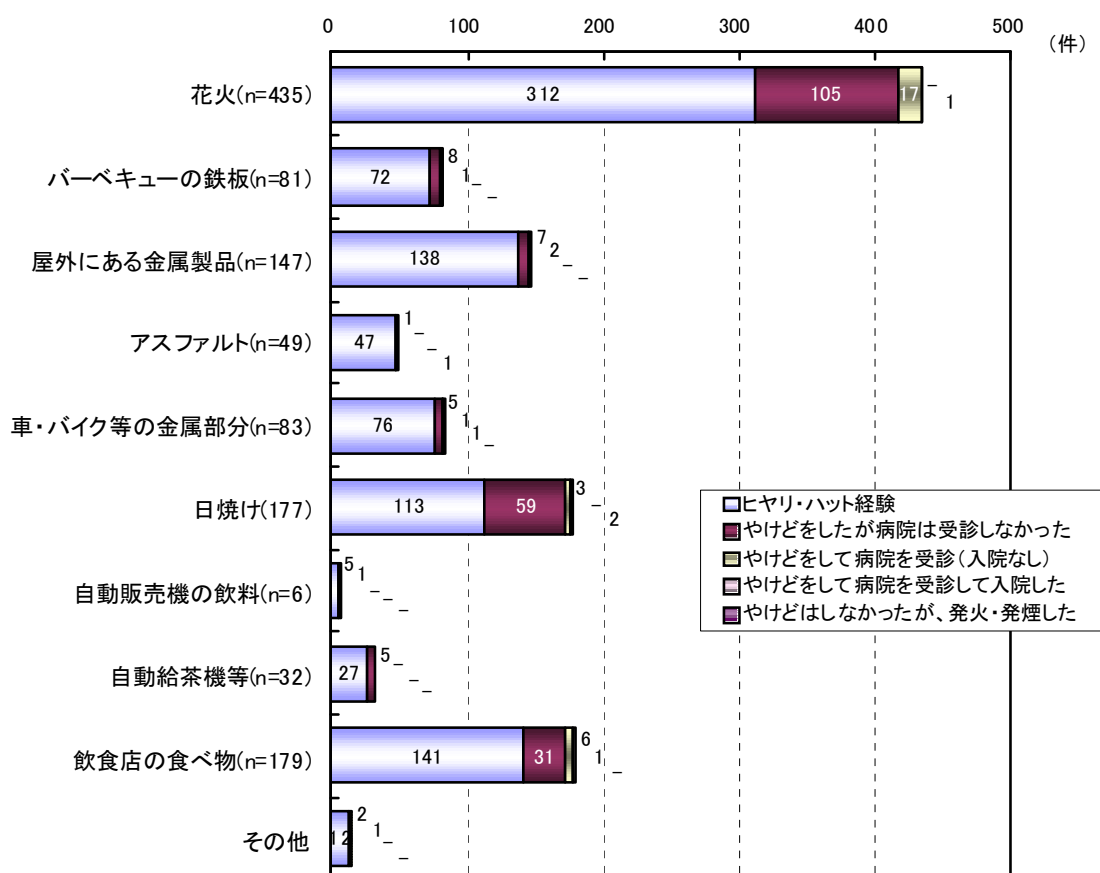
7. 住宅以外におけるやけど

(1) 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（住宅以外）

〔図表7-1-1〕は、住宅以外における、やけど経験について、製品ごとに危害程度を集計したものである。

花火は、危害、ヒヤリ・ハット経験全体が435件と多だけでなく、「やけどをしたが病院は受診しなかった」が105件、「やけどをして病院を受診（入院なし）」が17件とやけどに至った事例が3割近く（28%）を占めている。

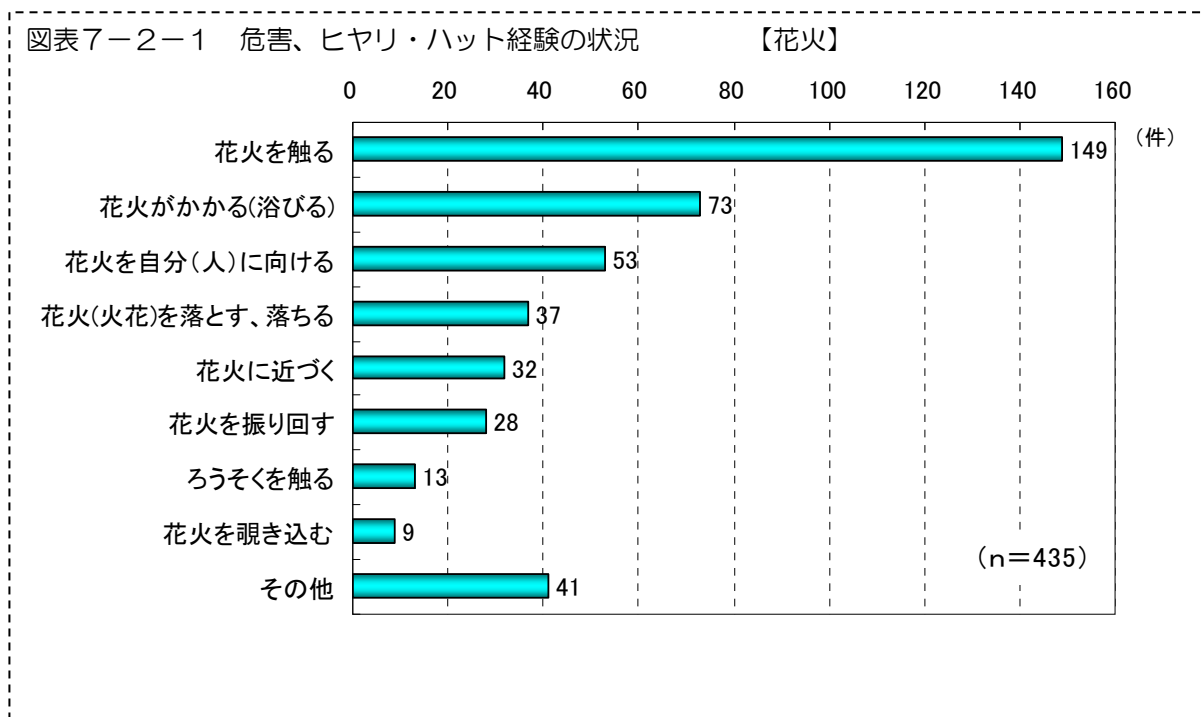
図表7-1-1 危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度（住宅以外）



(2) 製品・場面別：花火

〔図表7-2-1〕は、【花火】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

435件中、「花火を触る」が149件で最も多く、次いで「花火がかかる(浴びる)」が73件、「花火を自分(人)に向ける」が53件となっている。



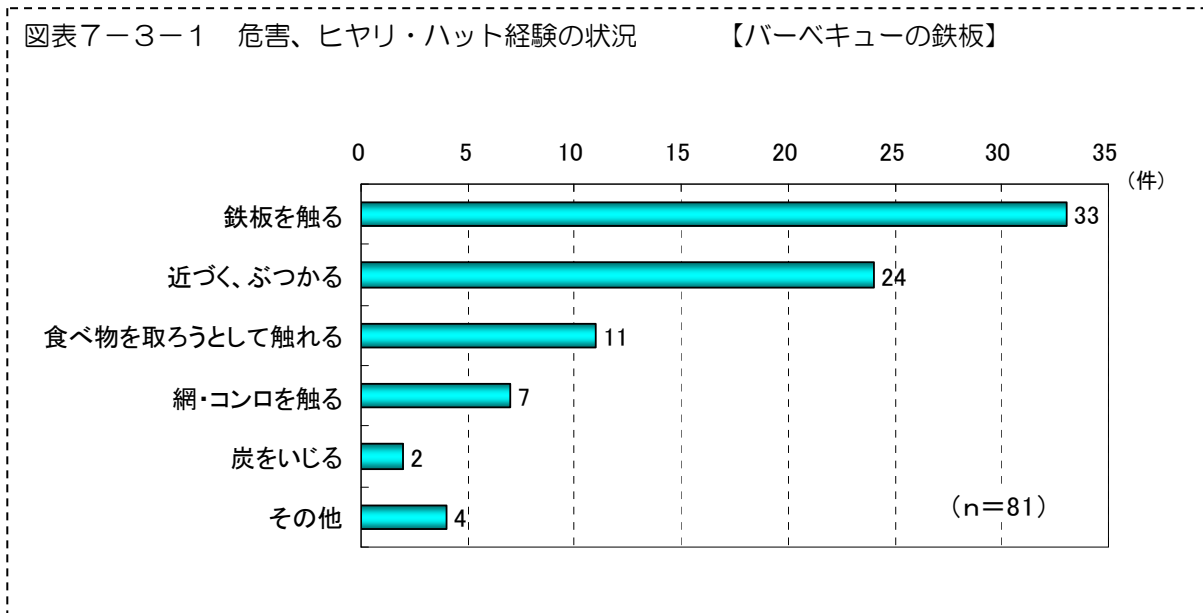
主な事例

花火を触る	公園で友達と花火をしていたとき、終わったばかりのまだ熱い花火をひろおうとしてさわってしまった。(3歳 男児)
花火がかかる	サンダルを履いて花火をしていて、火花で、足の親指と人差し指の間をやけどした。(5歳 男児)
花火を人に向ける	娘の友達が花火を持ちながら急に娘のほうに振り向き、火花があたりそうになった。(4歳 女児)

(3) 製品・場面別：バーベキューの鉄板

〔図表7-3-1〕は、【バーベキューの鉄板】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

81件中、「鉄板を触る」が33件で最も多く、鉄板などに「近づく、ぶつかる」が24件、「食べ物を取ろうとして触れる」が11件となっている。



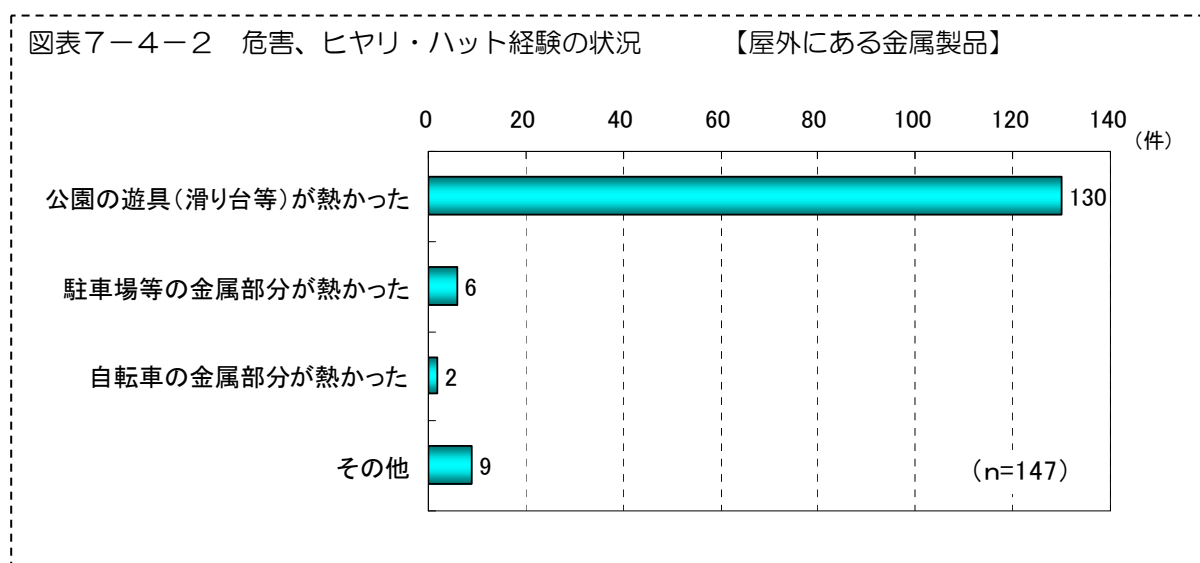
主な事例

鉄板を触る	川原で家族でバーベキューをしていたら息子が走ってきて鉄板を触ったらやけどした。(2歳 男児)
食べ物を取ろうとして触れる	屋外でバーベキューの際に焼いている最中の肉に直に手を伸ばした。(3歳 男児)

(4) 製品・場面別：屋外にある金属製品

〔図表7-4-1〕は、【屋外にある金属製品】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

147件中、「公園の遊具（滑り台等）が熱かった」が130件となっている。



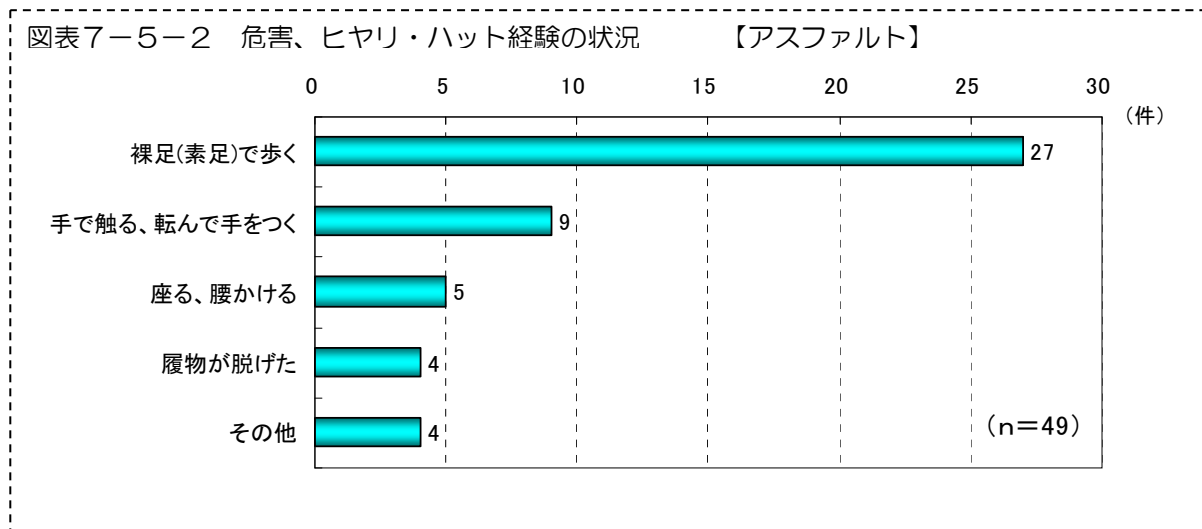
主な事例

公園の遊具が熱かった	日差しで滑り台が熱くなっていて、おしりをやけどした。(1歳 女児)
	8月、通りがかった公園で、ジャングルジムに登ろうとして触れたら熱かったようですぐに手を引っ込めた。(5歳 女児)
駐車場の金属部分が熱かった	8月、屋外の駐車場で車を出そうとしていたところ、子どもが機械式駐車場の上に座ってしまい、やけどをした。(0歳 男児)
その他	8月の真夏日に、屋上プールに入っている時、プールサイドの排水溝のアルミ部分に乗って足をやけどしそうになった。(1歳 女児)

(5) 製品・場面別：アスファルト

〔図表7-5-1〕は、【アスファルト】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

49件中、「裸足(素足)で歩く」が27件で最も多く、次いで「手で触る、転んで手をつく」が9件となっている。



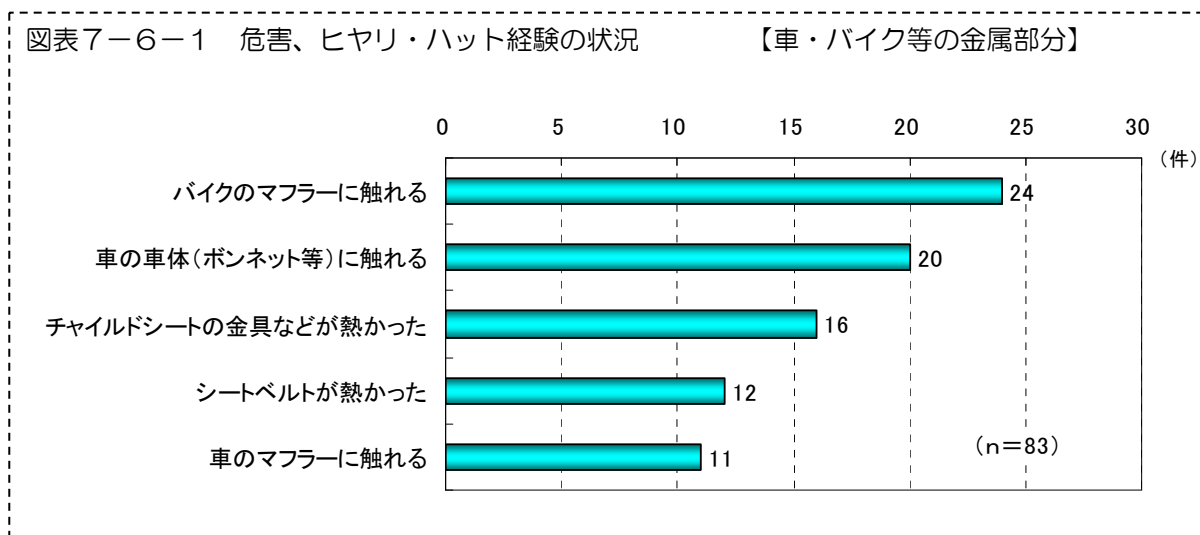
主な事例

裸足で歩く	夏の日中、芝生を裸足で遊んでいて、急にアスファルトに降りた時に、熱い思いをした。(2歳 女兒)
転んで手を付く	この夏、歩道で転んでしまい手を付いたときに熱かったらしく赤くなってしまった。(1歳 男児)

(6) 製品・場面別：車・バイク等の金属部分

〔図表7-6-1〕は、【車・バイク等の金属部分】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

83件中、「バイクのマフラーに触れる」が24件で最も多く、次いで「車の車体（ボンネット等）に触れる」が20件、「チャイルドシートの金具などが熱かった」が16件となっている。



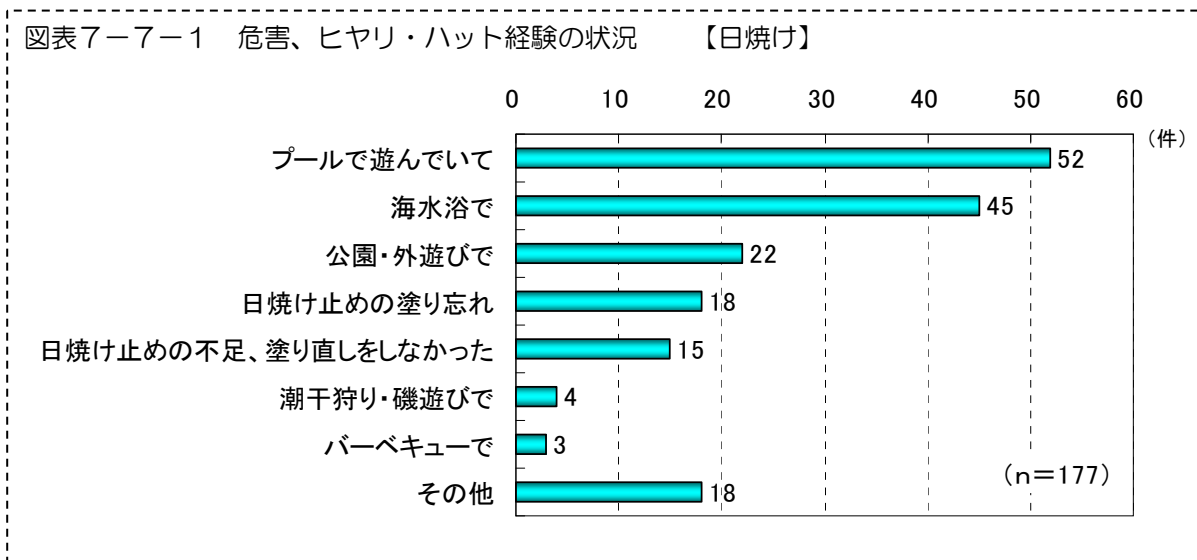
主な事例

バイクのマフラーに触れる	駐車してあったバイクのマフラーにふくらはぎが当たってしまいやけどした。(5歳 女児)
チャイルドシートの金具が熱かった	真夏の炎天下に駐車してあった車のチャイルドシートに載せようとしたら金具が熱くやけどしそうになった。(2歳 男児)
車のマフラーに触れる	ボール遊びを始めて、車の下に入ったボールを取りにもぐった際にマフラーに触れてやけどした。(5歳 男児)

(7) 製品・場面別：日焼け

〔図表7-7-1〕は、【日焼け】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

177 件中、「プールで遊んでいて」が 52 件で最も多く、次いで「海水浴で」が 45 件、「公園・外遊びで」が 22 件となっている。また、「日焼け止めの塗り忘れ」が 18 件、「日焼け止めの不足、塗り直しをしなかった」が 15 件と日焼け止めに関する記載も見られた。



主な事例

プールで遊んでいて	娘が、プールで午前中遊んでいたら、午後すぐに肩と首が赤くなり熱をもって「熱い熱い」と言い出した。(3歳 女兒)
外遊びで	公園へ外出した際、思ったよりも夢中になって遊んでいたため、夕方、息子の鼻・頬・腕が赤くなり痛がった。(4歳 男児)

(8) 製品・場面別：自動販売機の飲料

【自動販売機の飲料】における、危害、ヒヤリ・ハット経験は6件で、状況としては、缶などの「容器が熱かった」、中身の「飲料が熱かった」が挙げられている。

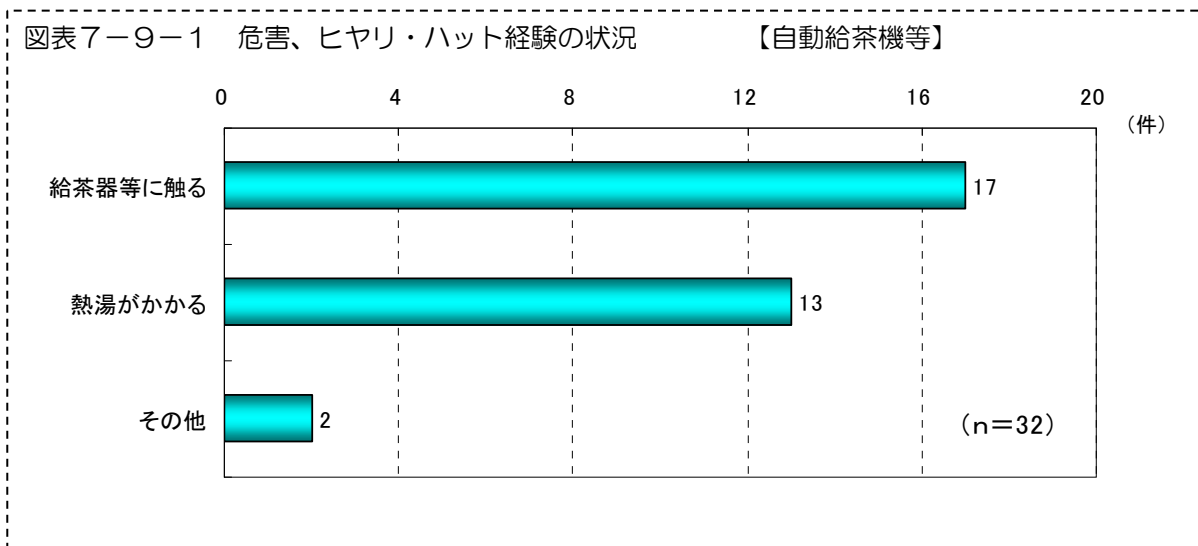
主な事例

容器が熱かった	ホットコーヒーの缶を、「熱いよ」と注意したにもかかわらず触った。(1歳 男児)
飲料が熱かった	寒い冬の時に、自動販売機でコーンポタージュを買って飲ませたら、思いのほか熱かったよう。(0歳 男児)

(9) 製品・場面別：自動給茶機等

〔図表 7 - 9 - 1 〕は、回転寿司やファミリーレストラン等にある【自動給茶機等】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

32 件中、「給茶器等に触る」が 17 件、「熱湯がかかる」が 13 件となっている。



主な事例

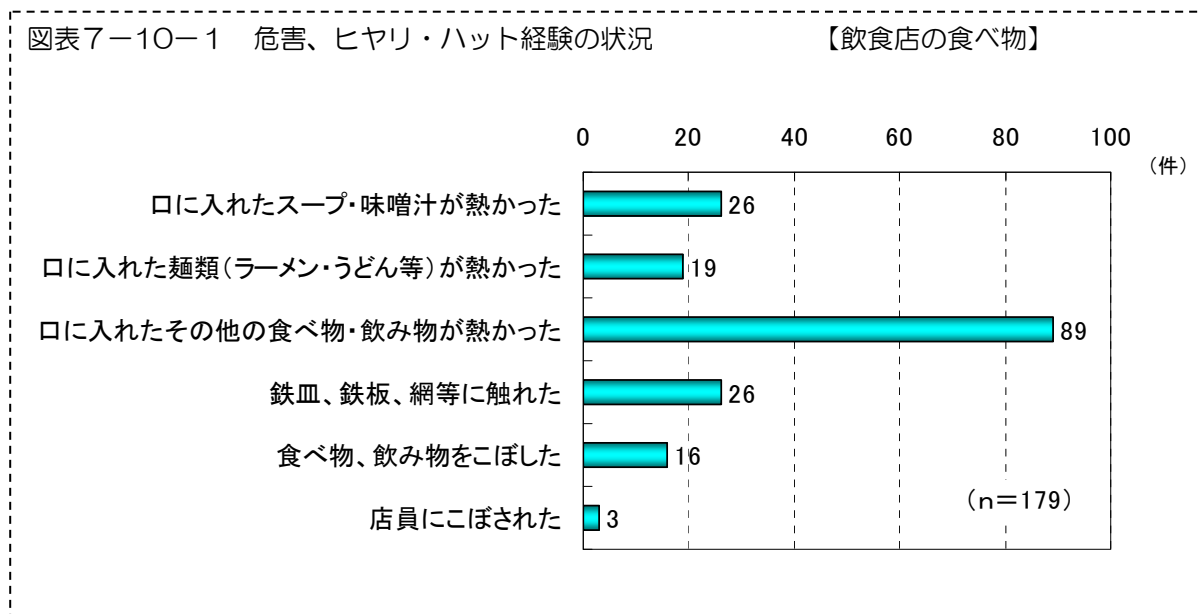
給茶機等に触る	ファミレスのドリンクバーのお湯が出てくるところを触りそうになった。(5 歳 男児)
熱湯がかかる	回転ずしのカウンターの給茶機を触って、父親があわてて、やめさせようとしたところ、お茶をこぼし、やけどした (1 歳 男児)

(10) 製品・場面別：飲食店の食べ物

〔図表7-10-1〕は、【飲食店の食べ物】における、危害、ヒヤリ・ハット経験時の状況について集計したものである。

179 件中、「スープ・味噌汁が熱かった」が 26 件、「麺類（ラーメン・うどん等）が熱かった」が 19 件、「その他の食べ物・飲み物が熱かった」が 89 件と、熱い食べ物をそのまま口に入れてしまった経験が多くを占めている。

その他に、「ハンバーグの鉄皿や焼肉店の網等に触れた」（26 件）、「飲み物・食べ物をこぼした」（16 件）等の経験が挙げられている。



主な事例

口に入れたスープ・味噌汁が熱かった	レストランで出された子供用ランチのスープが熱く、口の中をやけどした。(3歳 女兒)
口に入れた麺類が熱かった	子供用のうどんが、思った以上に熱い。親が食べさせていた時は良かったが、自分で食べようとして、冷まらずに口に入れてしまい、熱くてはきだした。(2歳 女兒)
口に入れたその他の食べ物・飲み物が熱かった	目を離した隙に、大皿に盛ってある熱々のポテトフライに子供が手を伸ばして、口に入れ、口の中をやけどした。(2歳 女兒)
鉄皿、鉄板、網等に触れた	ファミレスでハンバーグの加熱用の石のようなものに触れ、指をやけどした。(男児 年齢不明)
食べ物、飲み物をこぼした	飲食店で淹れたてのコーヒーを子どもがカップを倒して、身体全体にかかってしまった。身体(お腹から足)が赤くなったので、救急搬送された。(0歳 女兒)

(11) 製品・場面別：その他（住宅以外）

下表は【その他（住宅以外）】の危害、ヒヤリ・ハット経験の主な事例を挙げたものである。

主な事例

自転車のシート	自転車の駐輪場が戸外だったので、朝乗るときシートが熱くなり熱がった。(2歳 男児)
マッチ	自分で出来ると言ってマッチを擦り線香に火を付けようとしたが、なかなか火が移らず、マッチの火を下にして持ったこともあり、軸が燃え尽き、火傷しそうになった。(5歳 女児)
お線香	お墓参りでお線香をあげる際に灰が手に落ち、やけどをした。(4歳 男児)
自転車のチャイルドシート	チャイルドシートが黒く、日向に置いてあったのですごく熱く座らせた瞬間大泣きで気づいた。(1歳 男児)

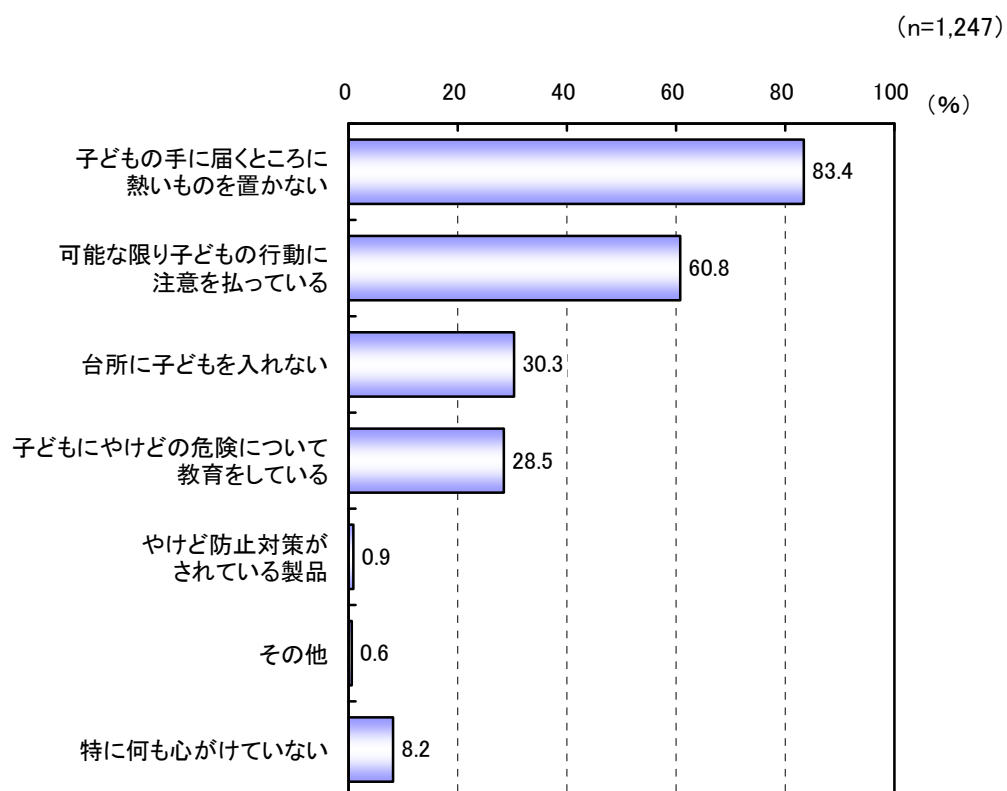
8. やけどへの意識について

(1) 子供がやけどにならないようにこころがけていること

〔図表8-1-1〕は、『ヒヤリ・ハット経験も危害経験も無い』と回答した1,247人に対し、子供がやけどにならないようにこころがけていることを質問した結果である。

「子供の手に届くところに熱いものを置かない」(83.4%)と答えている人が8割を超えており、次いで「可能な限り子供の行動に注意を払っている」が60.8%、「台所に子供を入れない」が30.3%と続いている。

図表8-1-1 子どもがやけどにならないようにこころがけていること（複数回答）

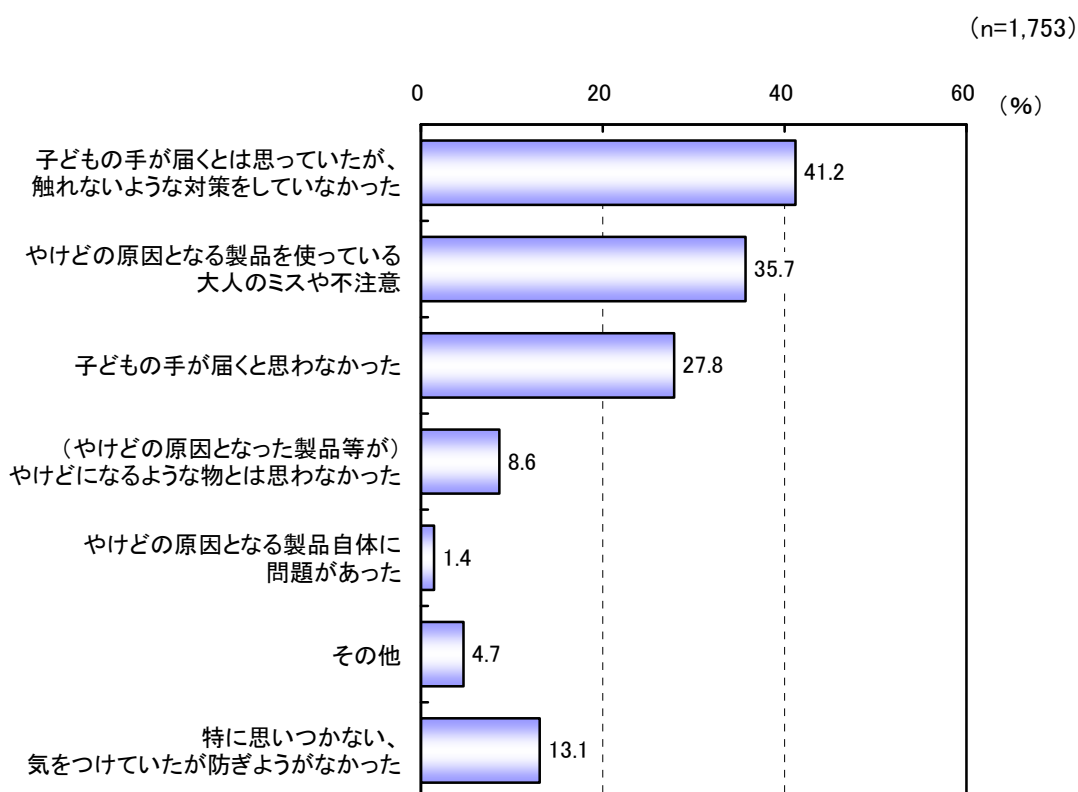


(2) 子供がやけどの危害、ヒヤリ・ハット経験した原因と思うこと

〔図表8-2-1〕は、子供が『ヒヤリ・ハット経験又は危害経験がある』と答えた1,753人に対し、子供がやけどの危害、ヒヤリ・ハット経験した原因として思いつくものについて質問した結果である。

「子供の手が届くとは思っていたが、触れないような対策をしていなかった」(41.2%)が4割強で最も高く、次いで「やけどの原因となる製品を使っている大人の実ミスや不注意」(35.7%)が3割台半ばと、保護者をはじめとする大人が気をつけていれば防げたと考えている方が多い一方、「子供の手が届くと思わなかった」(27.8%)や「やけどになるような物とは思わなかった」(8.6%)と大人の想定を超えたところでもやけどの危害、ヒヤリ・ハットが発生していることがわかる。

図表8-2-1 子供がやけどの危害、ヒヤリ・ハット経験をした原因と思うこと(複数回答)



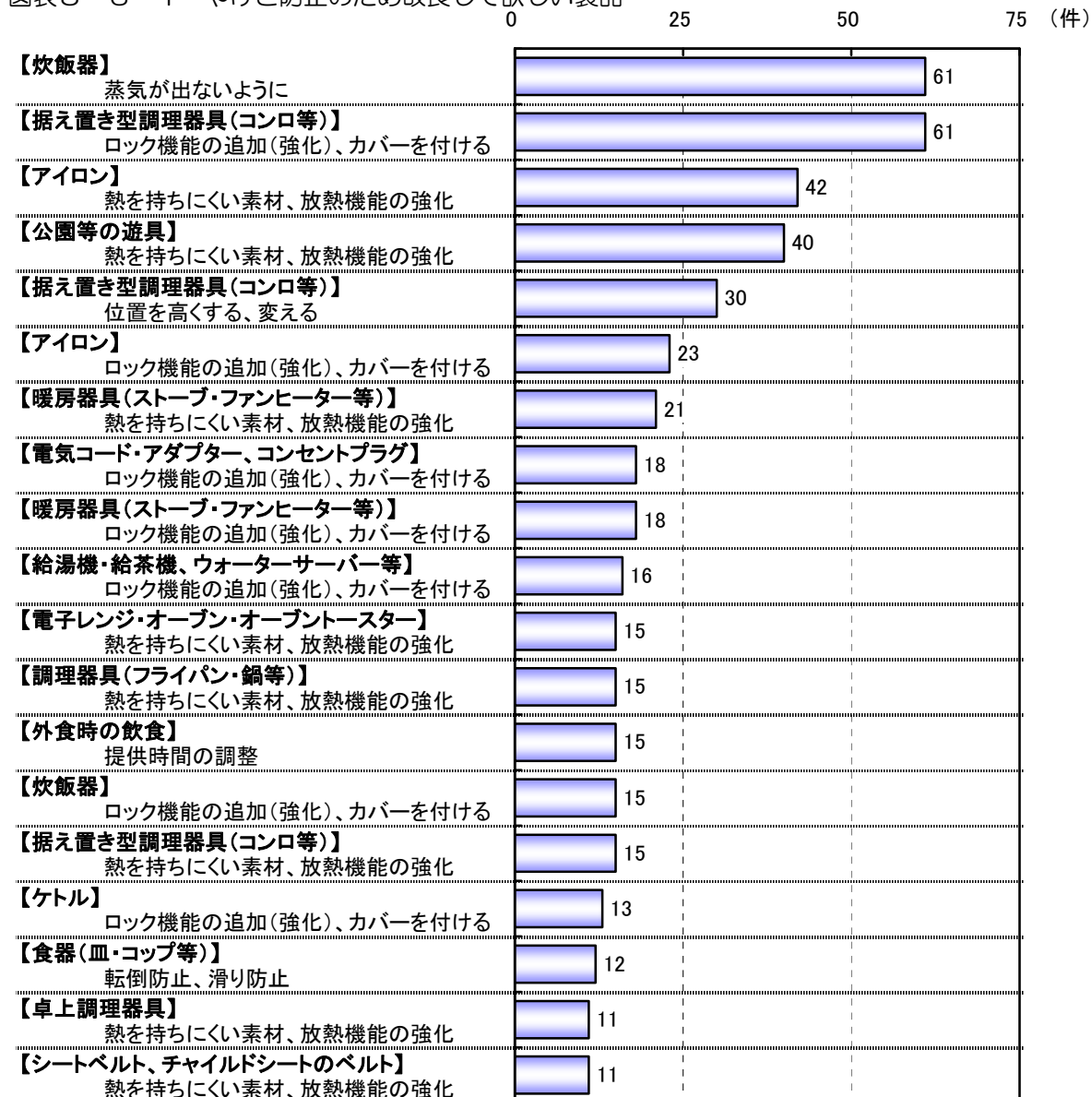
(3) やけど防止のため改良して欲しい製品

〔図表8-3-1〕は、今回の調査対象者3,000人に対し、やけど防止のため改良して欲しい製品について質問した結果である。

「【炊飯器】蒸気が出ないように」及び「【据え置き型調理器具(コンロ等)】ロック機能の追加(強化)、カバーを付ける」が共に61件で最も多くなっている。次いで「【アイロン】熱を持ちにくい素材、放熱機能の強化」が42件、「【公園等の遊具】熱を持ちにくい素材、放熱機能の強化」が40件、「【据え置き型調理器具(コンロ等)】位置を高くする、変える」が30件となっている。

なお、「やけどしそうな製品や、改良して欲しい製品は特にない」、「保護者が注意することで、子供のやけどを防ぐことができる」等と回答した人は1,866人と回答者の6割以上を占めている。

図表8-3-1 やけど防止のため改良して欲しい製品



9. まとめ

(1) 全体の傾向

ア 今回の調査においては、調査対象である回答者の子供の6割近くがやけど危害、若しくはヒヤリ・ハットの経験があると回答している。

イ やけどの危害、ヒヤリ・ハット経験が発生した場所を見ると、住宅内の居室・居間や台所での事案が多く発生しているが、「太陽に熱せられたすべり台でやけどした。」「駐車したばかりの車のマフラーに触れてやけどした。」等、住宅以外の場所における危害、ヒヤリ・ハット経験も多く、乳幼児のやけどの危険は様々なところに潜んでいることがわかる。

(2) やけどの危害、ヒヤリ・ハット事例

危害、ヒヤリ・ハット事例の多くは、

ア 「保護者がガスコンロで調理中に子供がフライパンに触ろうとした。」「保護者がアイロンをかけていた近くで遊んでいた子供が転倒して、アイロンに触れた。」等、大人が製品等を使っている時に発生する事例

イ 「炊飯器の蒸気に興味を持ち触る。」「ファンヒーターの吹き出し口に物を入れる。」や「花火を自分に向けた。」のように、子供自身の行動により発生している事例

に二分される。

(3) 保護者の意識

子供がやけどにならないように心がけている事の多くが、「手の届くところに熱いものを置かない。」「子供の行動に注意を払う。」という回答で、保護者である大人が気をつけていればやけどは防げると考えている方が多い。

一方、やけどをさせたしまった要因として「子供の手が届くと思わなかった。」「(やけどの原因となった物が)やけどをするような物と思わなかった。」等、保護者の想定を超えたところでもやけどが発生していることもわかる。

乳幼児のやけどを防ぐために

周りの大人が、「手の届くところに熱いものを置かない。」「子供の行動に注意を払う。」等、対策を講じることはもちろん、思ってもみない子供の行動や意外な物や場所でやけどが発生していることから、子供の成長に合わせ、再度、子供の身の回りの物に危険が無いかチェックしていくとともに、やけどの危険が少ない製品（倒れてもお湯がこぼれない、高熱の蒸気が出ない等）を選択し、少しでも子供の周りのリスクを低減していくことが重要です

また、子供の成長に応じてやけど、火災の危険や製品、遊具等の正しい使い方について説明し、子供が自分でやけどを防げるように教育していく必要もあります。

平成 25 年度ヒヤリ・ハット調査
「乳幼児のやけどの危険」
報告書

平成 2 6 年 2 月
東京都生活文化局 消費生活部
生活安全課 商品安全係

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
都庁第一本庁舎 27 階中央
TEL : 03-5388-3055 (内線 29-853)